
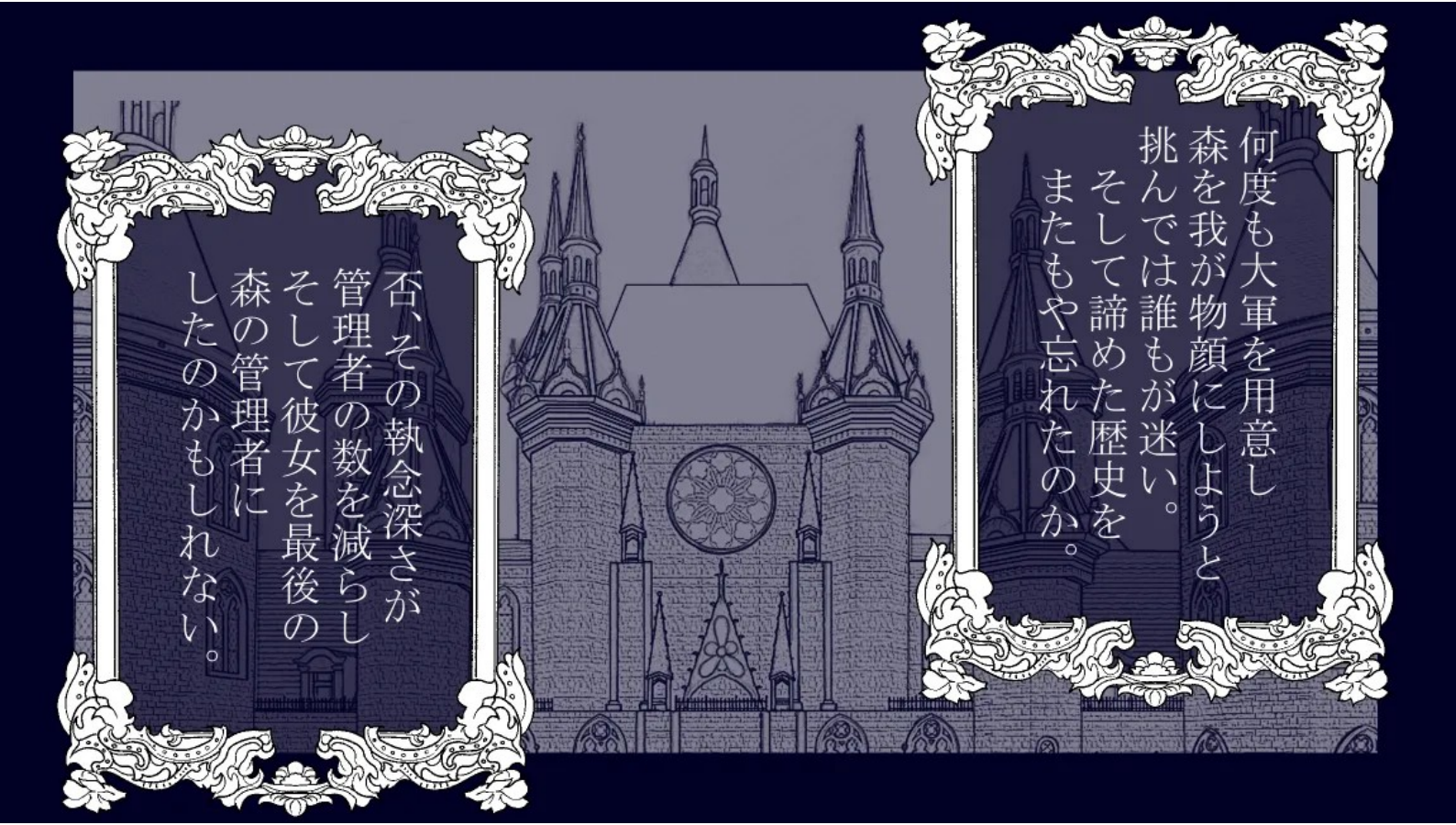


森の管理者と  
捨てられ護<sup>ごへい</sup>兵



それを  
愛らしさと呼ぶべきか  
愚かと問うべきか  
人間は都合良く忘れ  
同じ過ちを繰り返す。

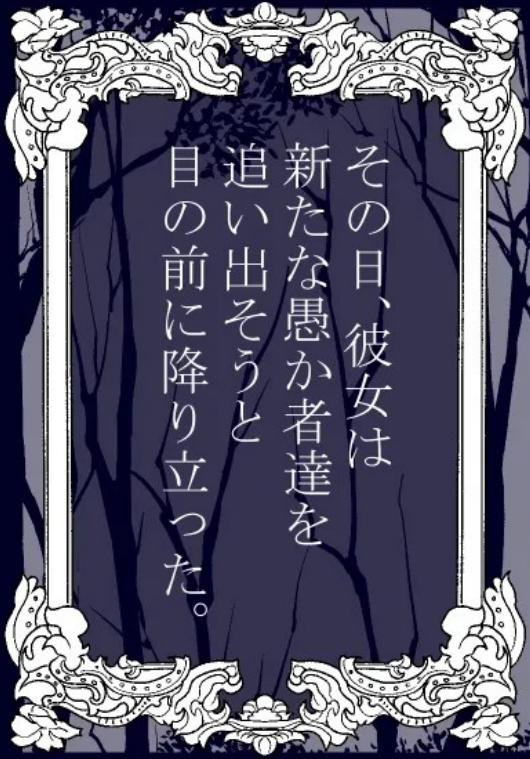


何度も大軍を用意し  
森を我が物顔にしようと  
挑んでは誰もが迷い。  
そして諦めた歴史を  
またもや忘れたのか。

否、その執念深さが  
管理者の数を減らし  
そして彼女を最後の  
森の管理者にし  
たのかもしれない。

豊かな恵みを護る  
広大な森の管理者  
クイーンと呼ばれる  
恐ろしい存在。





その日、彼女は  
新たな愚か者達を  
追い出そうと  
目の前に降り立った。

一話目

《捨てられ護<sup>ごへい</sup>兵》

なんで魔族がッ!?  
聞いてないわよッ

プラントが...

ウニ...

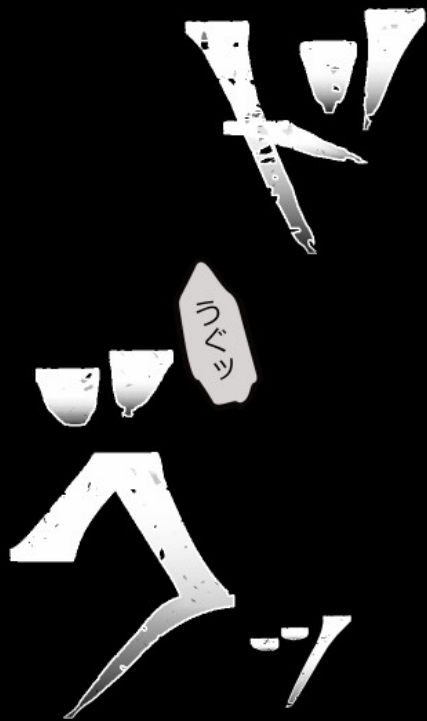
ウニ...

ウニ...

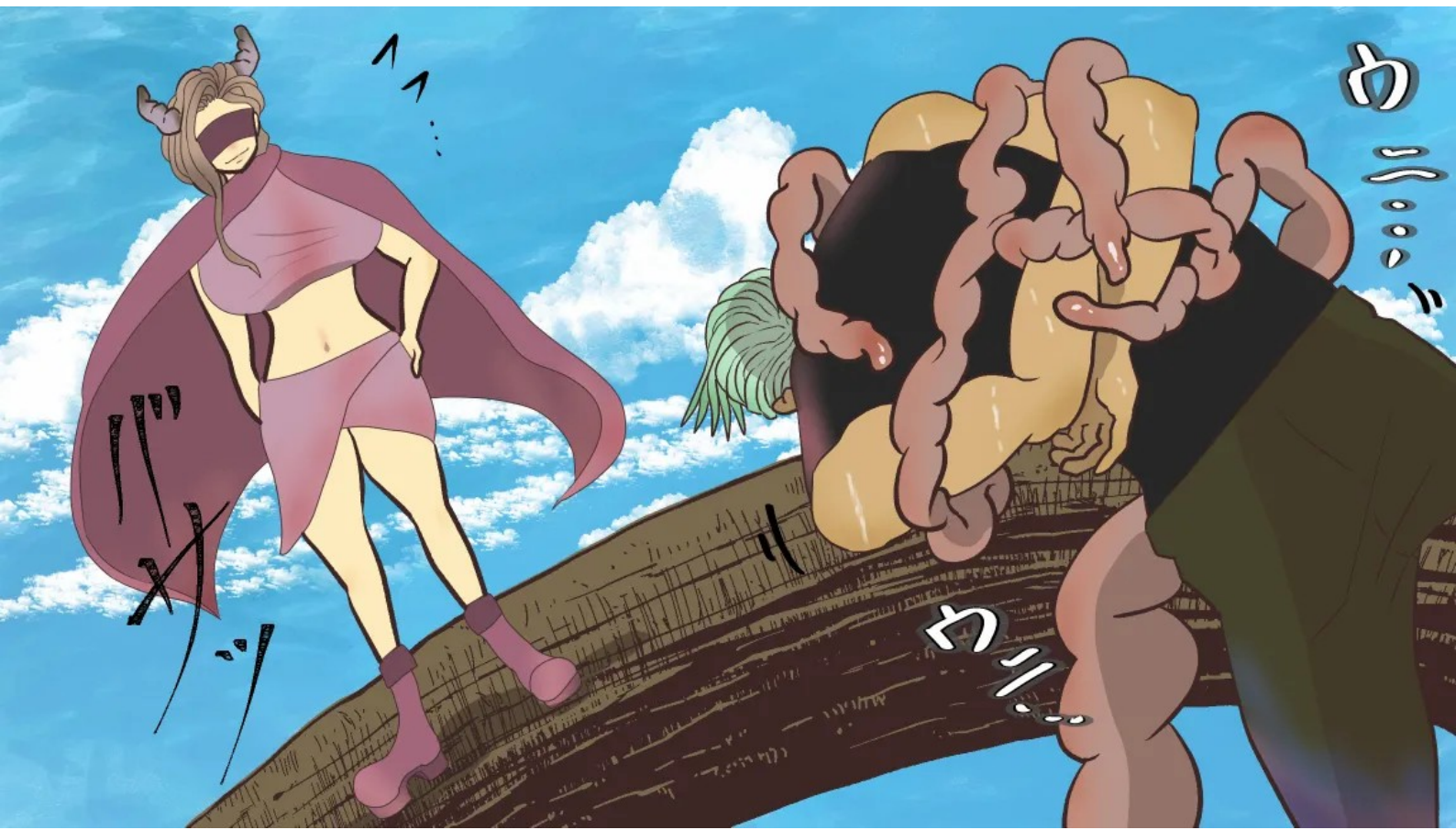
おいッ  
荷物を落とせ!

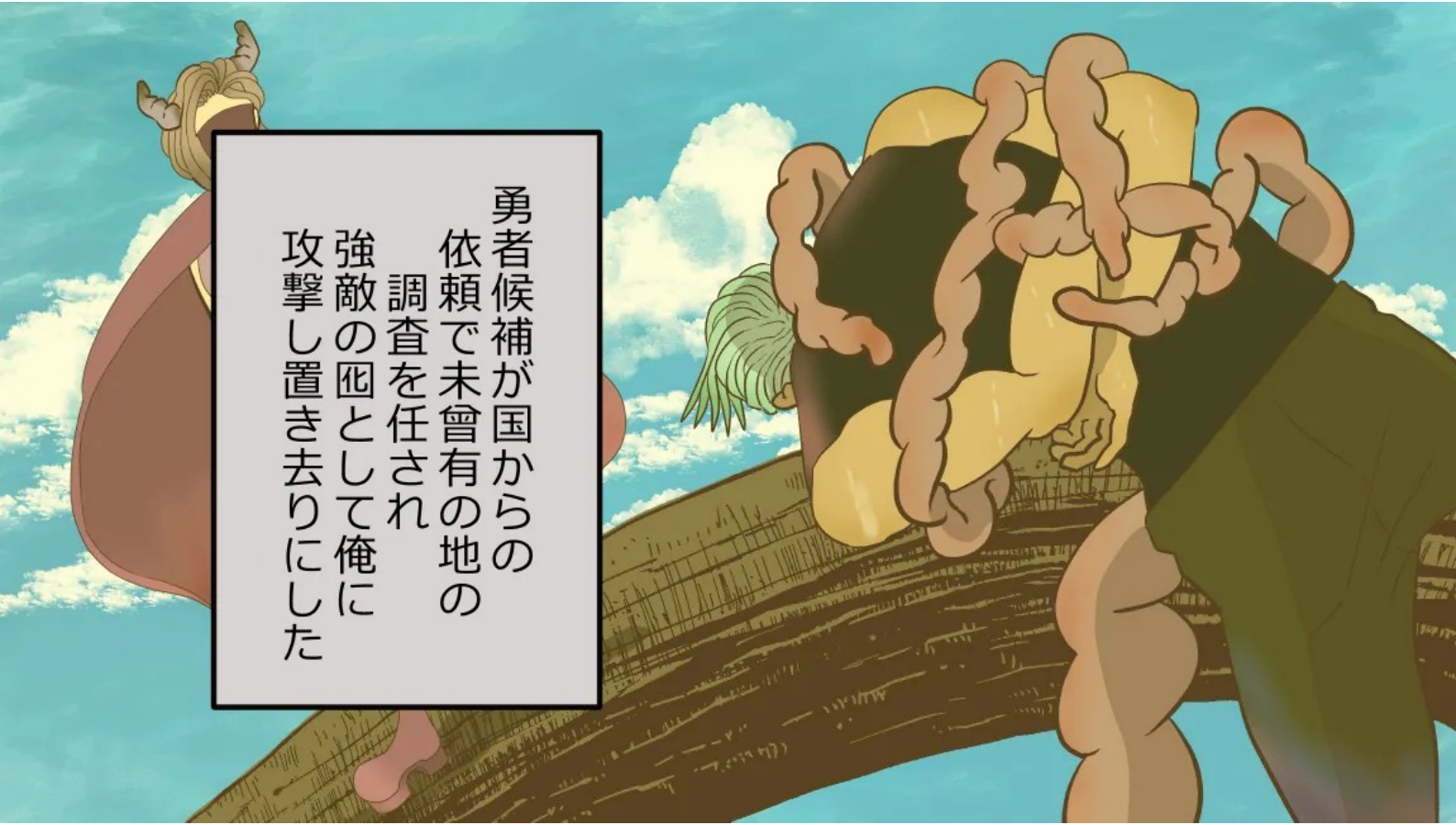


大して使えないと言われる  
【案内人】という道案内の  
特殊能力しかない孤児出身の  
俺が勇者候補達と共に  
国開発の一員に選ばれたのは



他と比べれば比較的  
荷物が持て持久力があり  
そして孤児という  
安く代えのきく  
存在だからだろう…





勇者候補が国からの  
依頼で未曾有の地の  
調査を任され  
強敵の囷として俺に  
攻撃し置き去りにした



仲間一人を  
護れないなんて  
情けない  
勇者一行だな！



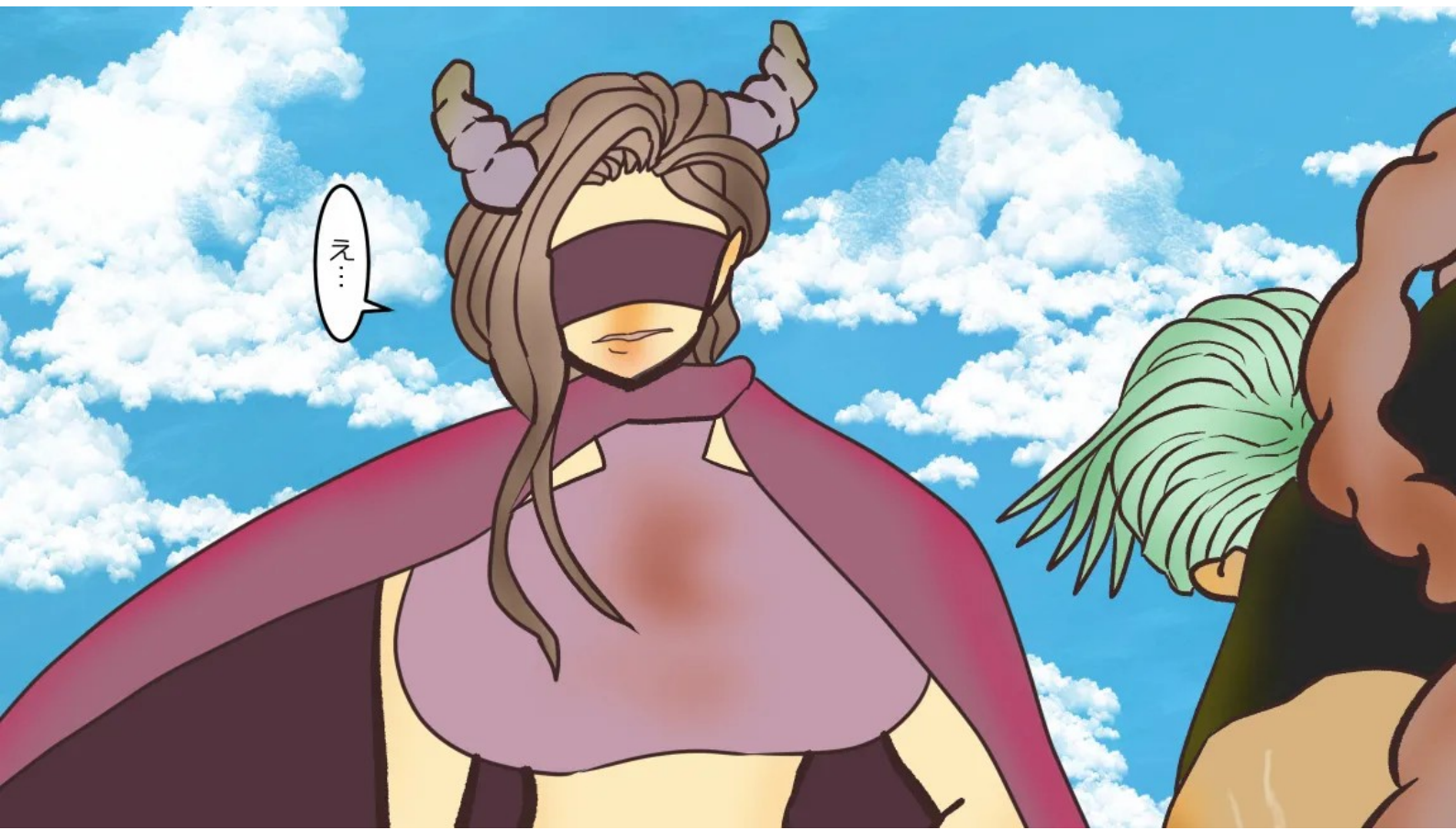
さあ！

「ロイツの命

ムシ

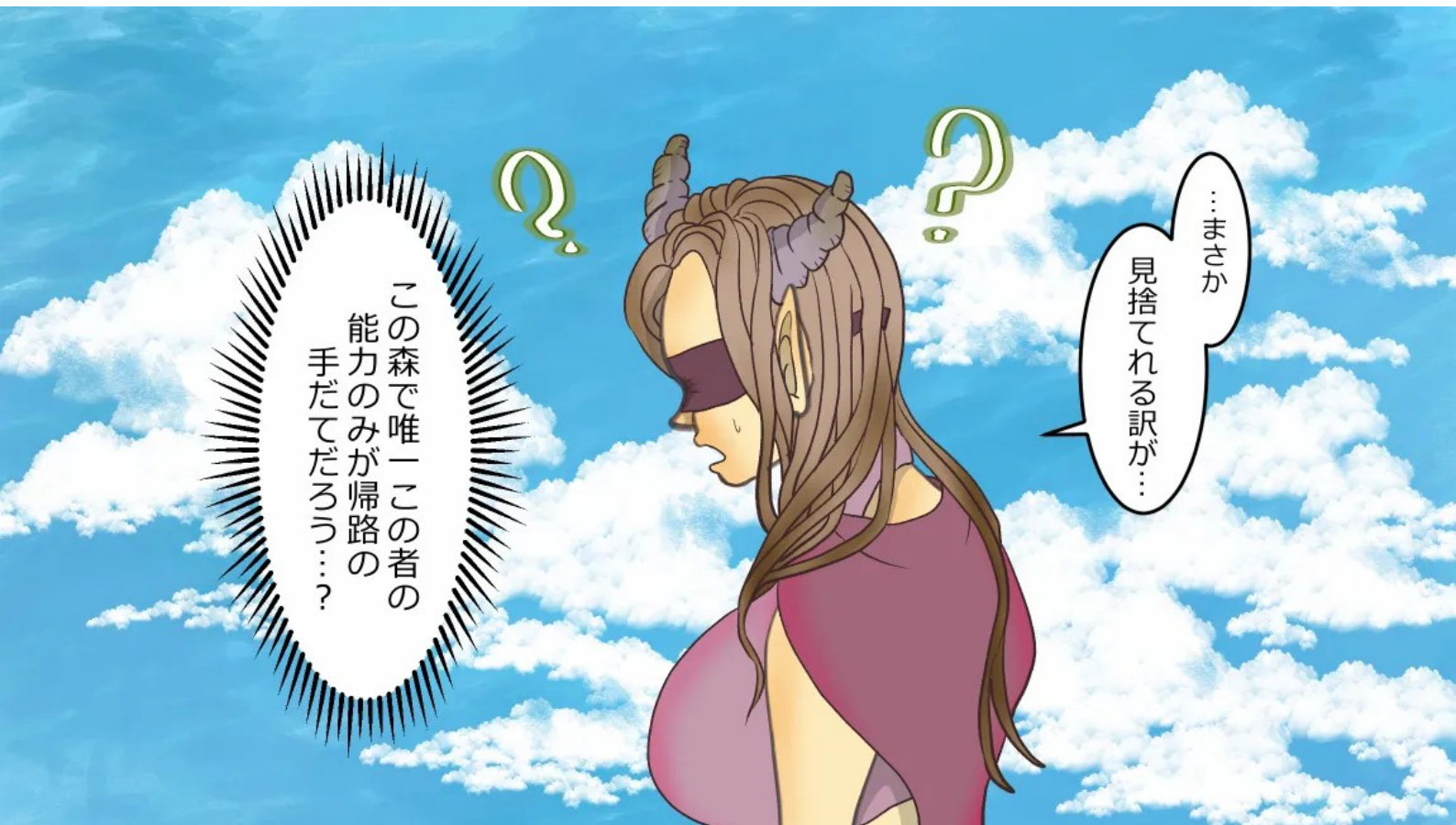
助けて  
欲しければ

此処から  
立ち去れ！



え  
...





この森で唯一この者の  
能力のみが帰路の  
手だてだろう…？

…まさか  
見捨てれる訳が…




否…毘の可能性が高いか



!?

やわやわ...

ほぎ...  
俺みたいのは  
代えがきくからね...



なんてことだ…  
人の愚かさを  
先代は嘆いていたが  
まさか想像の出来ぬ程の  
愚かさとは…



この状況で  
生き残るのは  
難しいだろうな…



ど、ど、どする……？  
一族の地を荒らさないよう  
脅かしてたら置き去り……

殺すつもりなんて  
無いが……しかし  
舐められる訳には……

……ッ

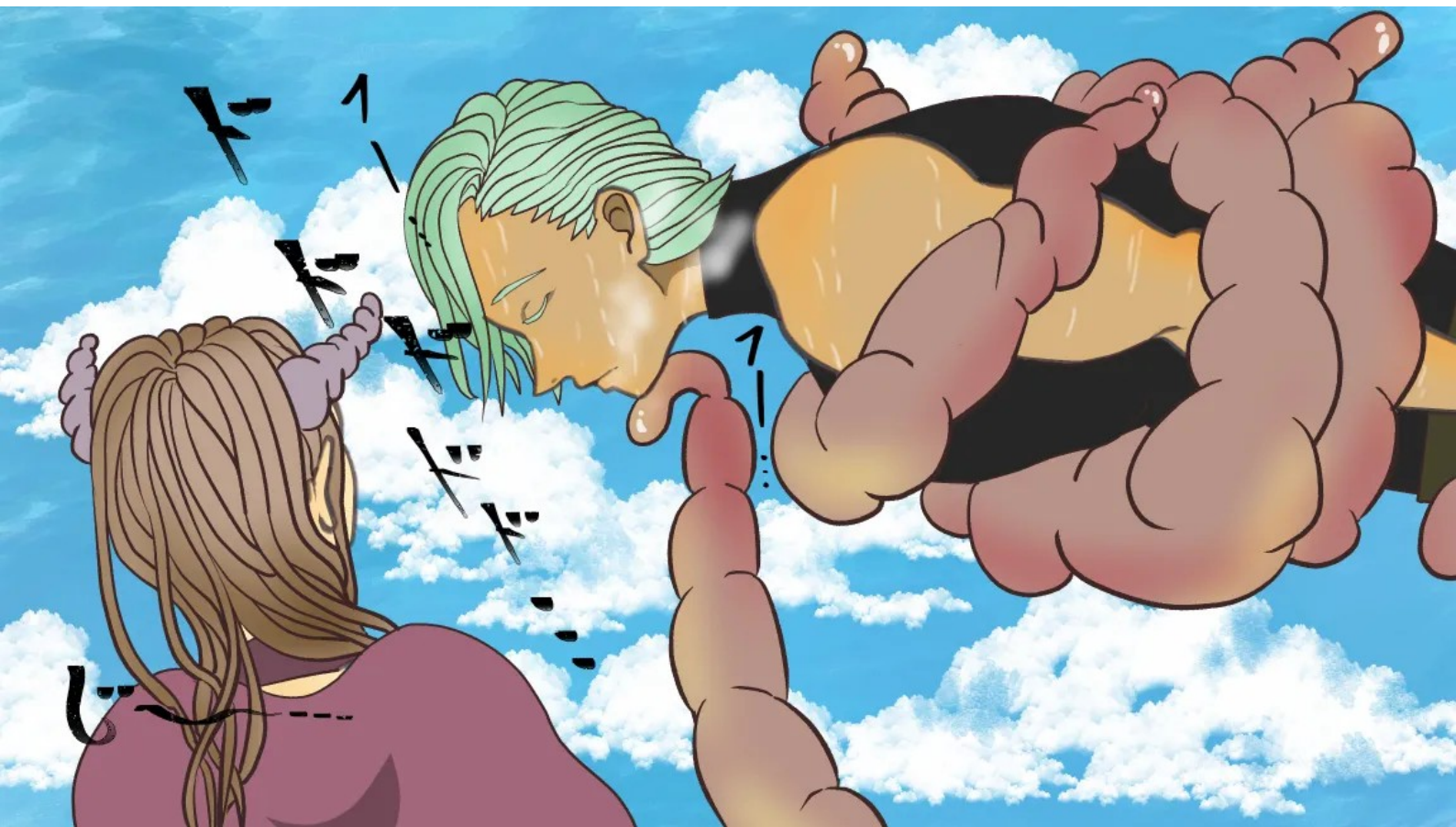


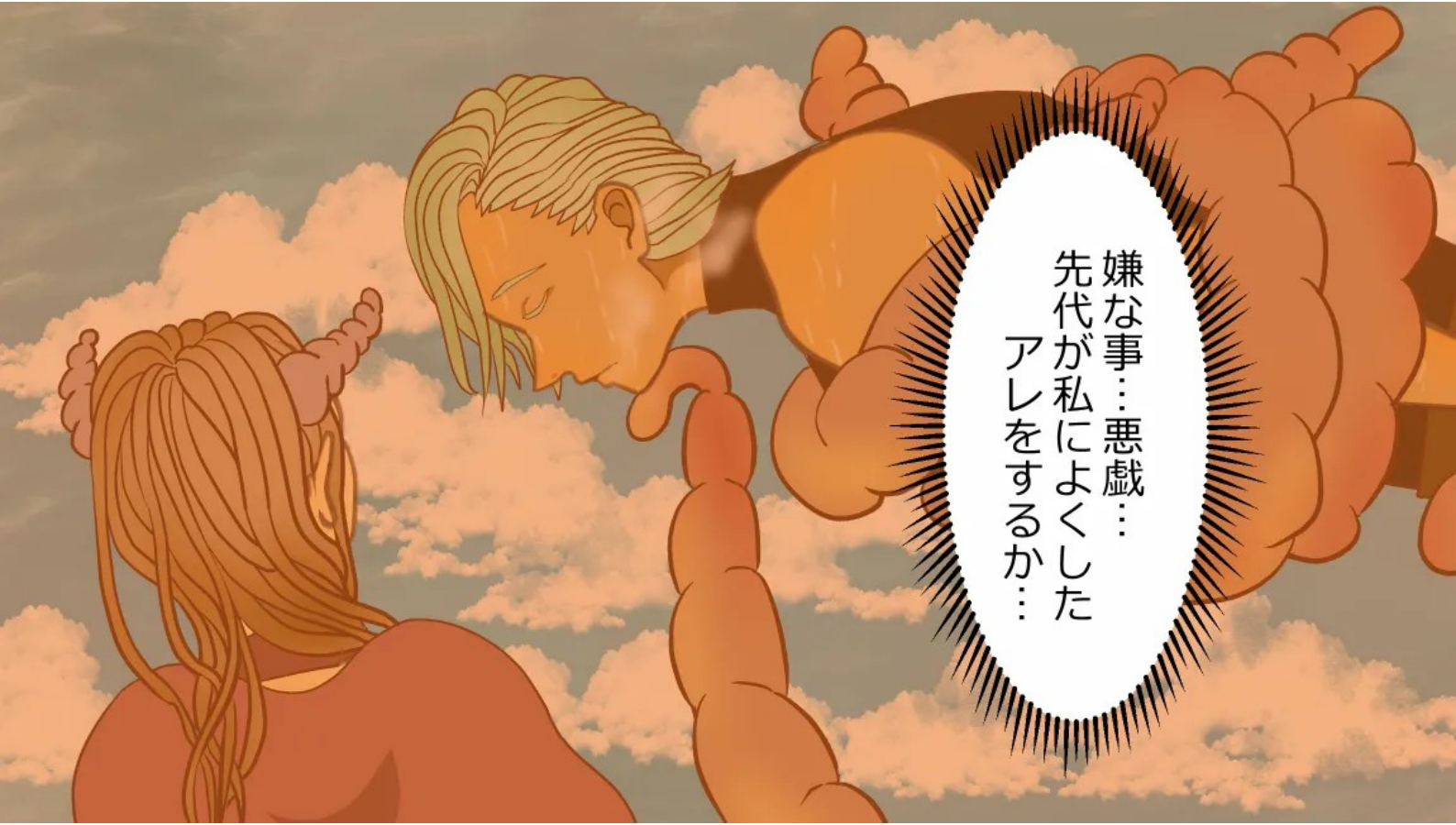
今回の資金が入ったら  
あいつら  
孤児院に祝賀祭用の  
贈り物をするって  
約束したのにな……



そうやってコイツを  
二度と来なくさせる！

落ち着け：そうだ…！  
嫌がらせをするんだ！





嫌な事…悪戯…  
先代が私によくした  
アレをするか…

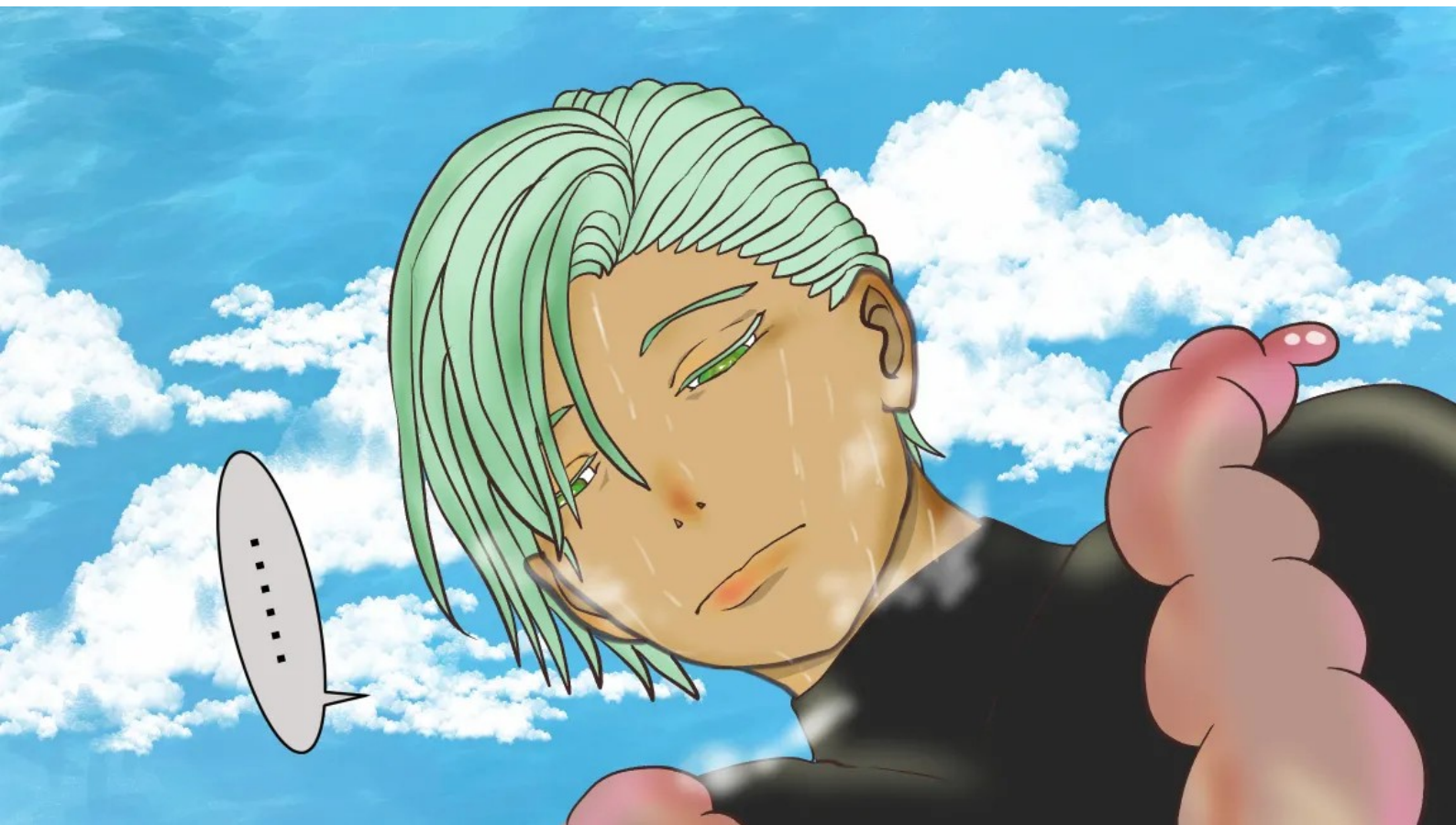


インッ

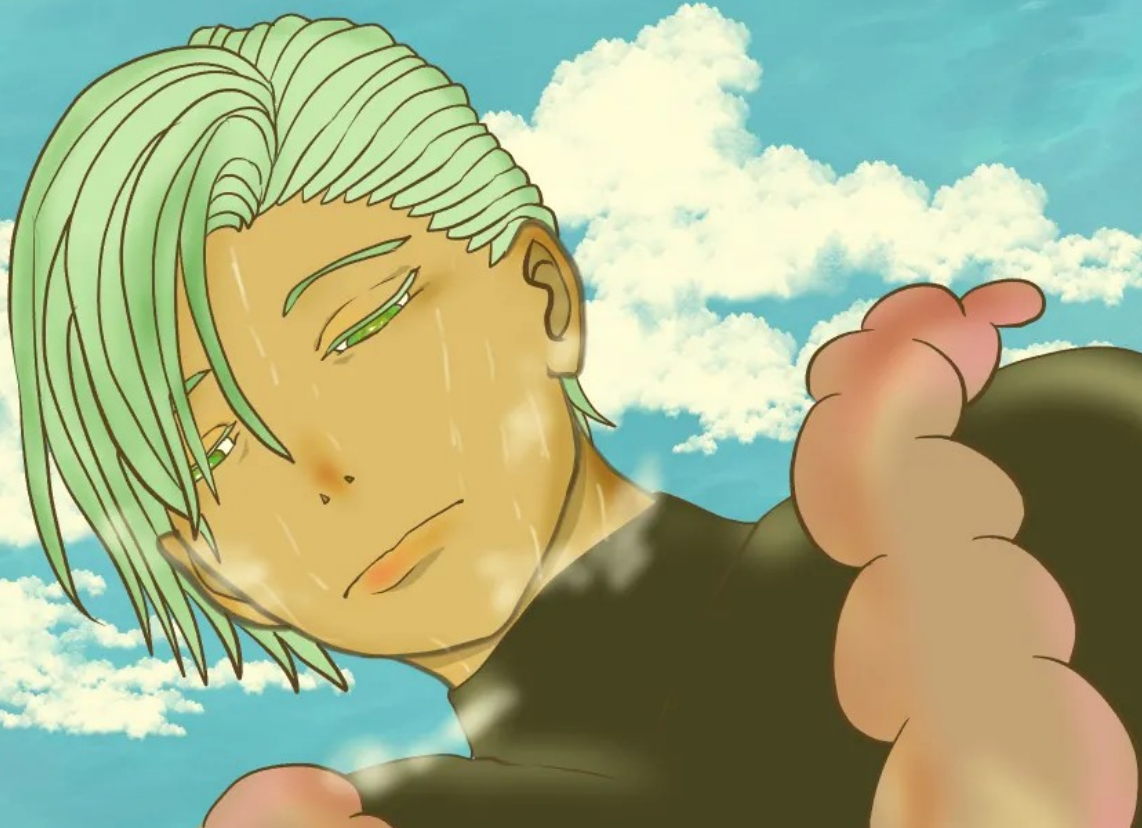
人族よ  
お前達は

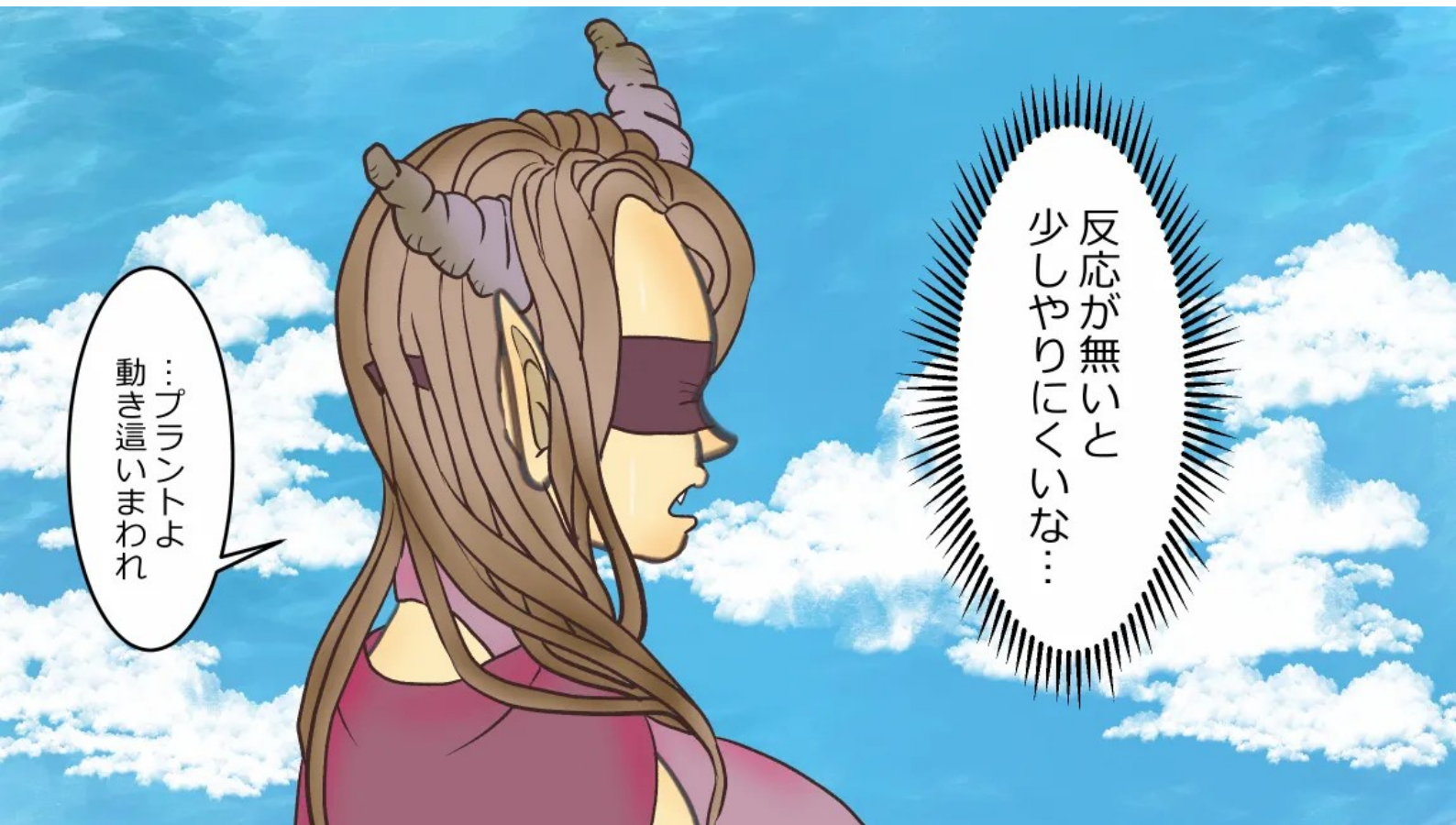
我々の地へ  
無断で押し入った

その身をもって  
償わせてやろう



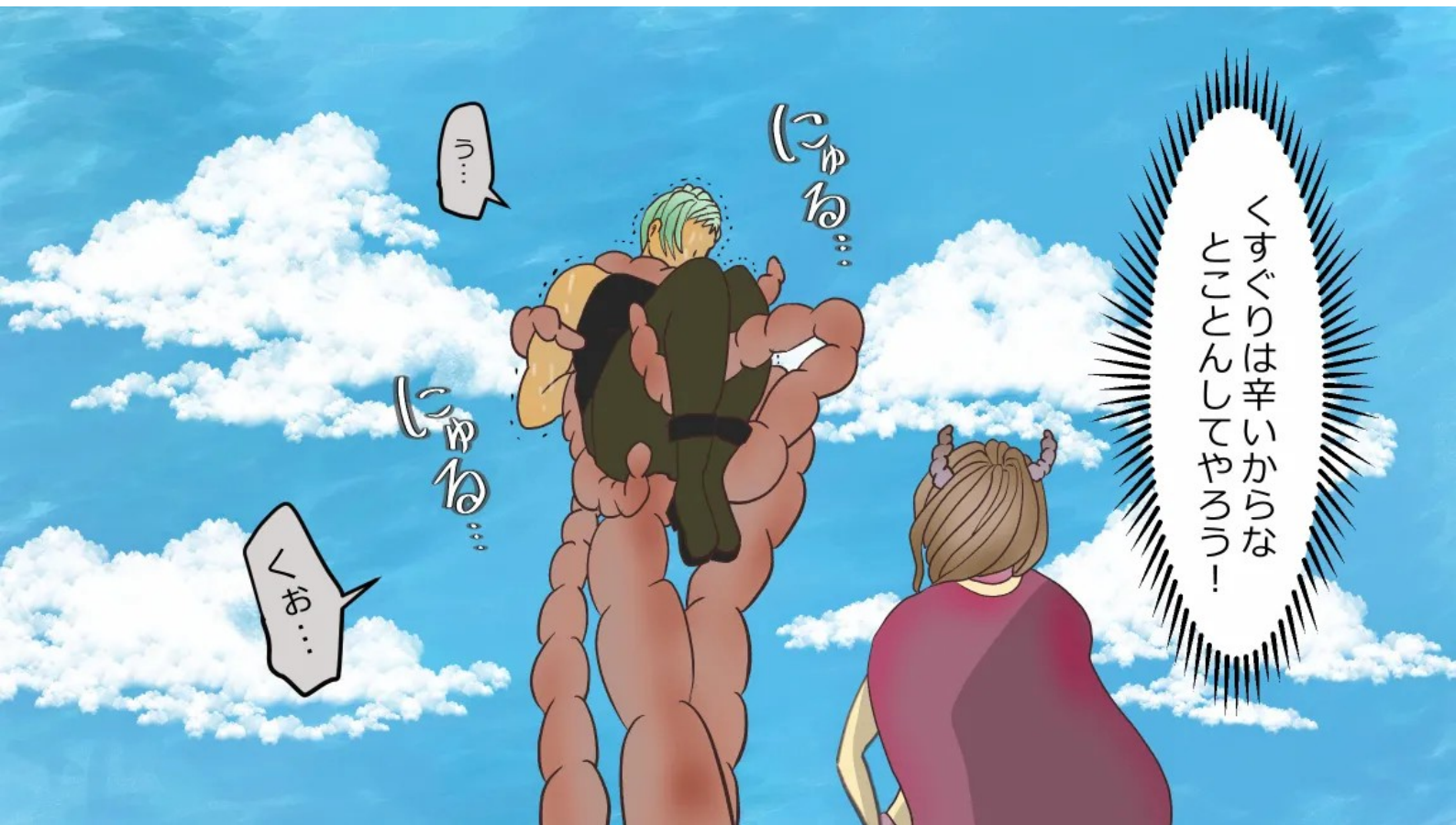
下手に喋れば  
醜く喚きそうだ





…プラントよ  
動き這いまわれ

反応が無いと  
少しやりにくいな…



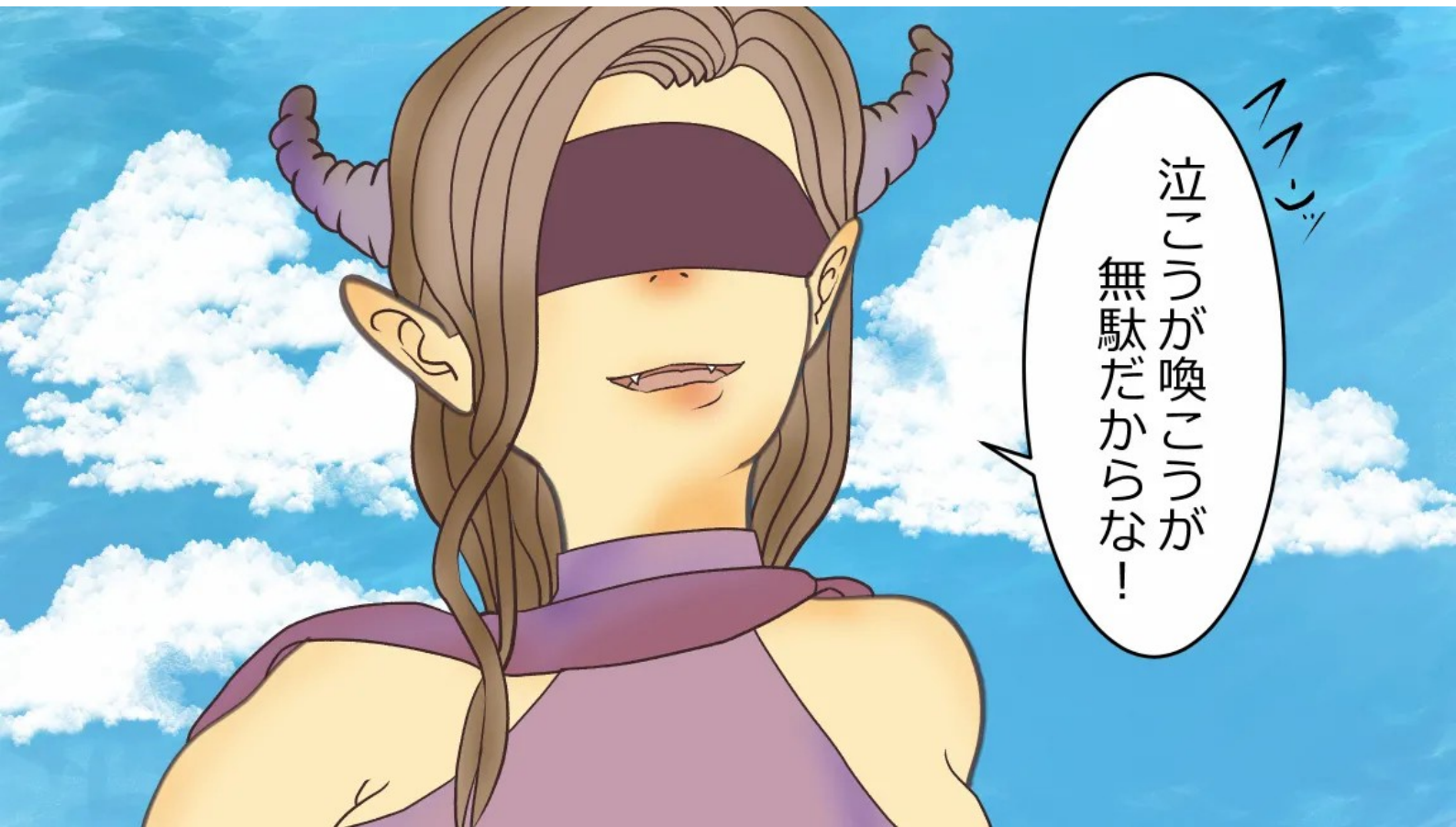
う...

じゅね...

じゅね...

くお...

くすぐりは辛いからな  
とことんしてやるう！



泣こうが喚こうが  
無駄だからな！

フフンッ



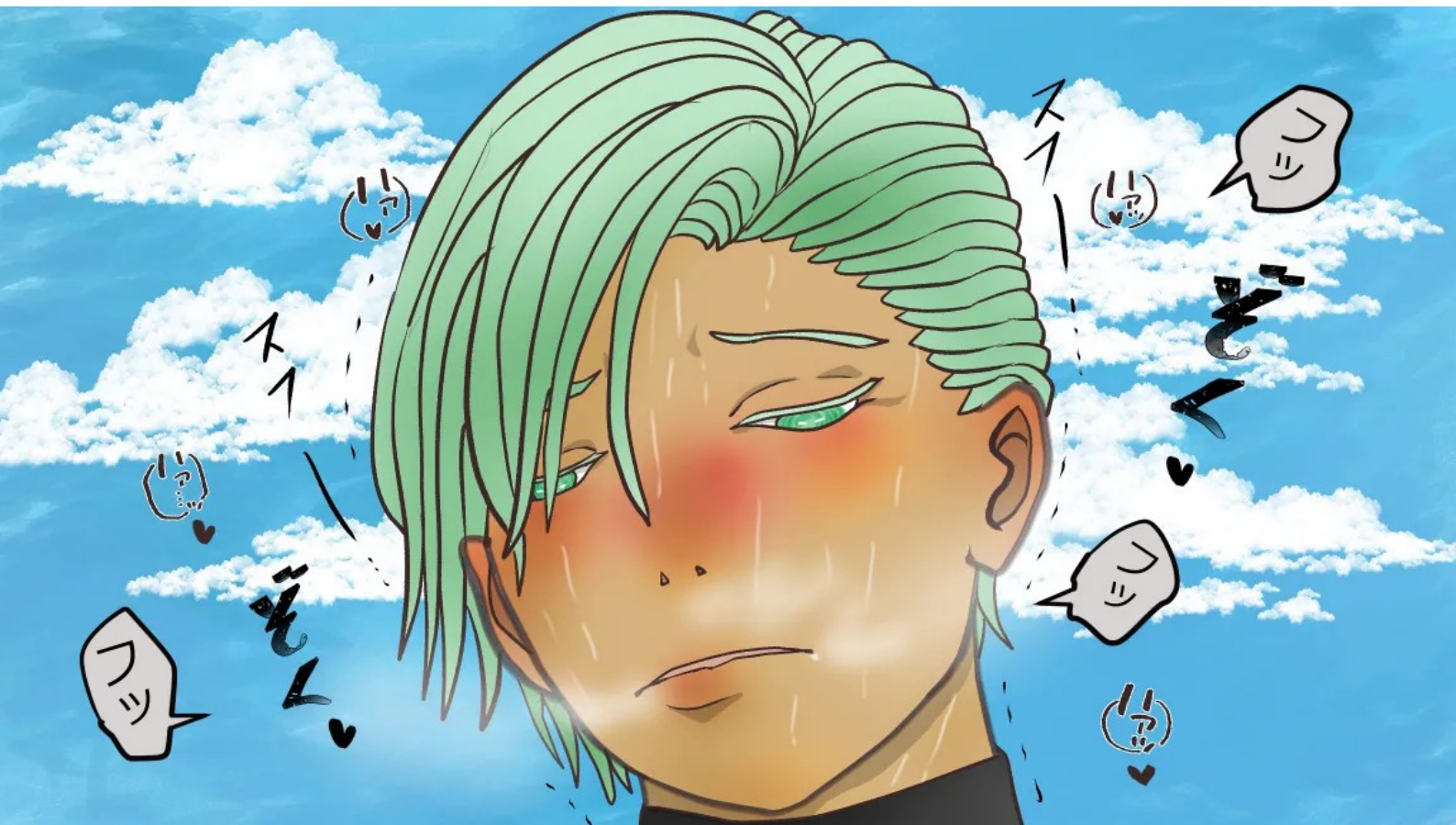


これ……  
な、なんだか  
動きが……ッ



確か：魔植物マブアントによつては  
対象者を苗床にして  
数を増やすというが…



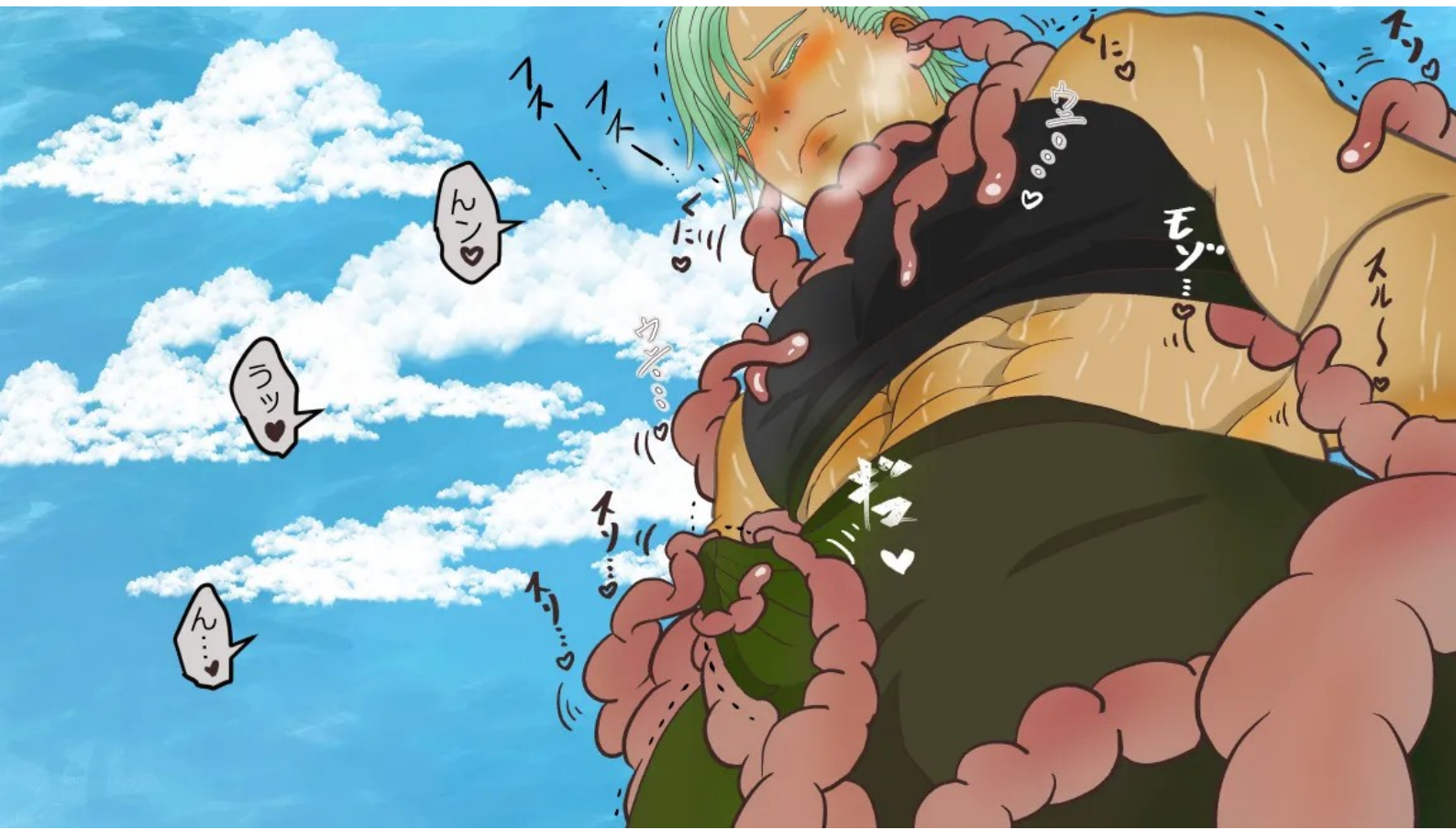




ふむ…

耐えている  
ようだが…

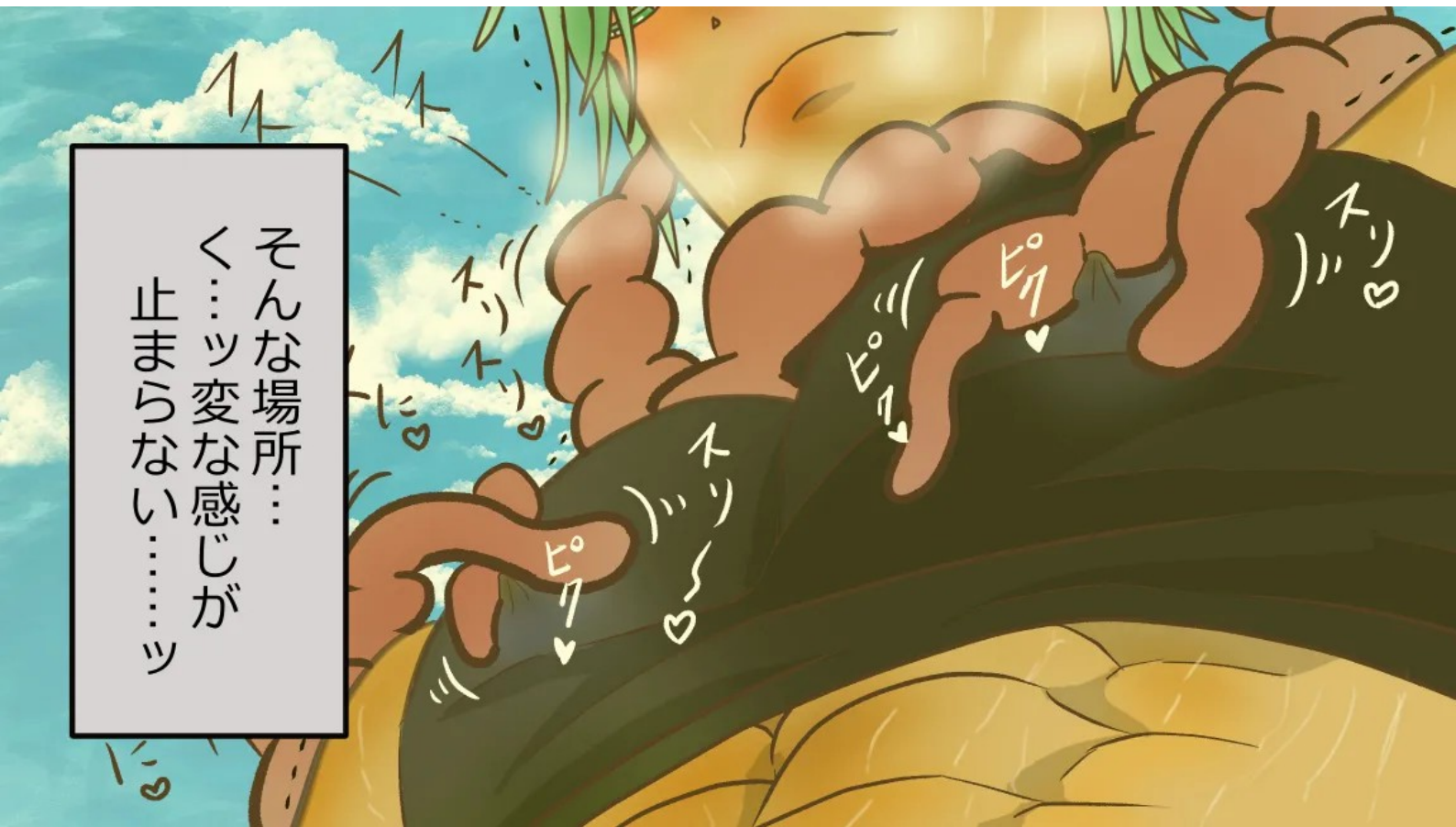
泣き疲れても  
止めないぞ！



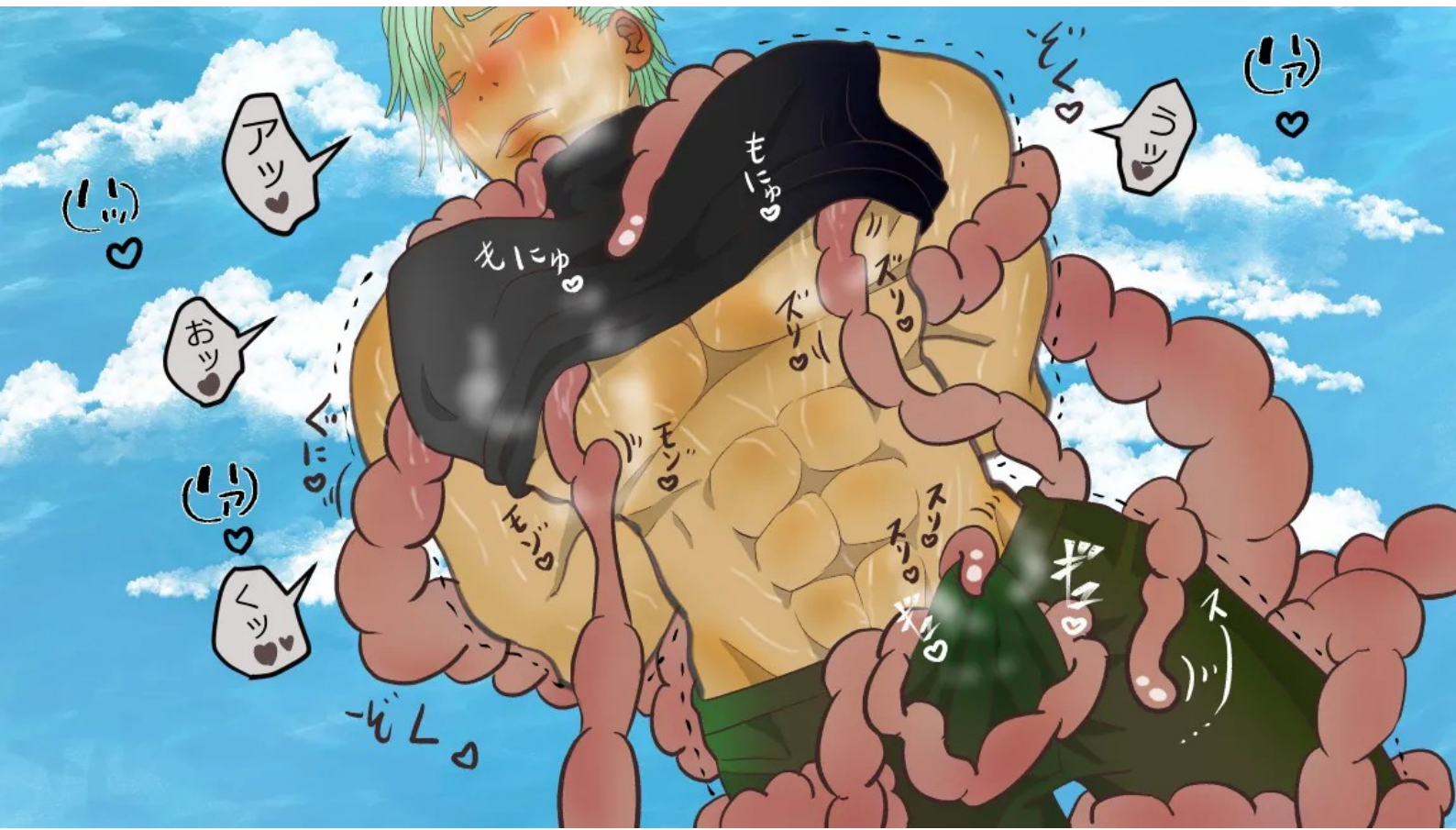
一部にはプラントに  
心酔し自ら捕まり  
苗床になると聞いたが  
こういう事か…



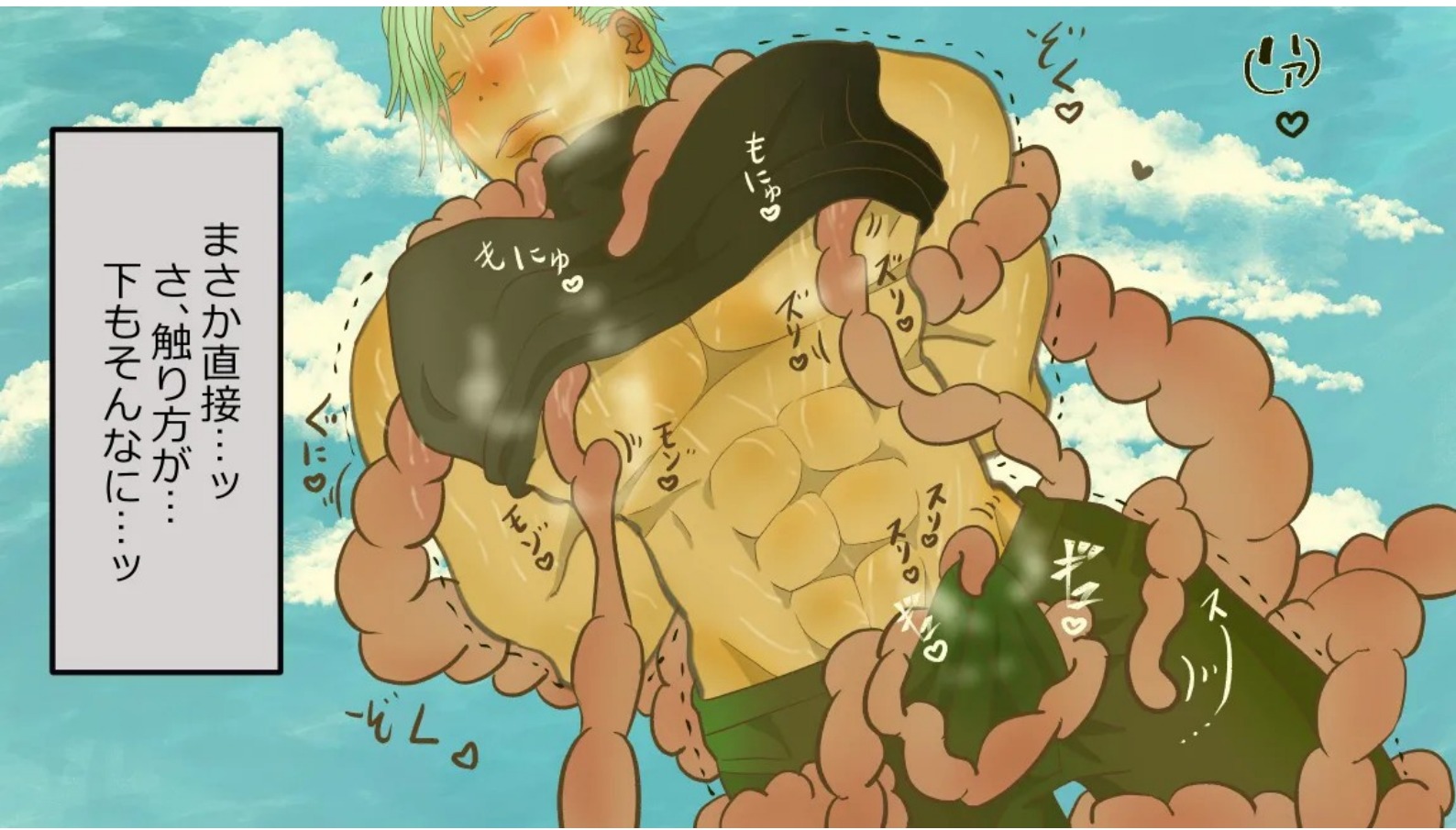




そんな場所：  
く：ツ変な感じが  
止まらない……ッ



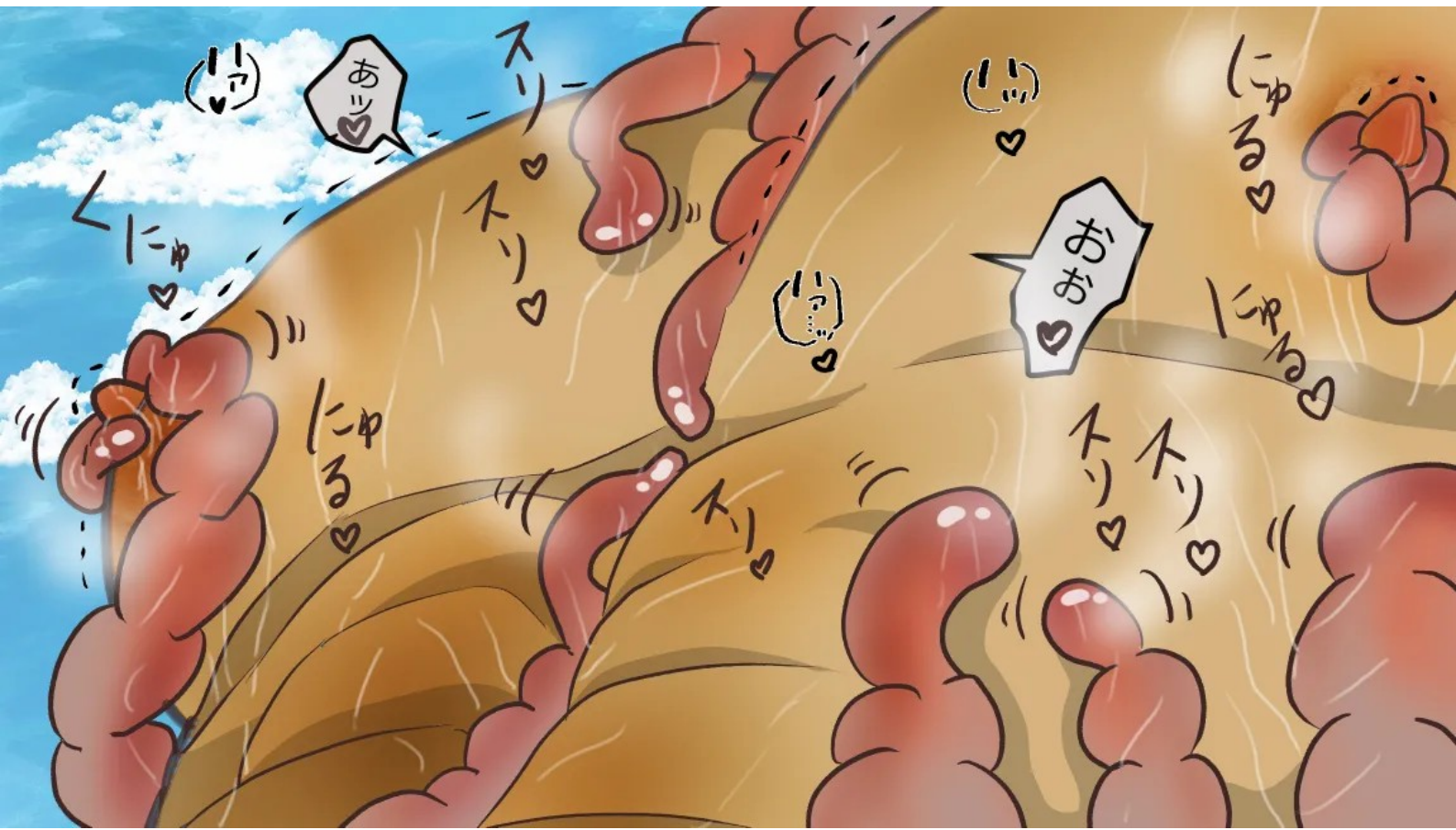
まさか直接…ッ  
さ、触り方が…  
下もそんなに…ッ

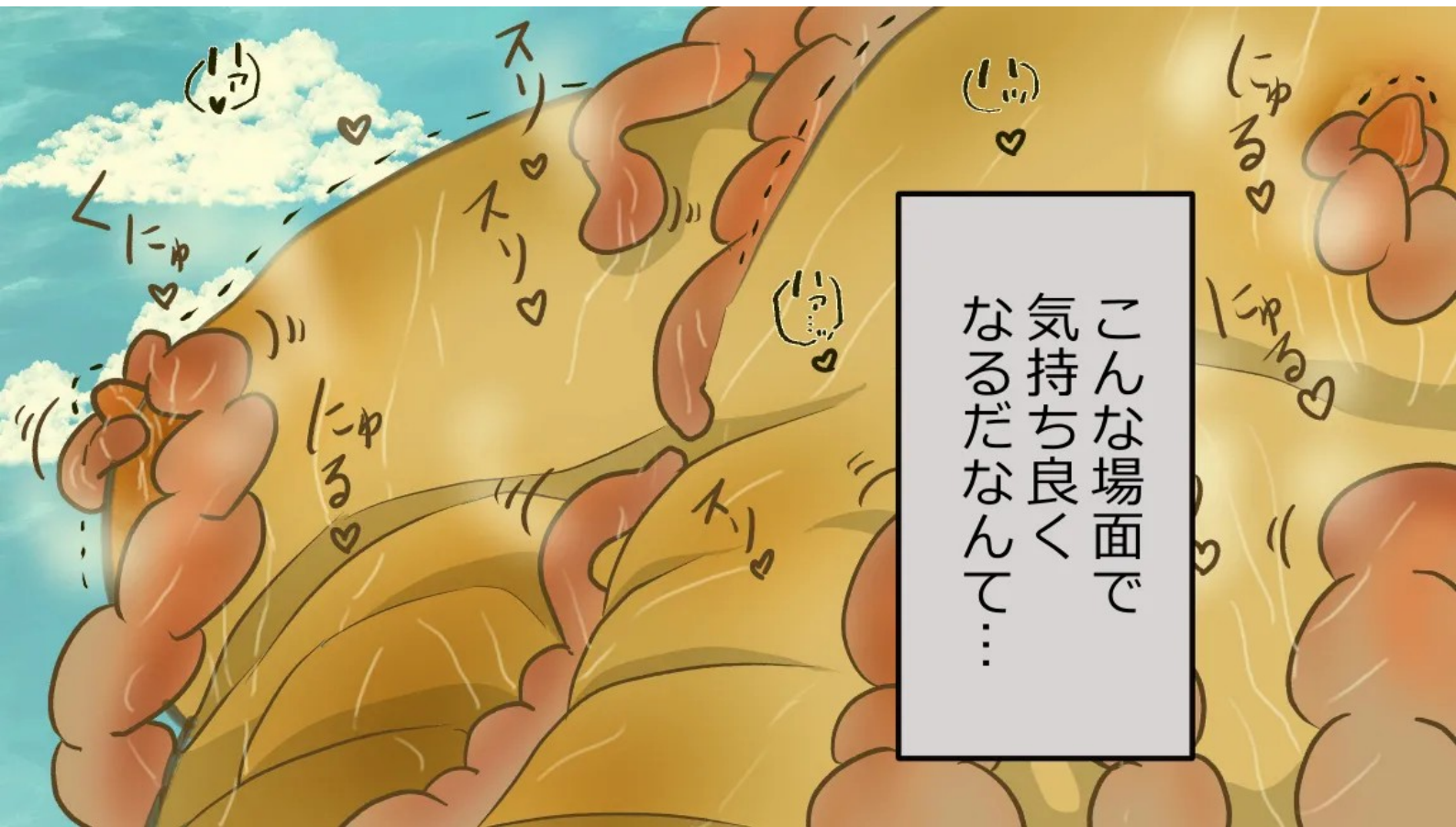




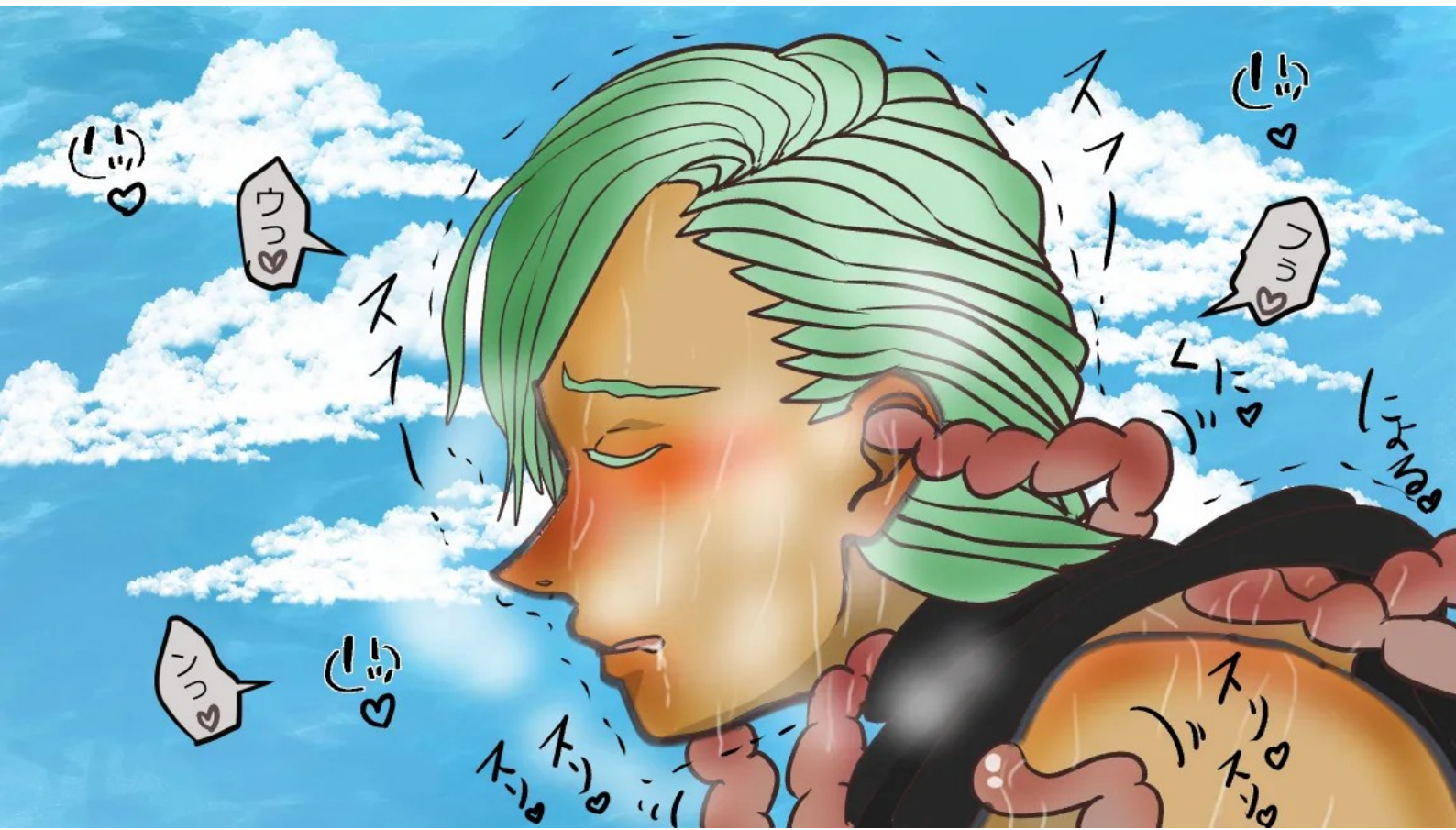


そんな重点的に  
乳首を……ツ♡

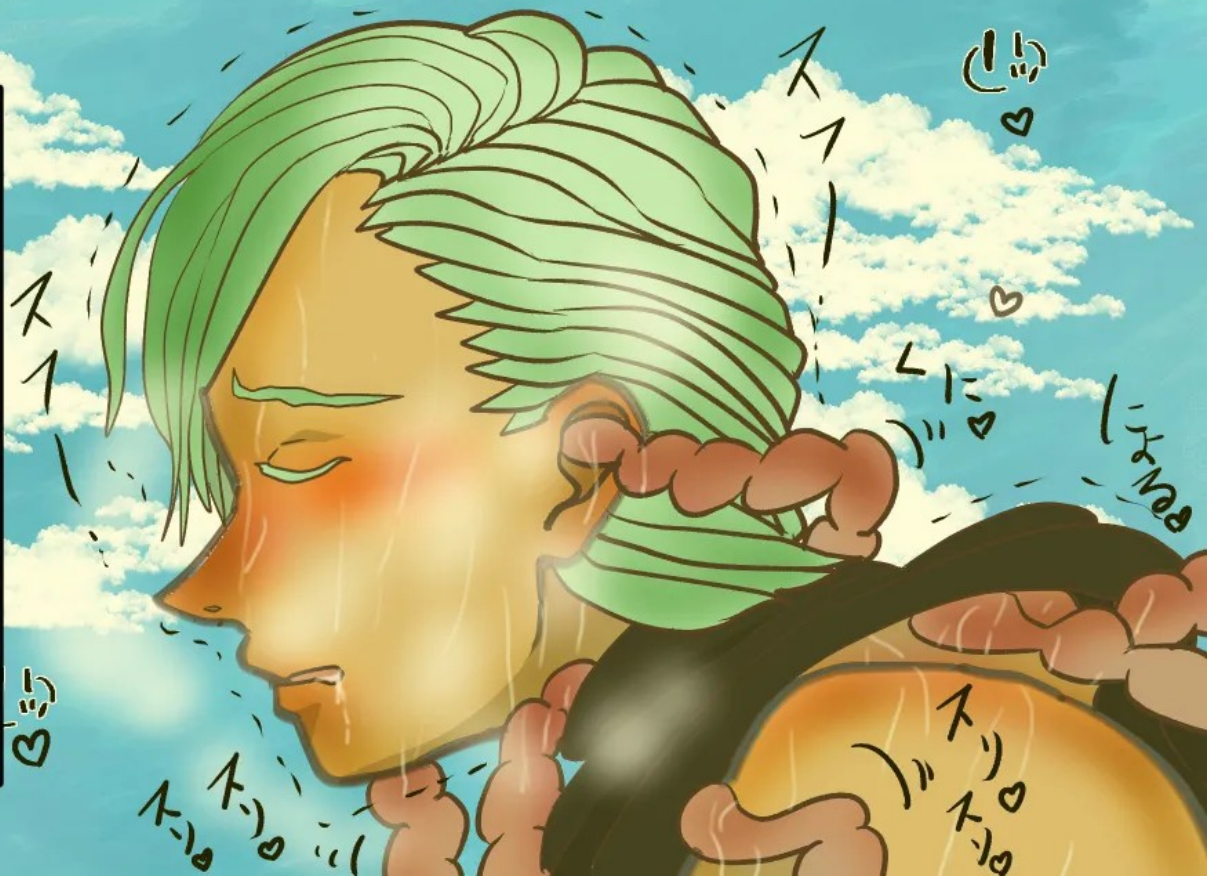


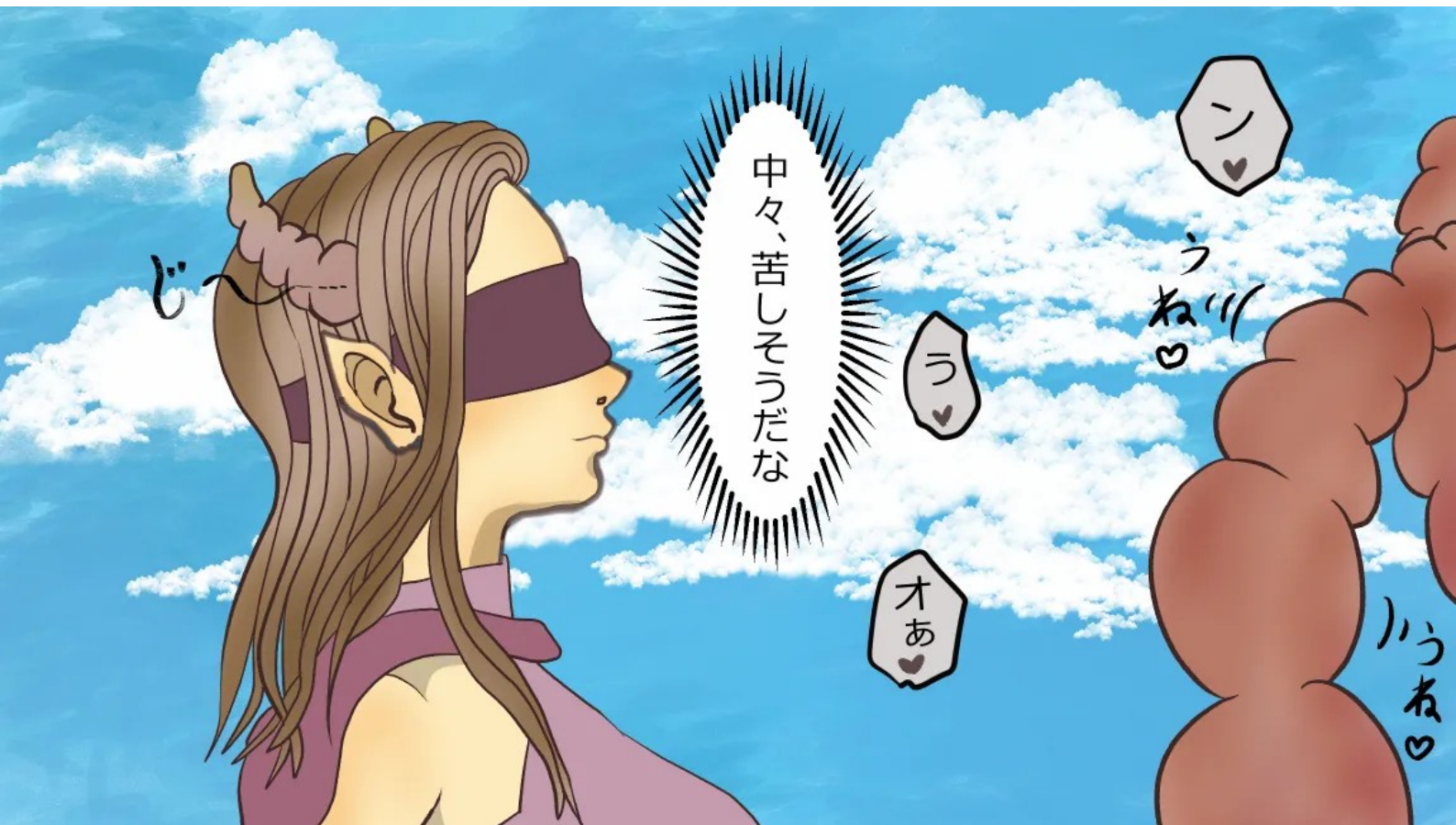


こんな場面で  
気持ち良くなる  
だなんて…



耳の中を弄られると  
頭の中が埋められ  
てるようにな……ッ





じ

中々、苦しそうだな

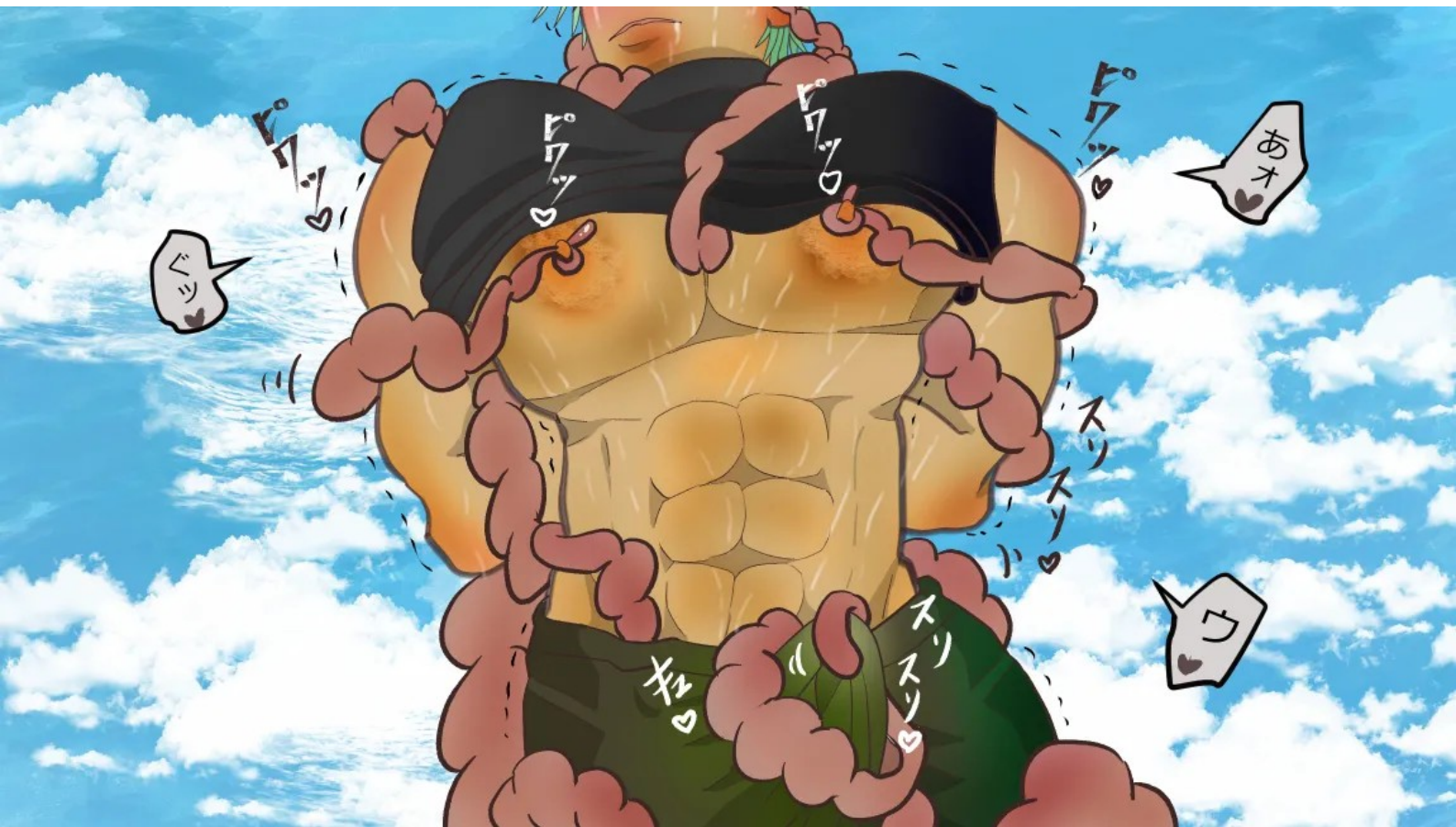
う

ん


うねり♡

ああ♡

川ね♡

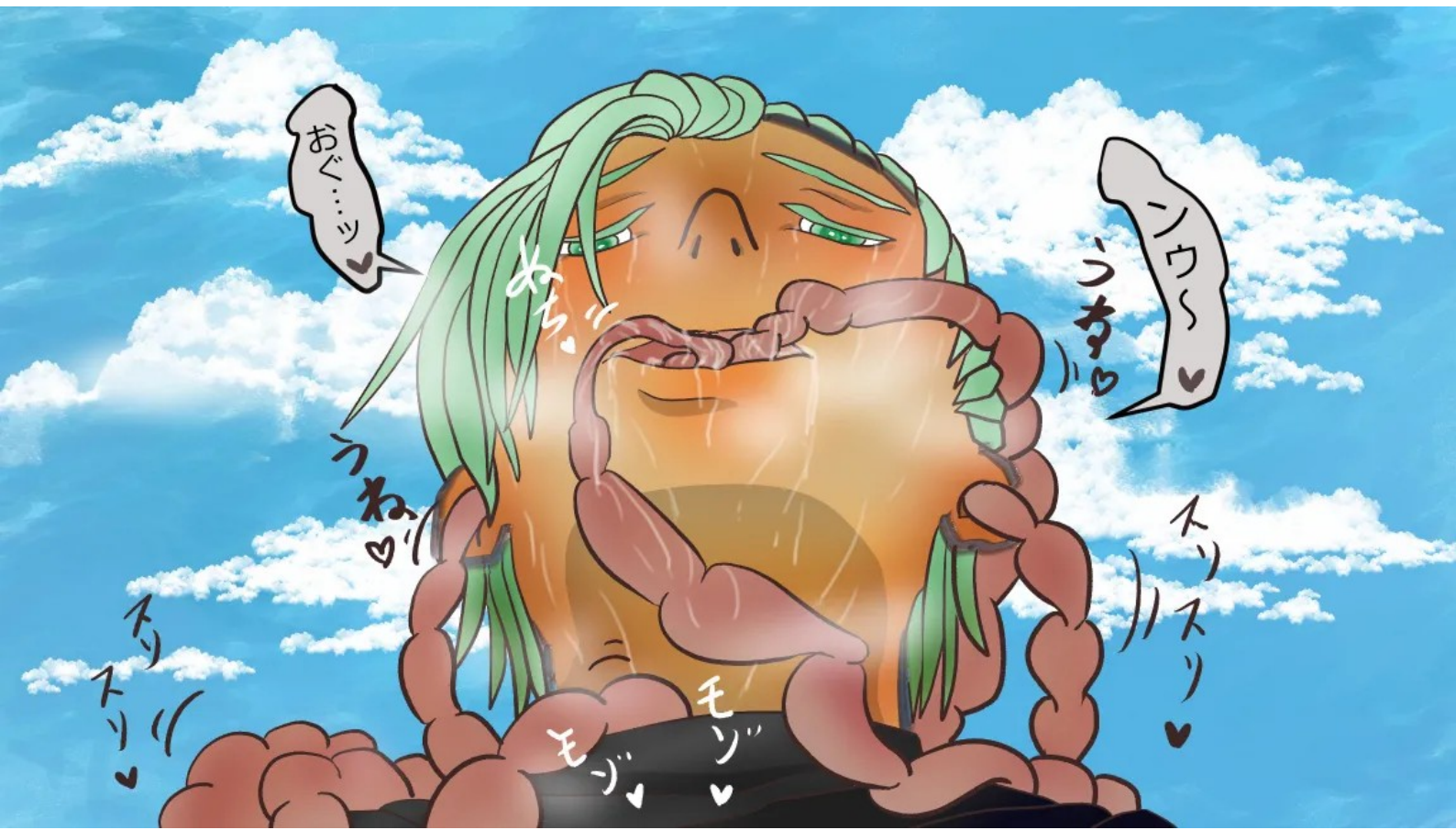







プラント達ご機嫌だな…  
考えてみると侵入者が  
入ったのも先代ぶりか

じ



俺の醜態を……  
ずっと……みて……る……





プラント達の  
運動と遊びも兼ねて

丁度、良かったかも  
しれないな…

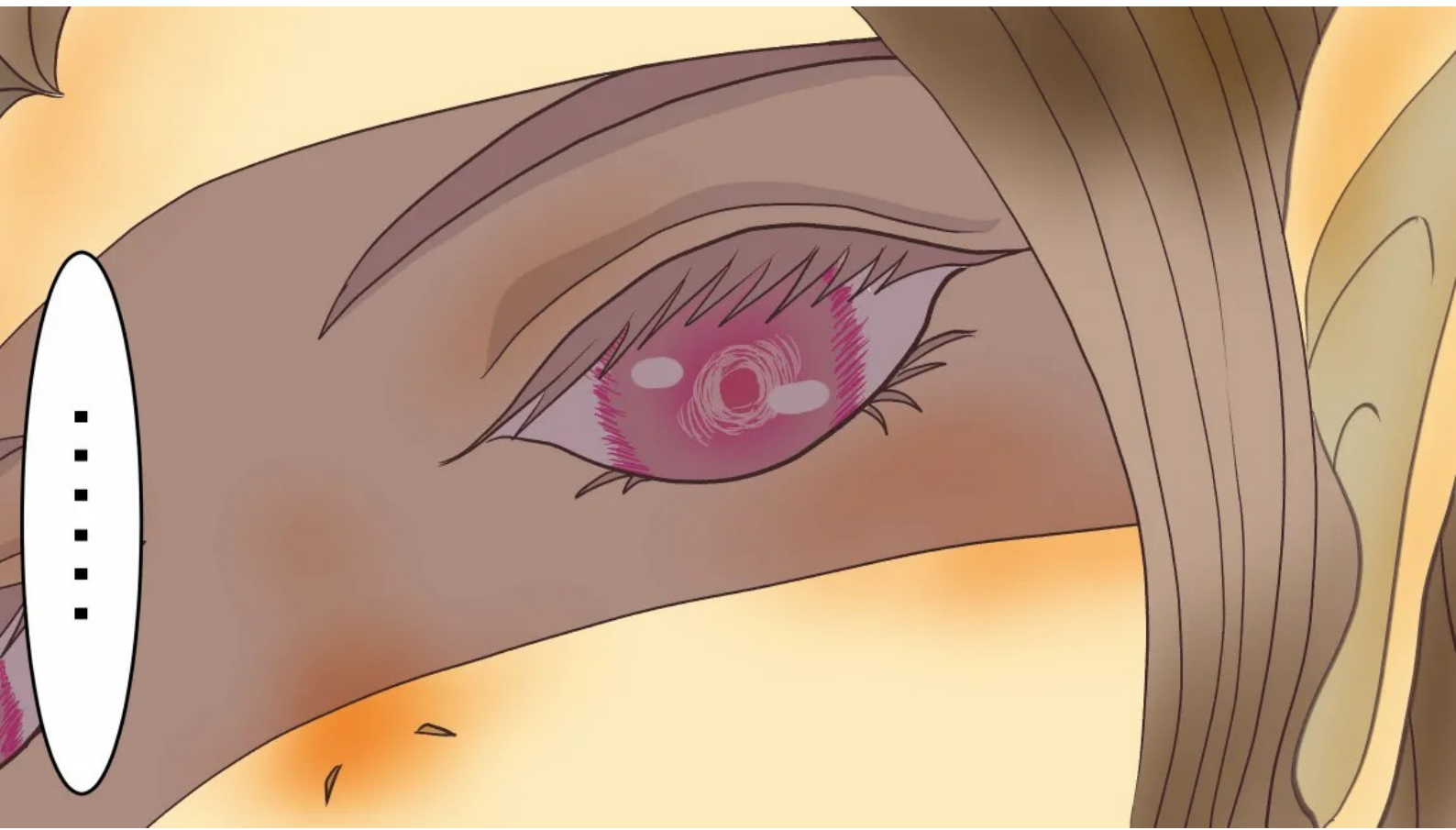


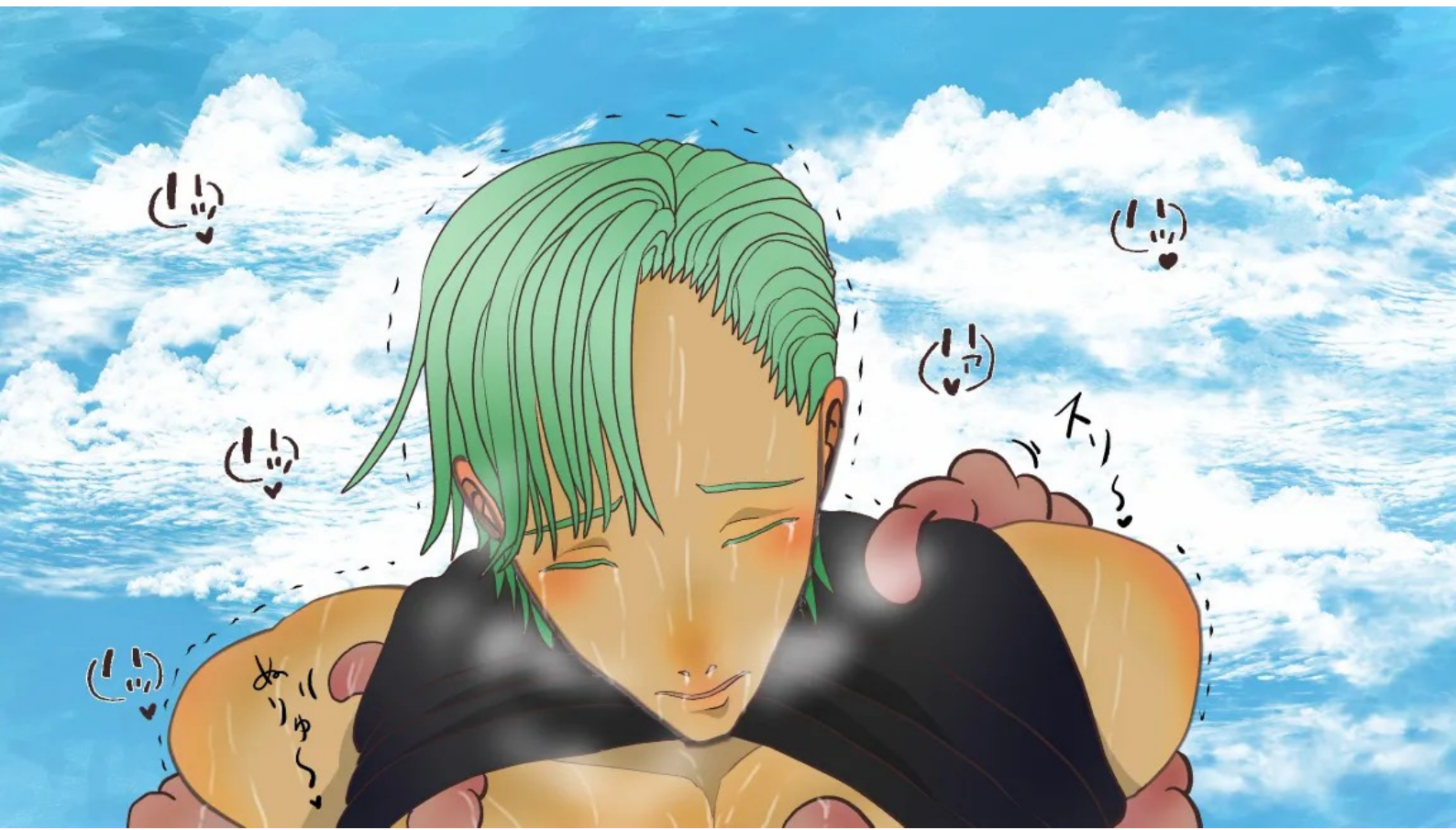


♡ストゥ……♡

♡ストゥ

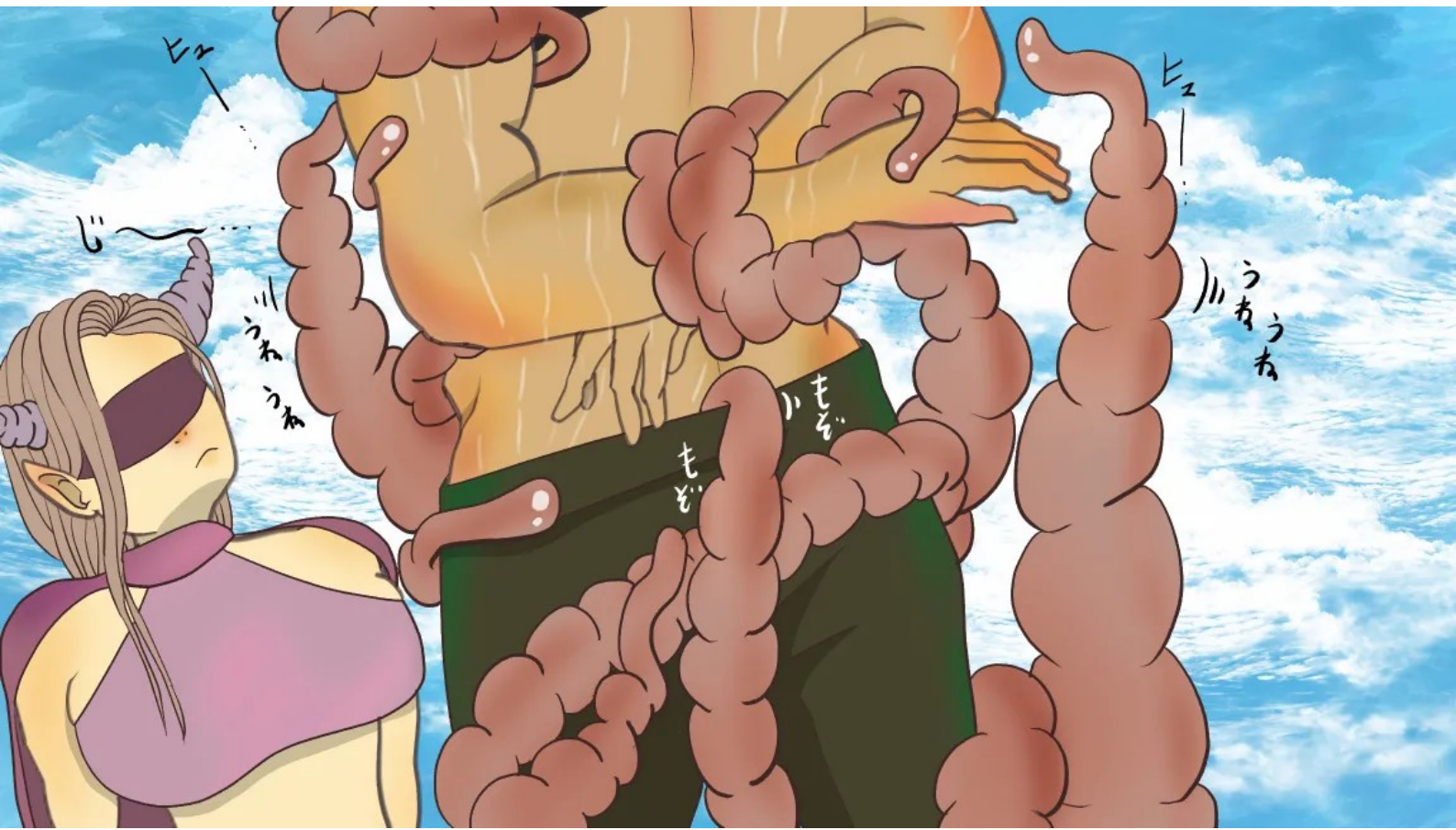








こんな気持ち良さ  
初めてだ……♡

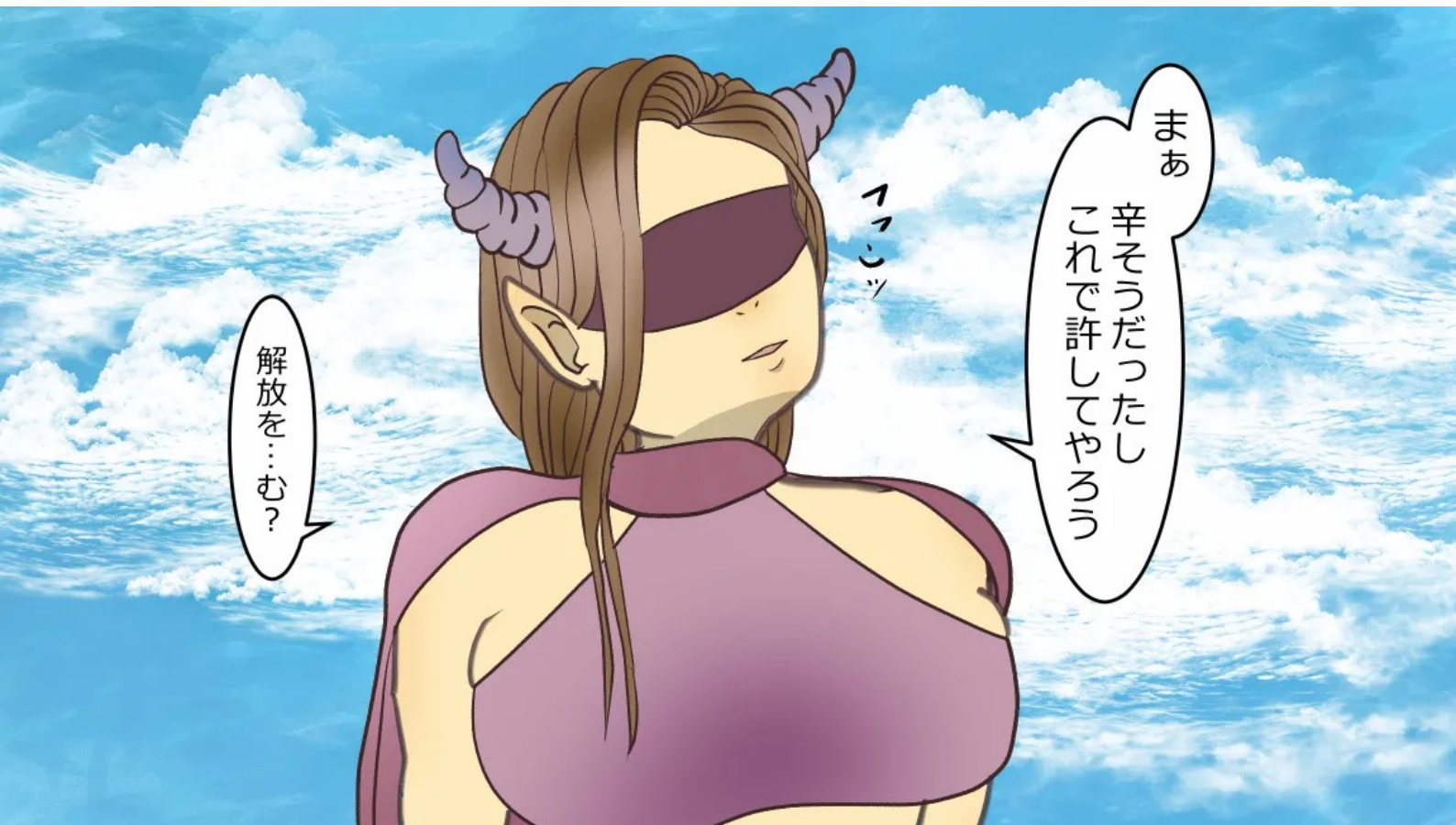




気絶したのか...?



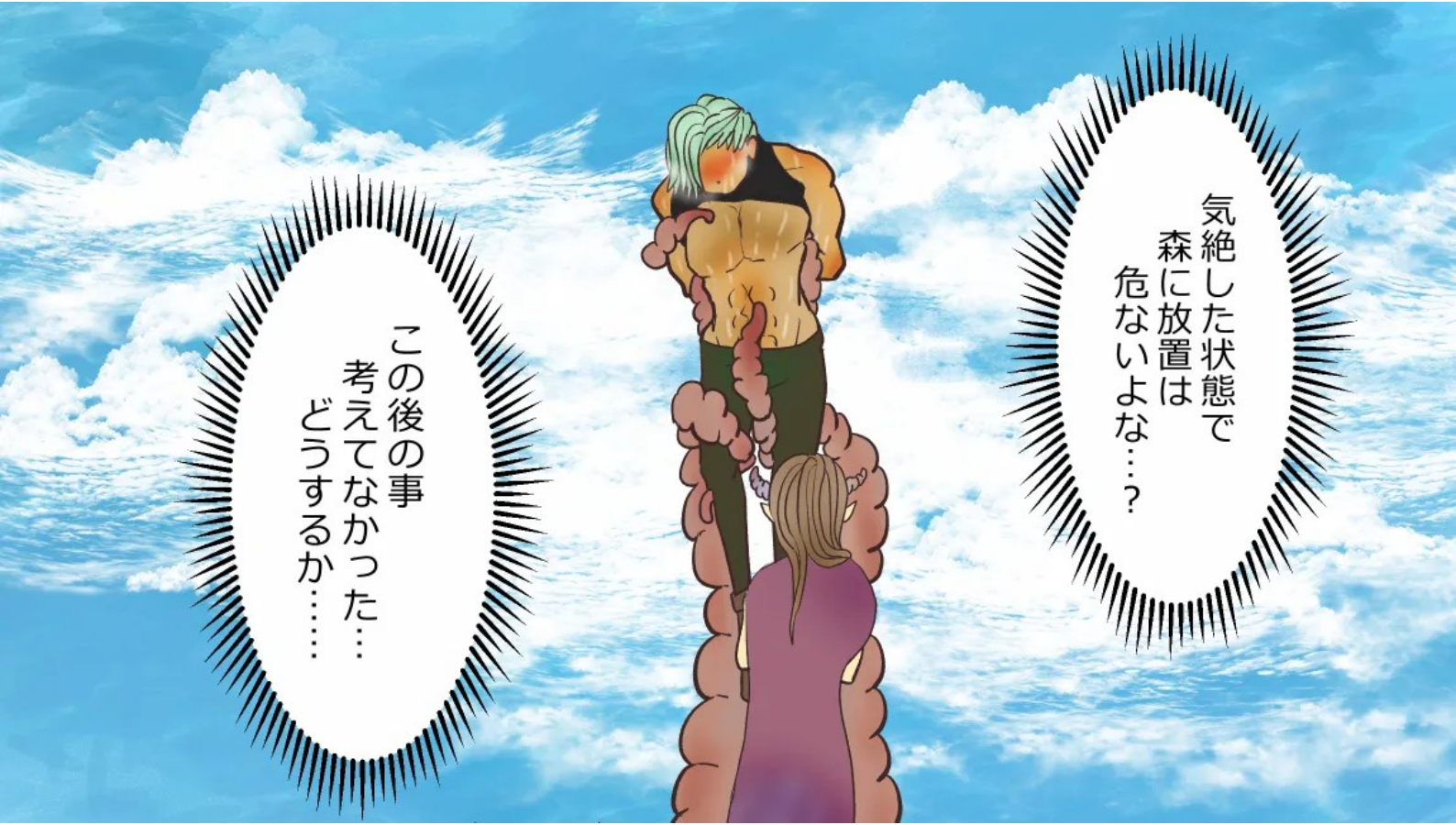
湯気が出ている…



解放を…む？


フーンッ

まあ  
辛そうだったし  
これで許してやろう



気絶した状態で  
森に放置は  
危ないよな…？

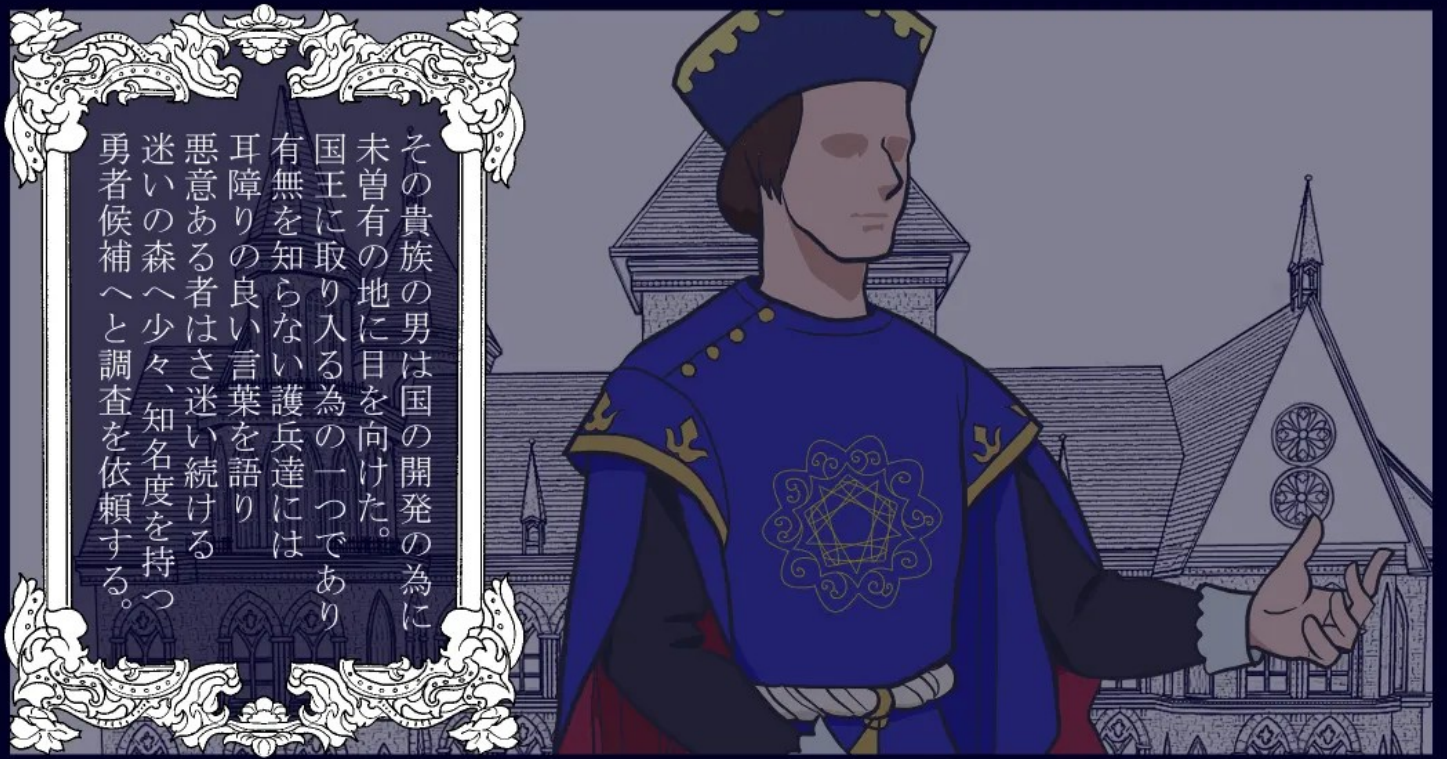
この後の事  
考えてなかった…  
どうするか…



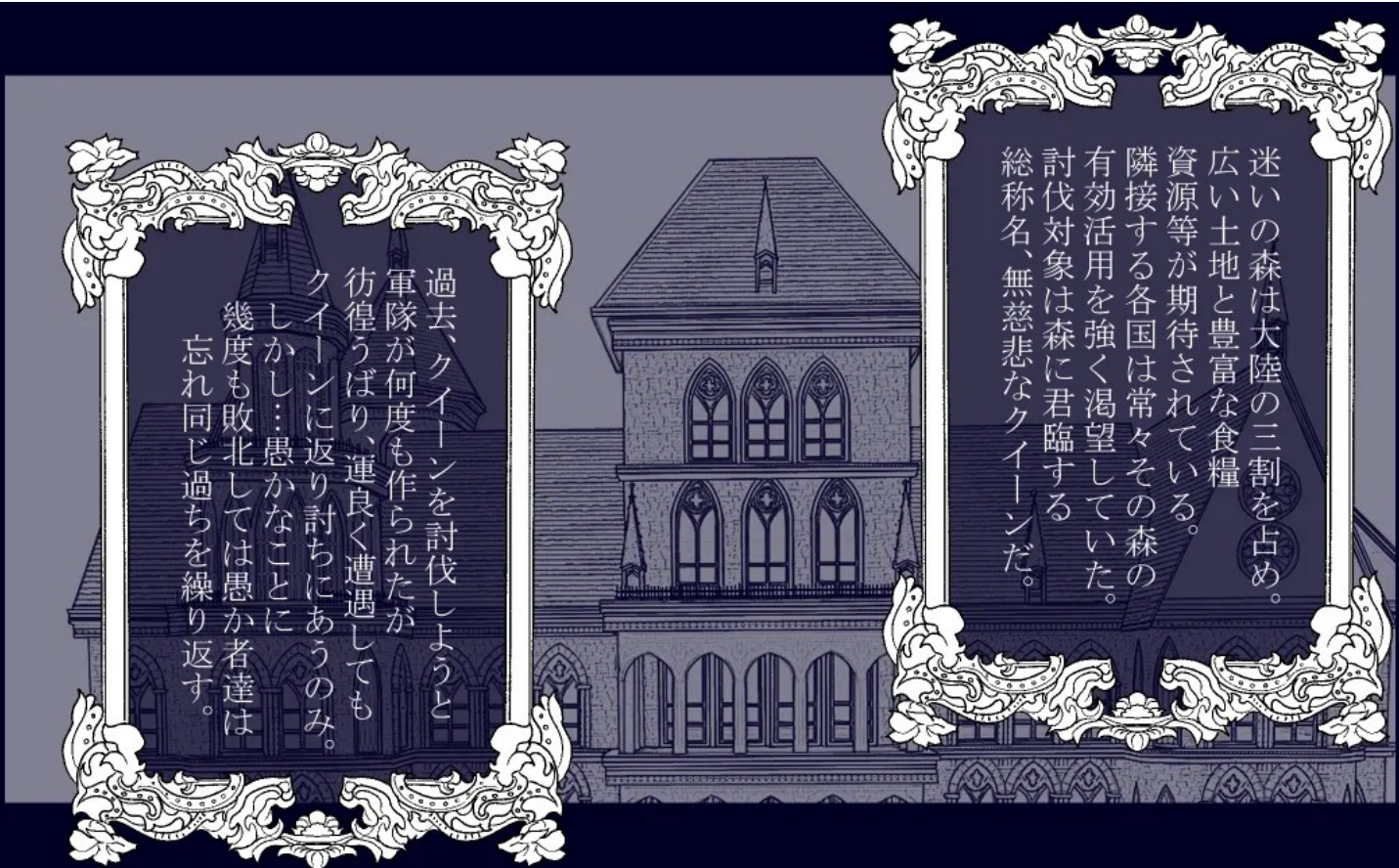
一話目 おわり  
《捨てられ護<sup>ごへい</sup>兵》



二話目  
《殊勝な提案》

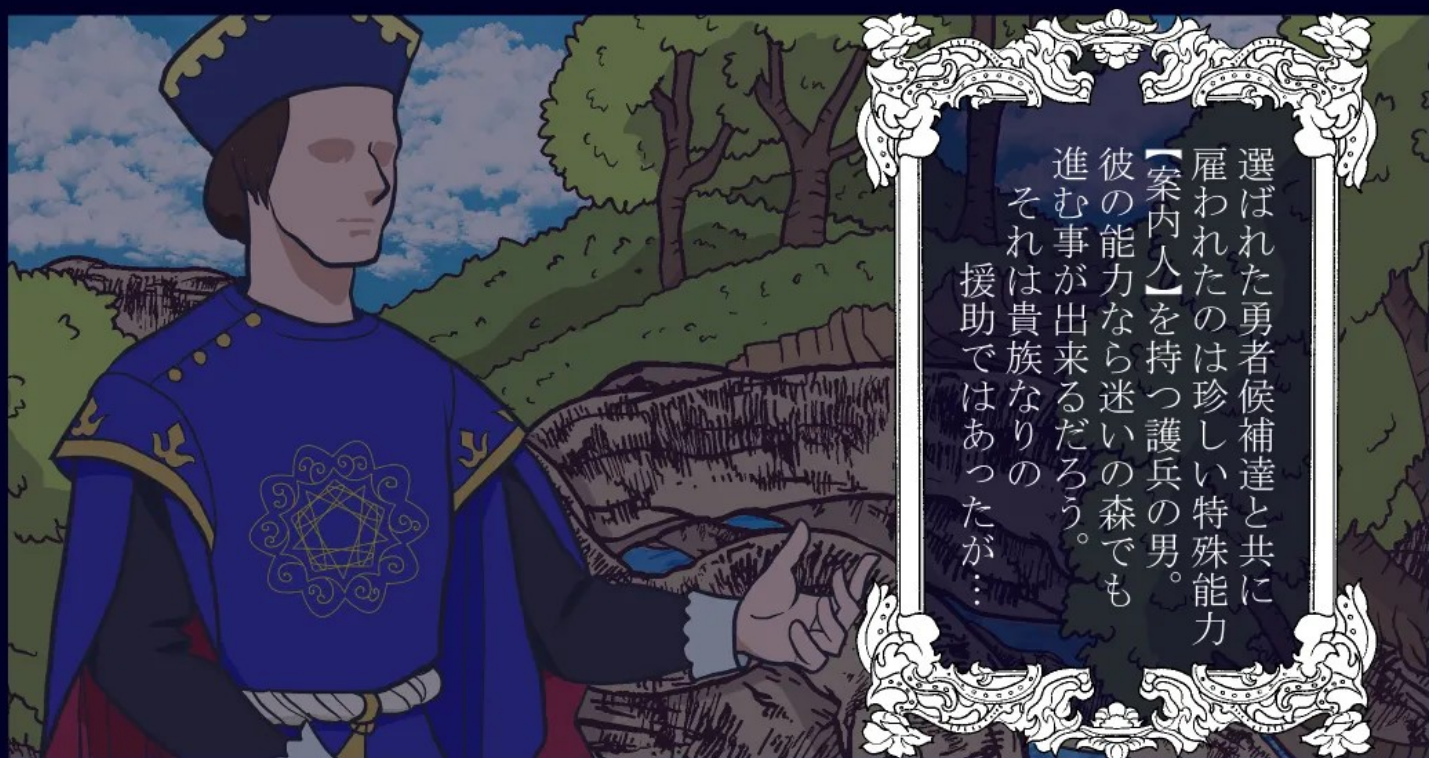


その貴族の男は国の開発の為に  
未曾有の地に目を向けた。  
国王に取り入る為の一つであり  
有無を知らない護兵達には  
耳障りの良い言葉を語り  
悪意ある者はさ迷い続ける  
迷いの森へ少々、知名度を持つ  
勇者候補へと調査を依頼する。



迷いの森は大陸の三割を占め、  
広い土地と豊富な食糧  
資源等が期待されている。  
隣接する各国は常々その森の  
有効活用を強く渴望していた。  
討伐対象は森に君臨する  
総称名、無慈悲なクイーンだ。


過去、クイーンを討伐しようと  
軍隊が何度も作られたが  
彷徨うばかり、運良く遭遇しても  
クイーンに返り討ちにあうのみ。  
しかし：愚かなことに  
幾度も敗北しては愚か者達は  
忘れ同じ過ちを繰り返す。




選ばれた勇者候補達と共に  
雇われたのは珍しい特殊能力  
【案内人】を持つ護兵の男。  
彼の能力なら迷いの森でも  
進む事が出来るだろう。  
それは貴族なりの  
援助ではあつたが…



愚か者達は案内人の能力を  
甘く見て彼を役立たずとし  
囷とし捨て置いた為に  
性急に逃げ進んだ時には  
もう遅く歩を進めれば  
進める程に、あの護兵の  
重要性を思い知るのだ。

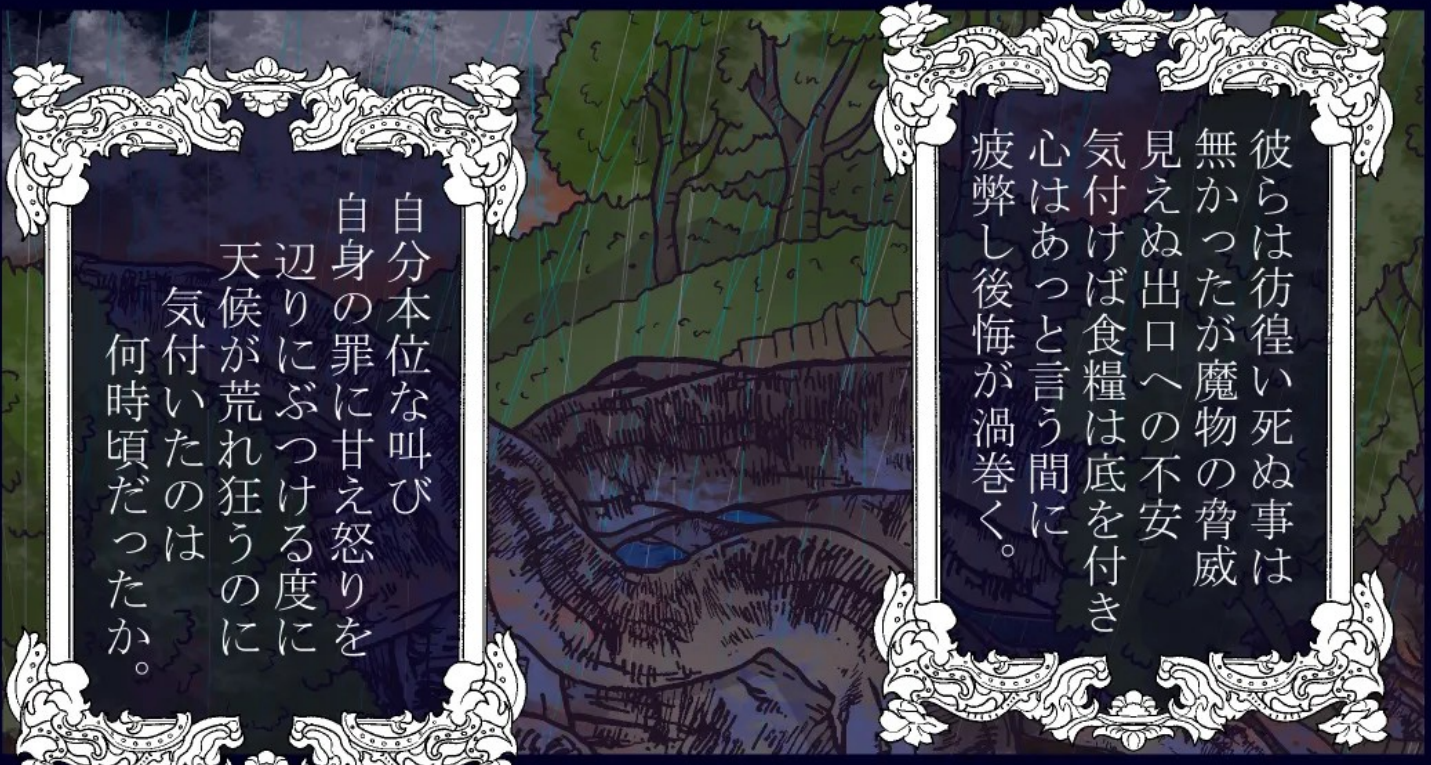


案内人の護兵は全員が  
生き残る術を探し  
最初は迷いの森を神聖な  
場として崇める一族と  
交渉し少しでも安全な道を  
探すべきだと話したが  
勇者候補達から非難された。



そんな交渉一つに長い時間を  
かければ貴族からの  
印象を悪くするに違いない。  
案内人という能力を持つ  
お前は、その為に雇われたのに  
任務を放棄する気なのか。

案内人故の能力からくる  
大切な助言であったが  
貴族相手なら未だしも  
見下す者の助言など価値が無く  
勇者候補達は選択の一つを折り  
無慈悲なクイーンの怒りを  
抑える術を無くしたのだった。

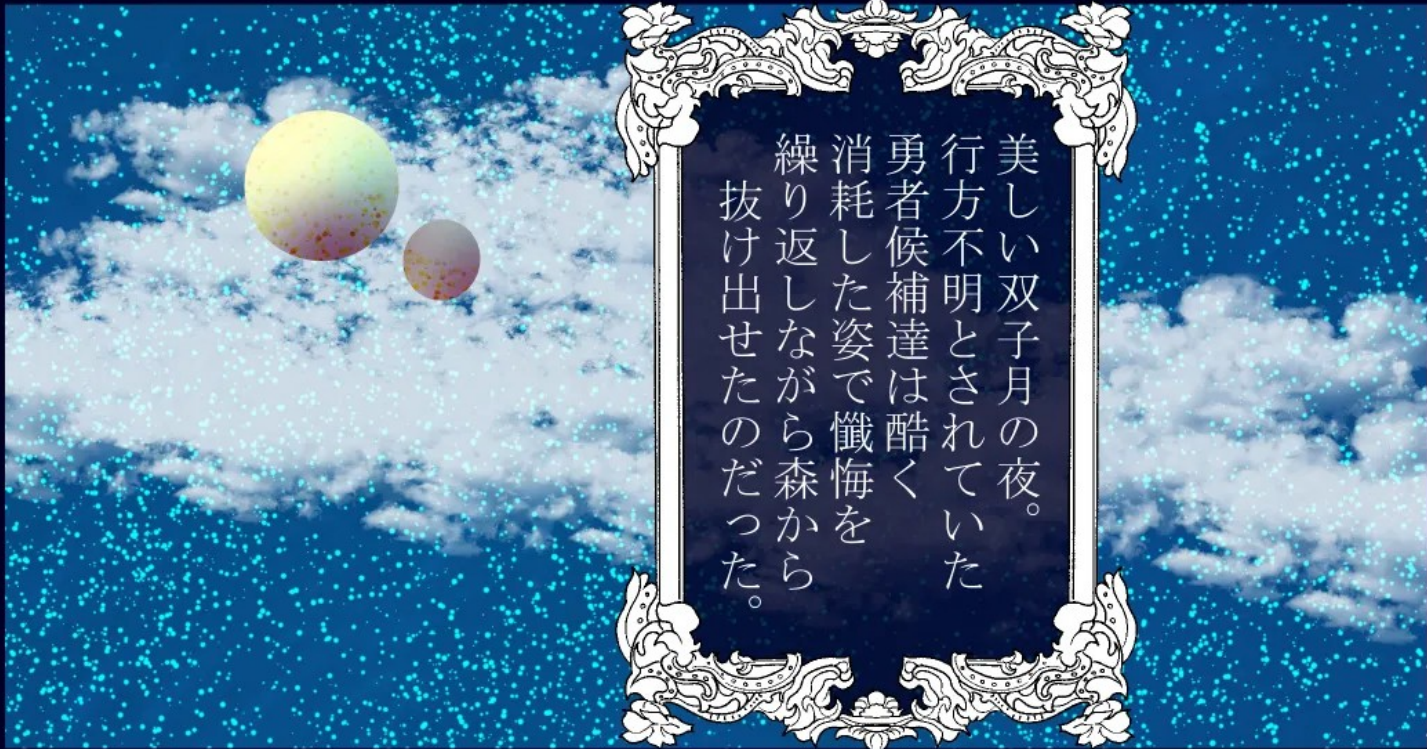


彼らは彷徨い死ぬ事は  
無かったが魔物の脅威  
見えぬ出口への不安  
気付けば食糧は底を付き  
心はあつと言う間に  
疲弊し後悔が渦巻く。

自分本位な叫び  
自身の罪に甘え怒りを  
辺りにぶつける度に  
天候が荒れ狂うのに  
気付いたのは  
何時頃だったか。



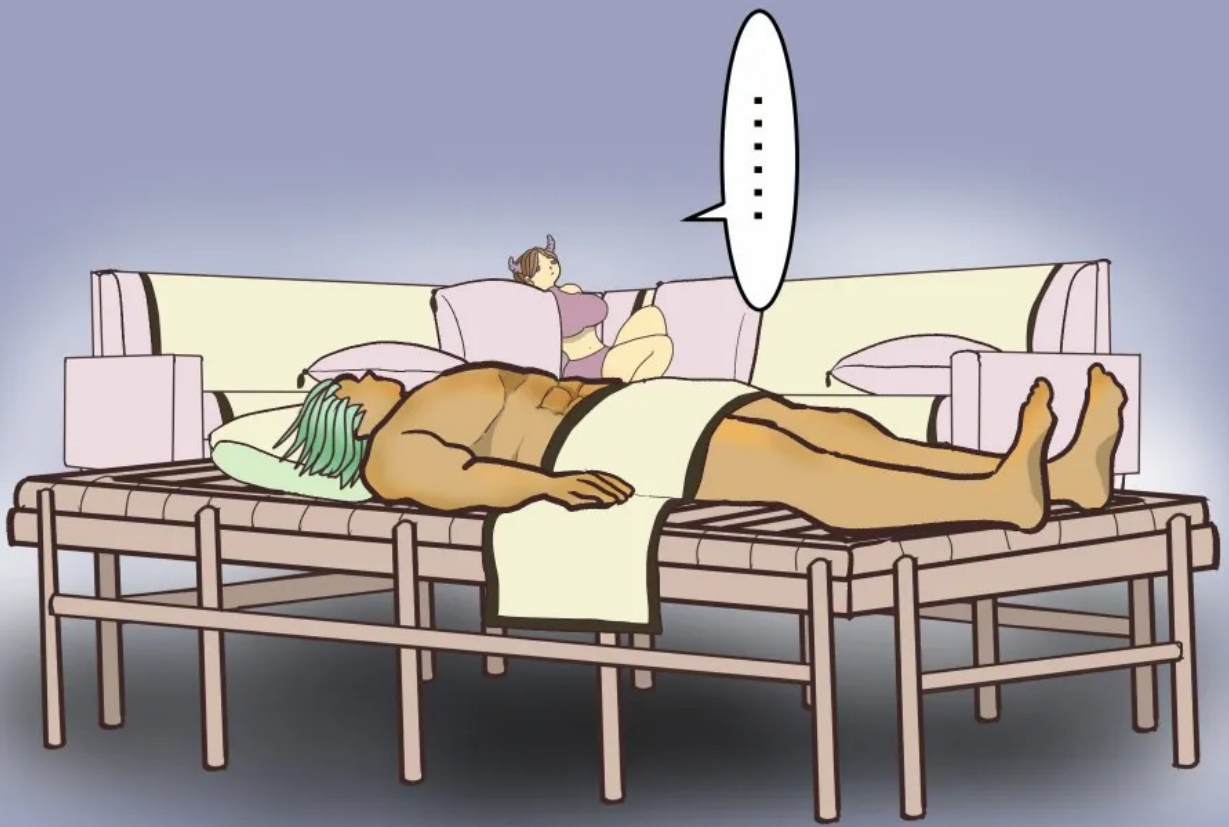
罪を何度も謝罪し  
彼らが深く祈れば  
体力を奪い続けた  
豪雨が嘘のように  
消え晴れた夜空が  
広がった。




美しい双子月の夜。  
行方不明とされていた  
勇者候補達は酷く  
消耗した姿で懺悔を  
繰り返しながら森から  
抜け出せたのだった。



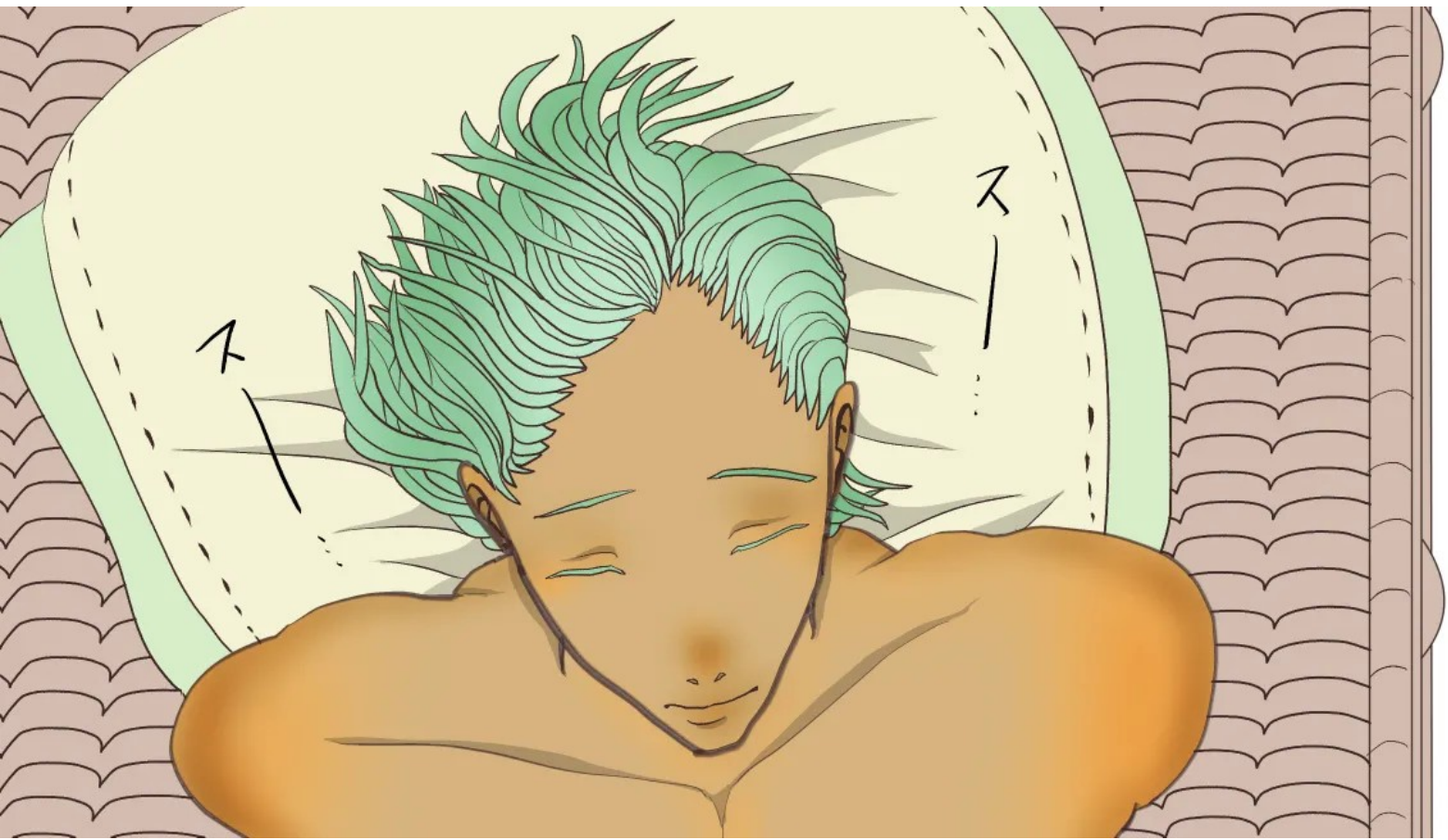


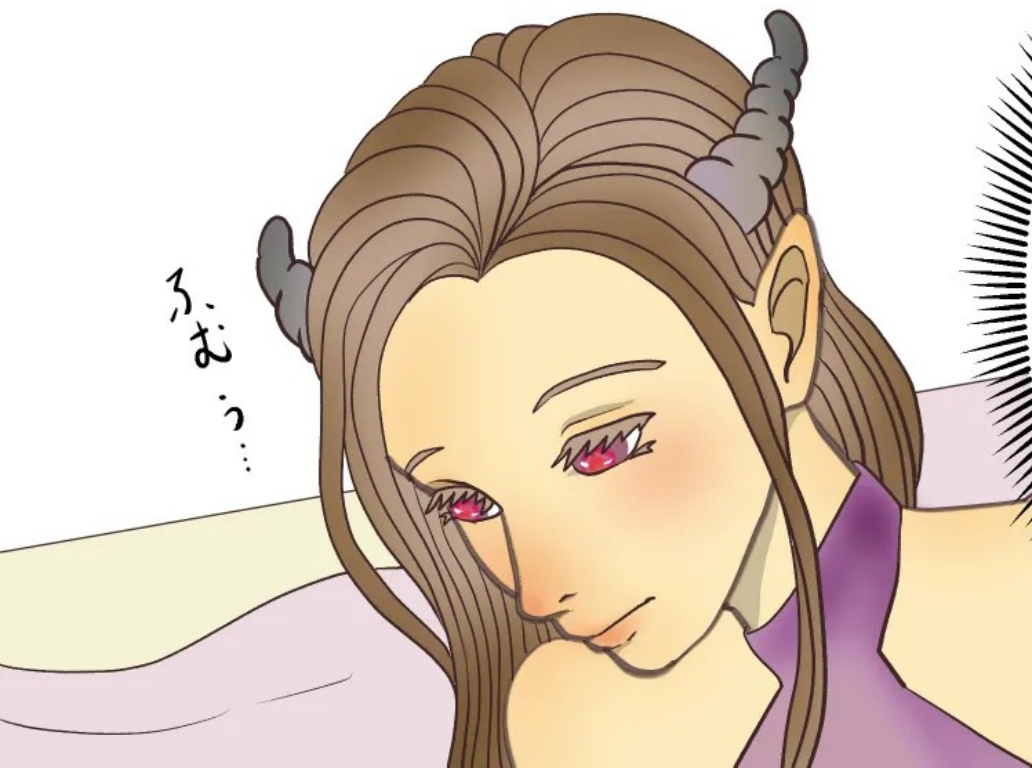




勇者一行に連れて  
帰らせようと思ったけど…

結局、放置出来なかった…



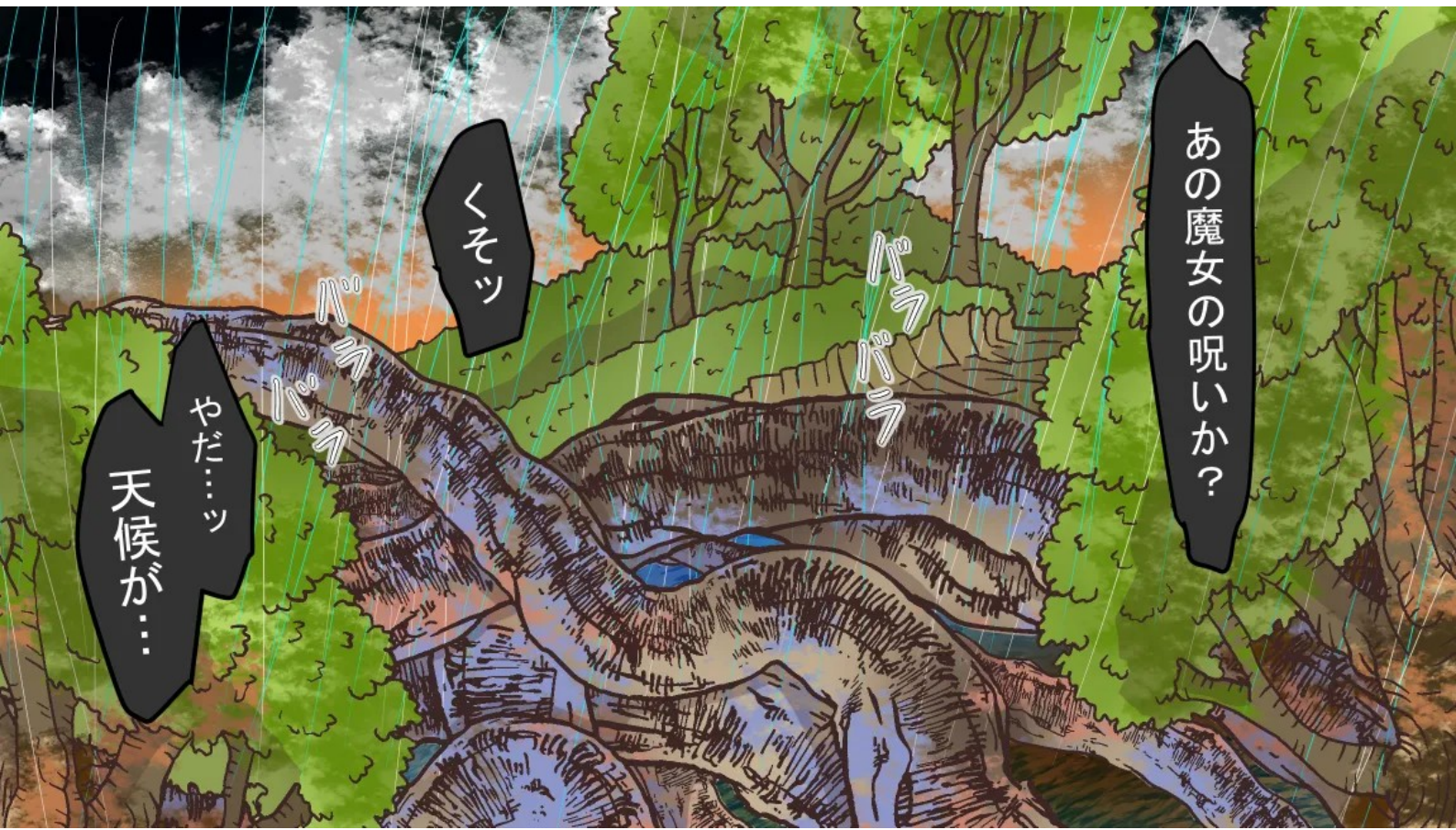


ふっ  
ま...  
...

森での彷徨いの  
感じからして...また  
置いて逃げそうだな



また、この道!?



くそッ

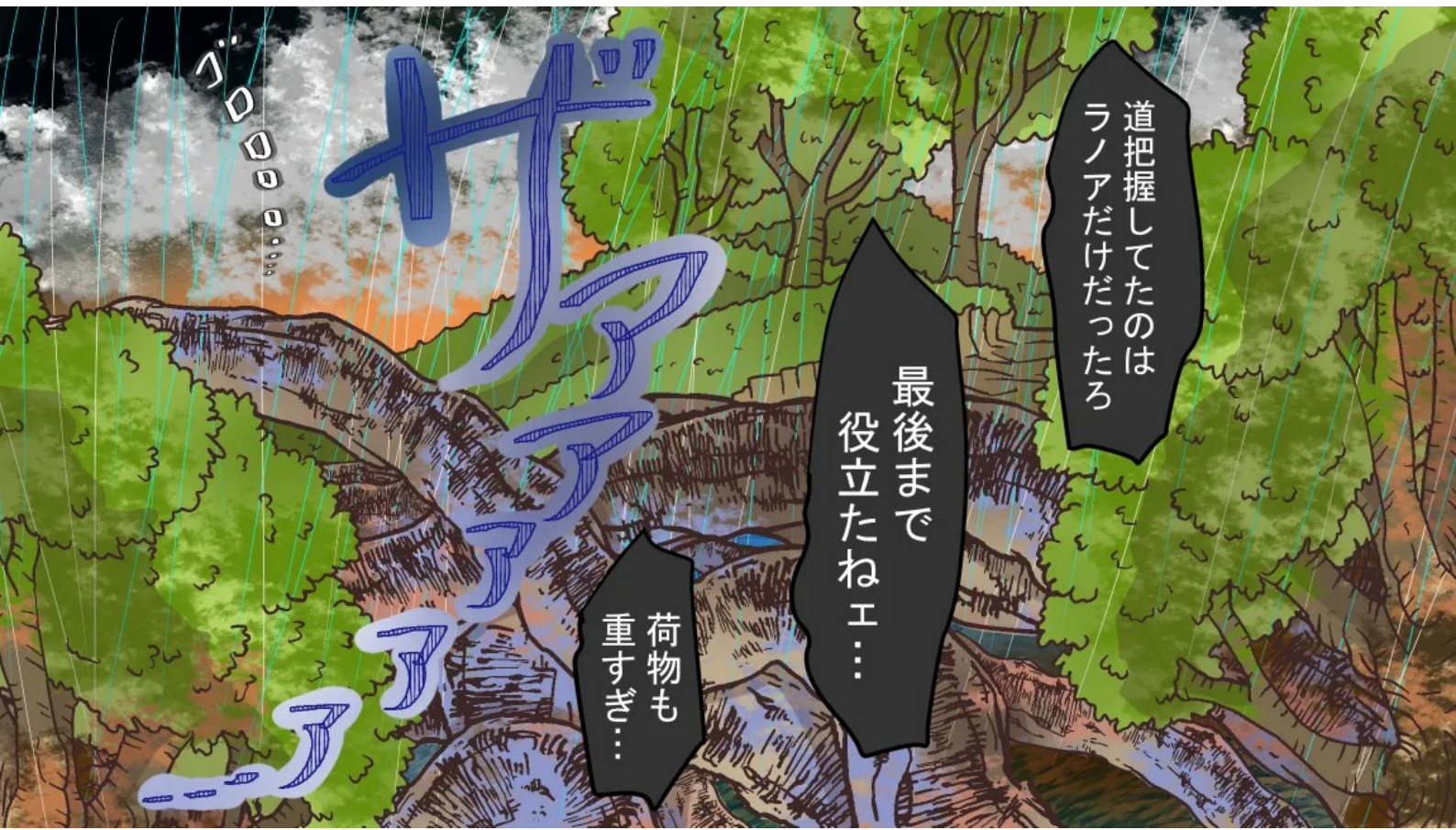
やだ…ッ

天候が…

あの魔女の呪いか？

パッ  
パッ  
パッ

パッ  
パッ  
パッ




ドドドド

ザアアアア

道把握してたのは  
ラノアだけだったろ

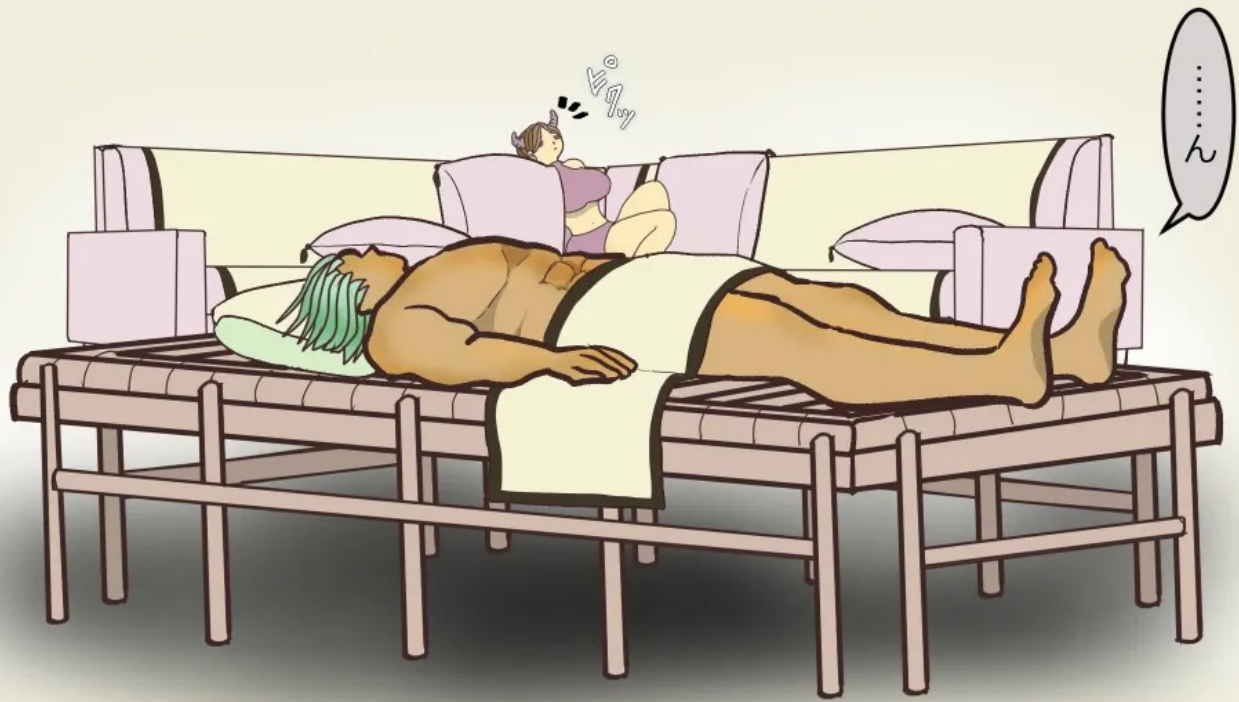
最後まで  
役立たねエ…

荷物も  
重すぎ…



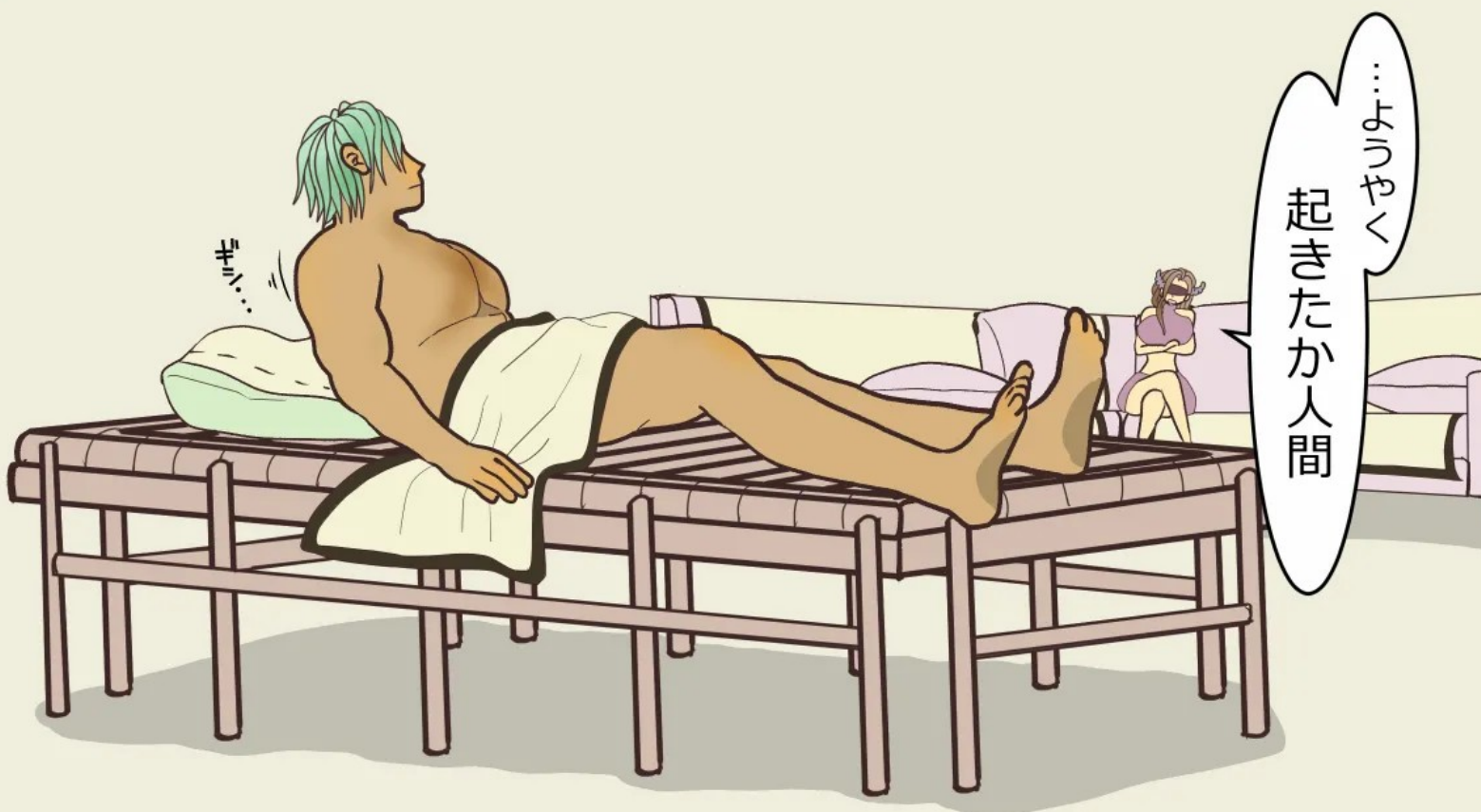
勇者共には悪天候を  
繰り返し反省するまで  
彷徨わせるか…

そうすれば、もう  
二度と来ようとは  
思わないだろうさ









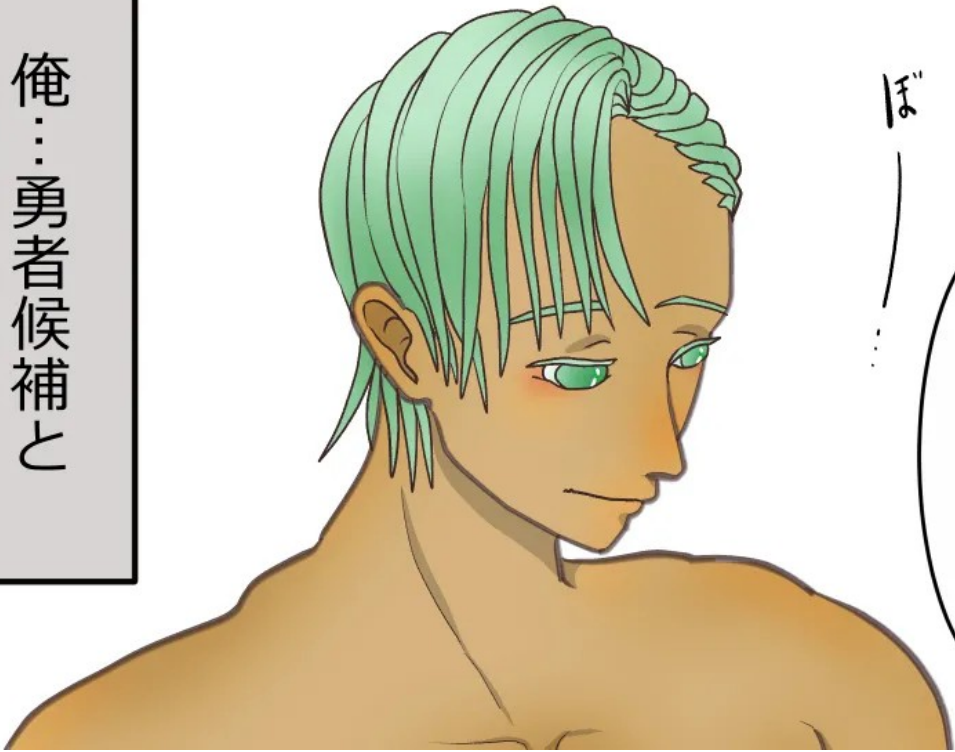
ギン...

...おじやく  
起きたか人間


力の差は  
歴然だからな

下手に反抗は  
するんじゃないぞ

ぼ



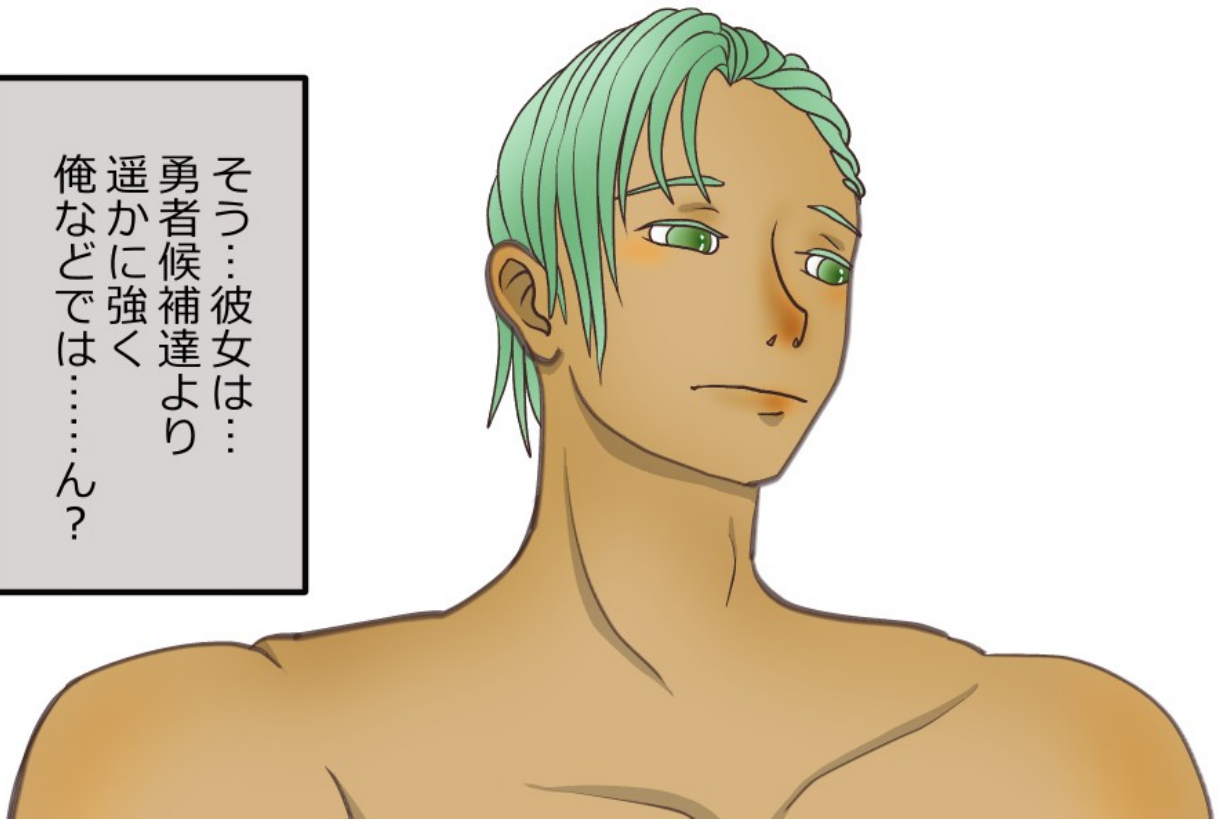
俺…勇者候補と  
未曾有の地の  
調査を任されて…



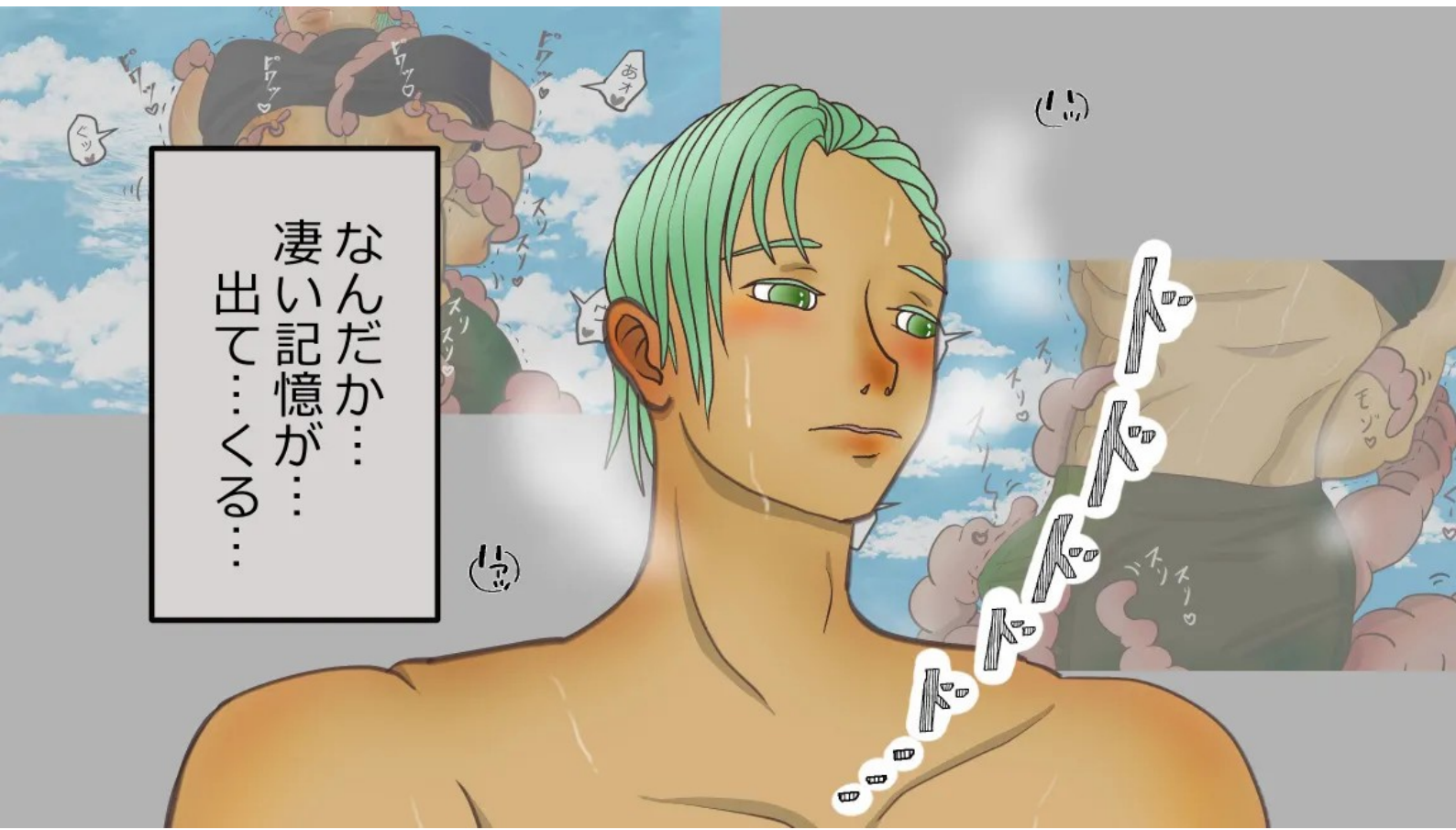
様子を見るに  
お前は勇者一行と  
仲が悪いようだな？


この森を荒らそうと  
する者は何人たりとも  
許さぬが…  
お前はどつだ？

そう…彼女は…  
勇者候補達より  
遥かに強く  
俺などでは……ん？



なんだか…  
凄い記憶が…  
出て…くる…



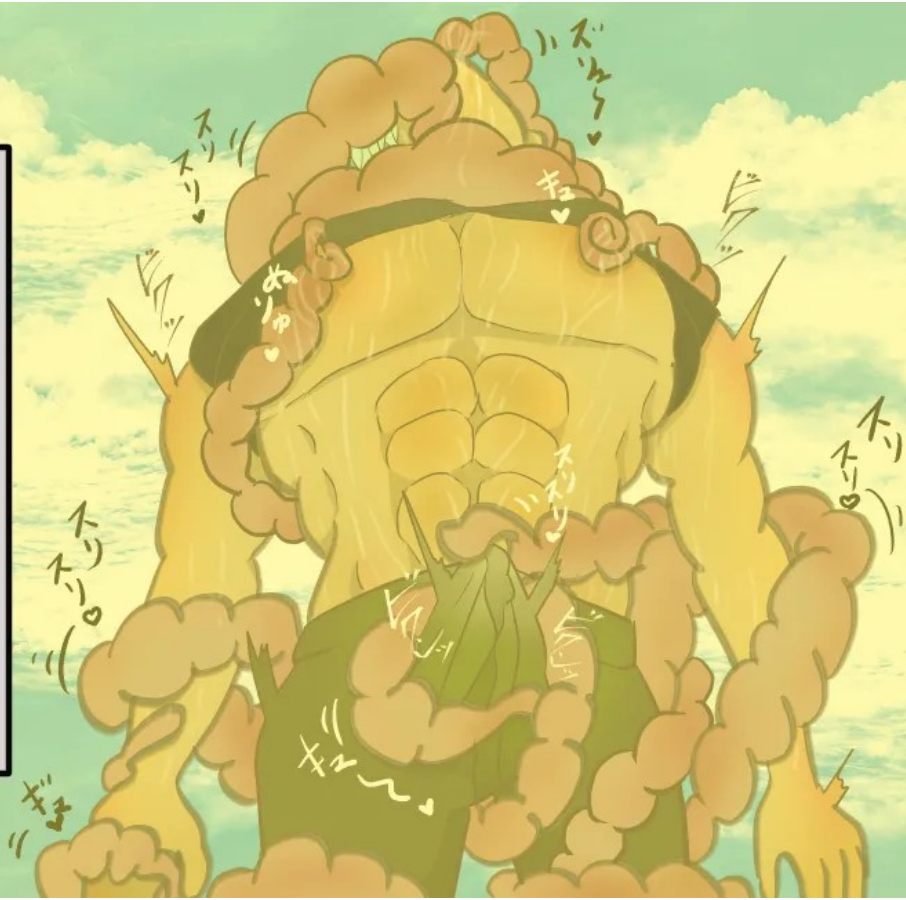


この森に入る事を  
代々許しているのは  
海沿いの村の者達のみだ

本来なら人が奥深く  
入るなど出来ない

だが…お前には  
その才能があるようだ

そうだ…醜態を俺は……




彼女の能力で動く  
プラントが、あまりにも  
気持ち良すぎて……

お前の才は何度だって  
此処に来て  
しまう事になる



俺を連れ帰ったって事は…  
も、もしかして続きを…？



なので…  
お前には二つの  
選択肢を出そう

一つは悪事を  
行えないよう

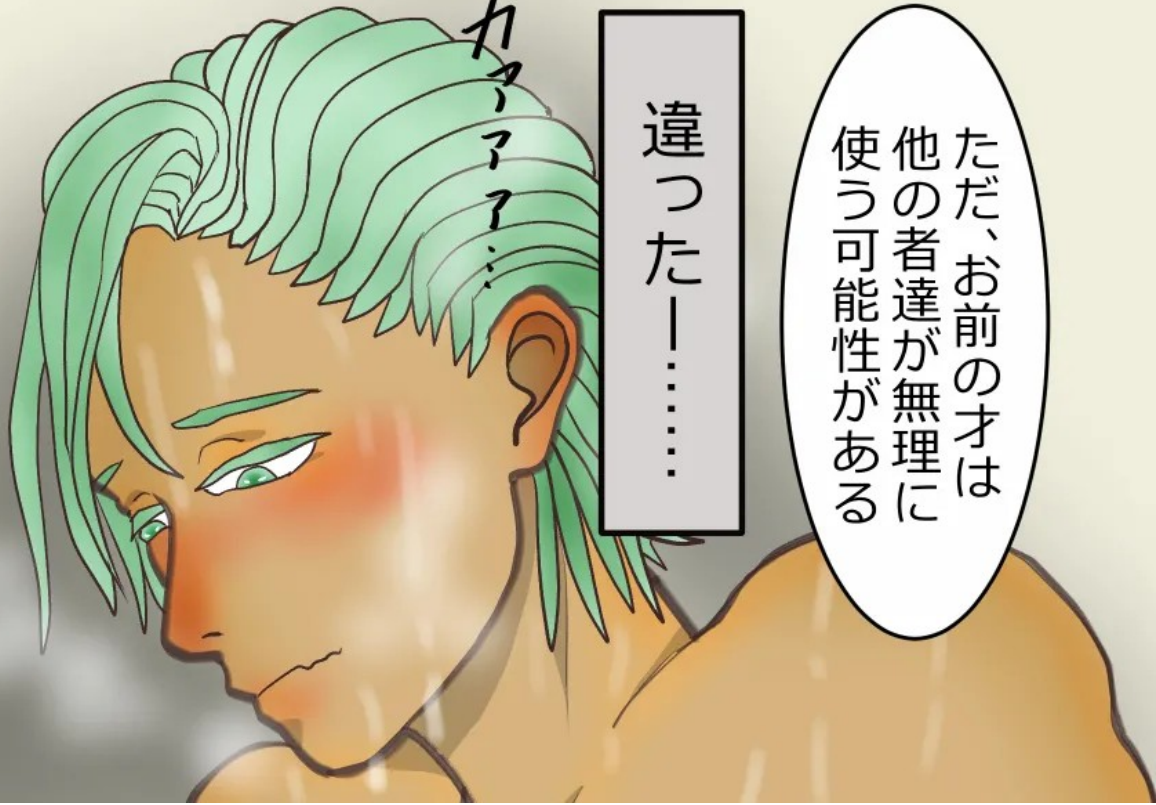
悪意を持った行動が  
出来ぬように永遠の  
魂の誓約を結ぶ事

ただ、お前の才は  
他の者達が無理に  
使う可能性がある

違ったー……

カアアア……

なので二つ目は  
この森から出ずに  
監視下で暮らす選択だ





えっく、暮らす!?  
暮らすって一緒に?!

お、俺と一緒に  
暮らすって  
事ですかッ!?


そうだな  
森に放置したりは  
流石にしないぞ

ん

ドン

ん

ん



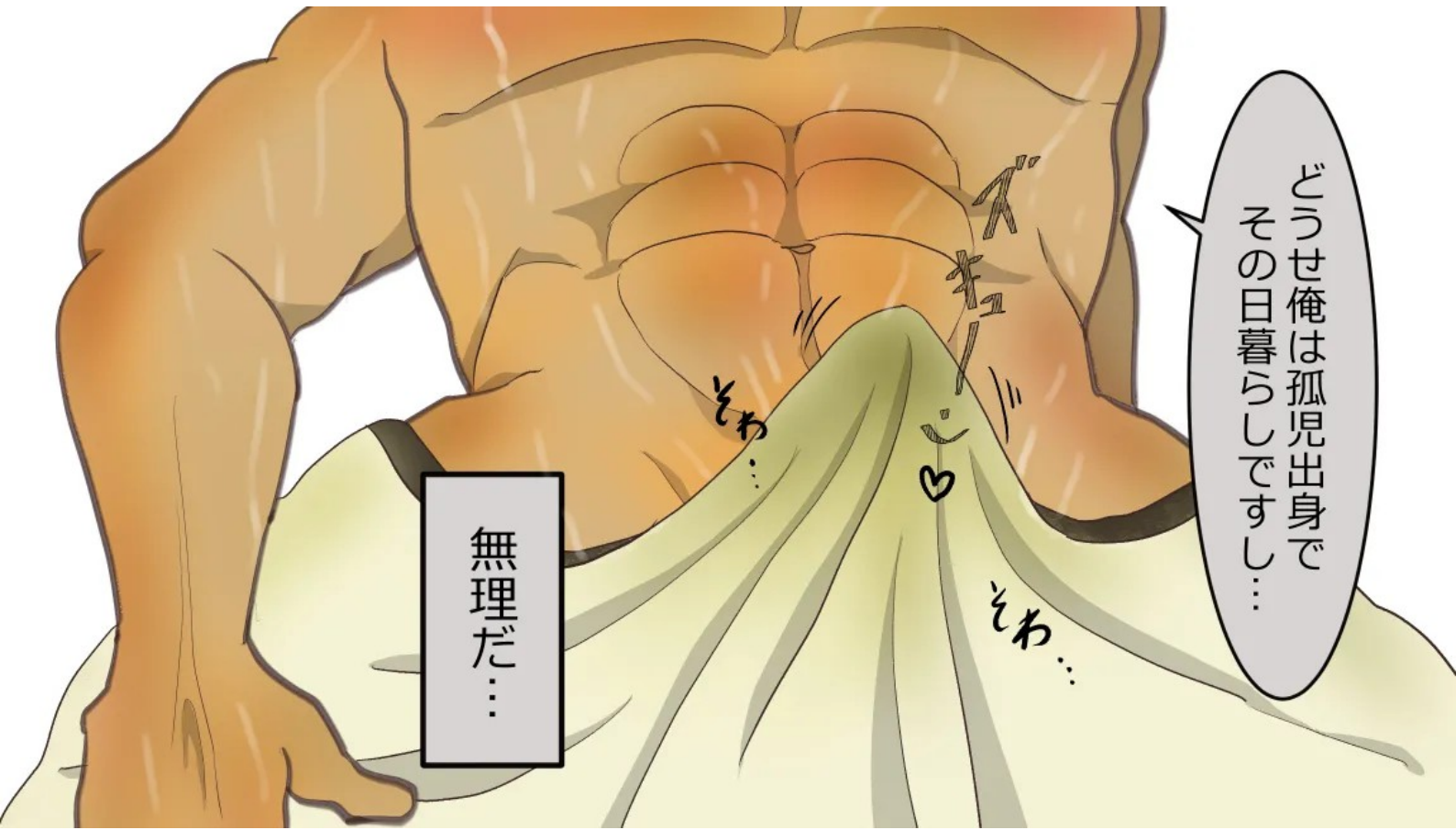
で、では…  
ーとー…ッ

二つを合わせた  
魂の誓約は  
どうでしょうか？

二つを合わせると…？



一つ目は輪廻を  
繰り返そうと  
縛られる誓約だぞ？



無理だ…

どうせ俺は孤児出身で  
その日暮らしですし…

そわ…

♡

そわ…

その方が  
安心できるかと  
思っています……

こんな勃起してるのに  
俺の言葉に信用なんて  
皆無に等しいじゃないかッ！





殊勝な心掛けだね

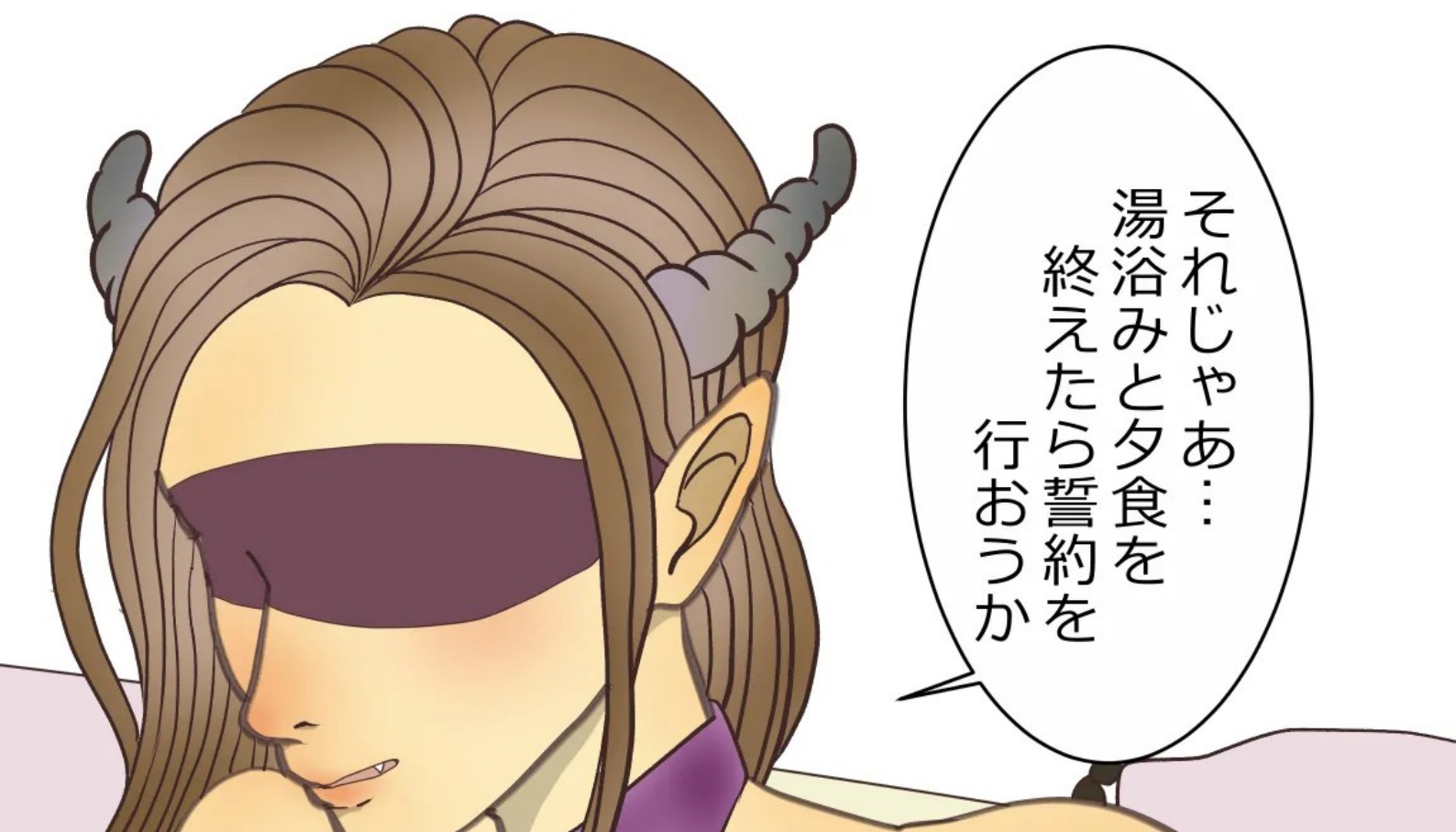
……  
うん



勇者一行に  
良いように使われて  
その上、私にまで……

そうしようか……

こんな清い子を  
あのような者達の元へ  
帰すなどできる筈ないッ



それじゃあ：  
湯浴みと夕食を  
終えたら誓約を  
行おうか

二話目 おわり  
《殊勝な提案》





三話目


《過保護な洗淨》



……俺は  
都合の良い  
夢を見てるの  
だろうか……？


ちやほほ

んっ

A person with short, spiky blue hair is sitting on the rocky edge of a hot spring. The water is a vibrant yellow-orange color, and steam is rising from it. The surrounding environment is a cave-like setting with brown rock walls and a blue sky visible through an opening in the cave. A wooden plank is leaning against the rock on the right side.


広い湯に浸かれる  
自体、貴族の特権だ

それに…人々に  
恐れられている  
無慈悲なクイーンが  
助けてくれた上に  
手厚くしてくれてる…




俺達の認識が  
間違っていたんだろうな…  
だとしたら…時折聞く  
魔の者達との戦いは  
彼女の様な相手なのか？

魔の者を討伐した  
どれ程に残忍だったか  
そういつた情報を  
俺は鵜呑みにしていたし



他の人々も、そう信じている  
だからこそ優秀とされた  
勇者候補と捨て駒の俺が  
選ばれたんだろう…

調査のみならば命はと思い  
俺も荷物持ちとして  
立候補したが…  
しかし勇者候補達は  
手も足も出せずの返り討ちだ



俺は確実に死亡扱いになり  
冒険組合に残している金銭と  
今回の調査任務から出る  
資金は登録先になっている  
孤児院に支払われる筈

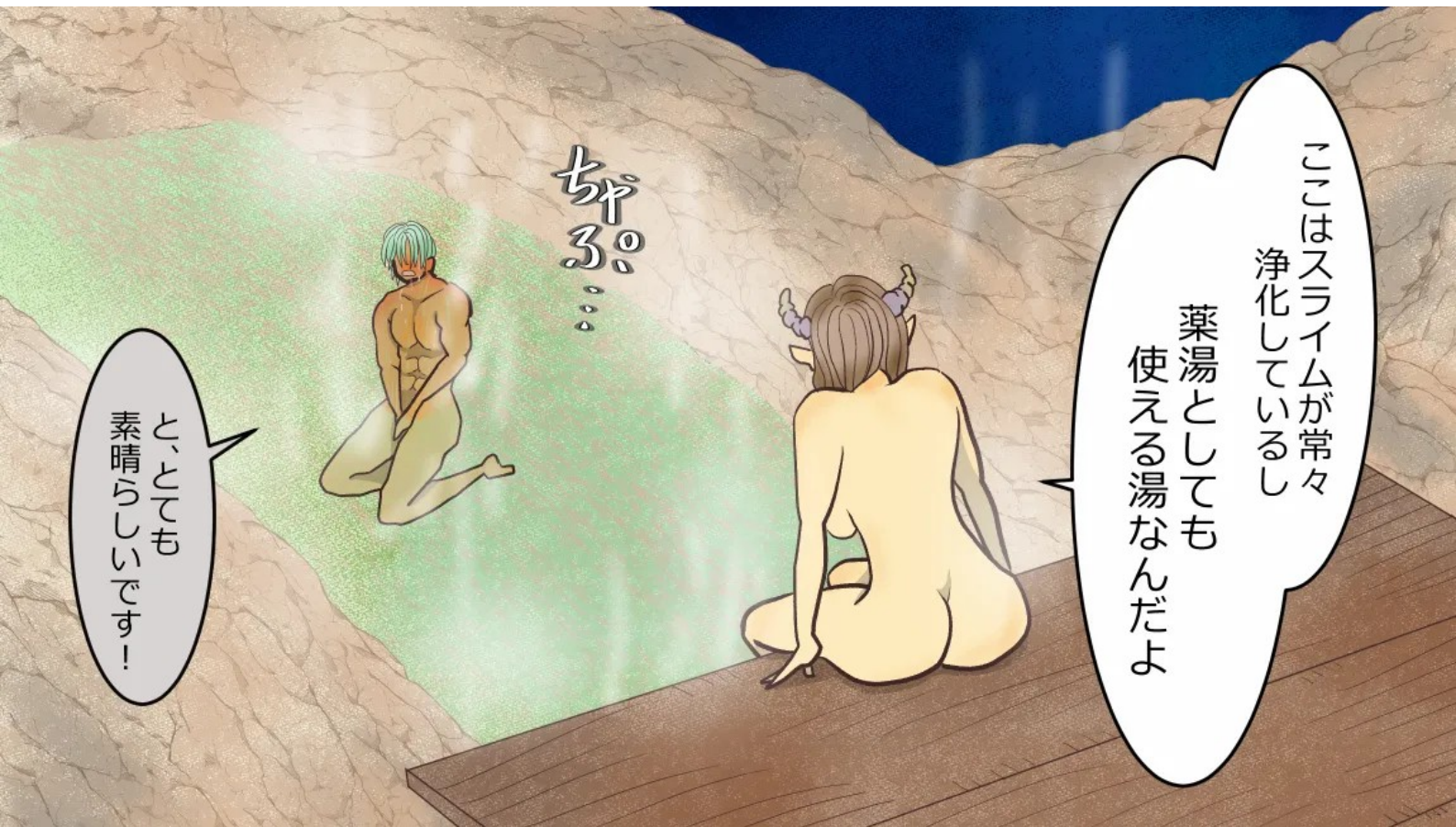
孤児院に直接  
贈り物は出来ないが  
今年の冬だけでも  
あいつらが温かく  
過ごしてくれたら：



湯加減はどう？  
人間にとつても  
良い感じかな？

スフー...

ドクダク

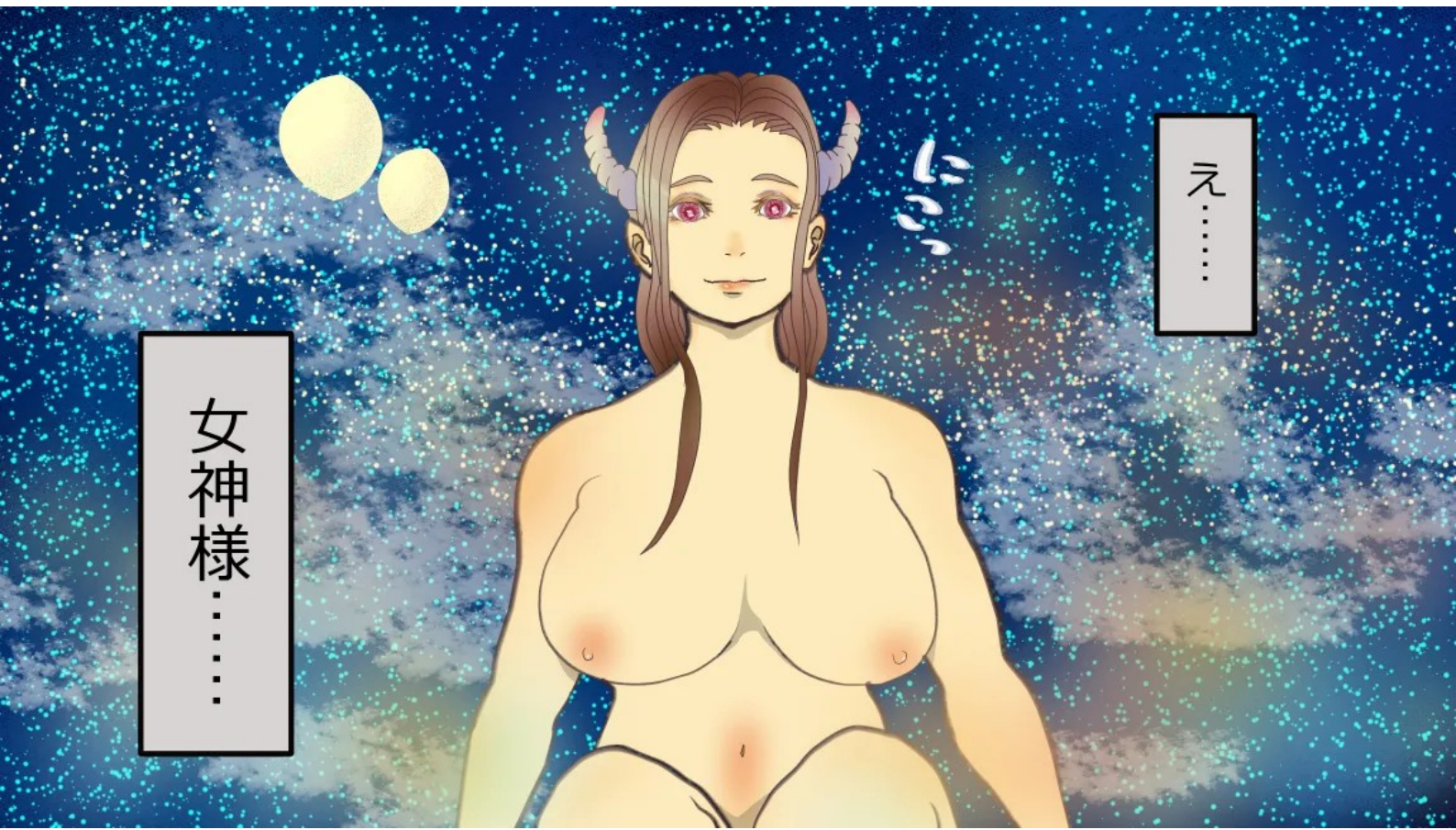


ここはスライムが常々  
浄化しているし

薬湯としても  
使える湯なんだよ


ちやふ...

と、とても  
素晴らしいです！



女神様……

え……

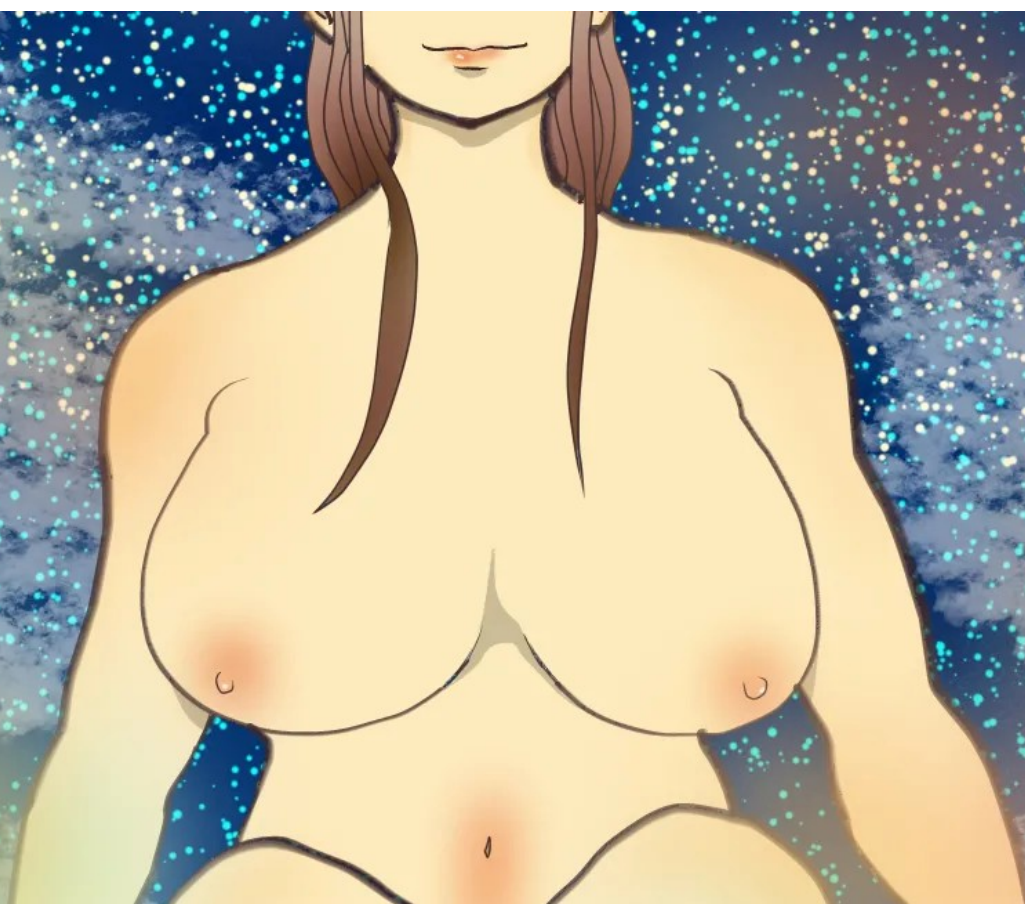


顔隠しの時から  
気品を感じていたが…

あまりにも  
美しすぎる…

それに……

女神の肌が……♡



そ、そんな…♡  
人と感覚が違うからか？  
裸で一緒にだなんて…♡  
これは、やはり俺の夢…

妄想？幻想？  
こんな幸運  
あるわけが…

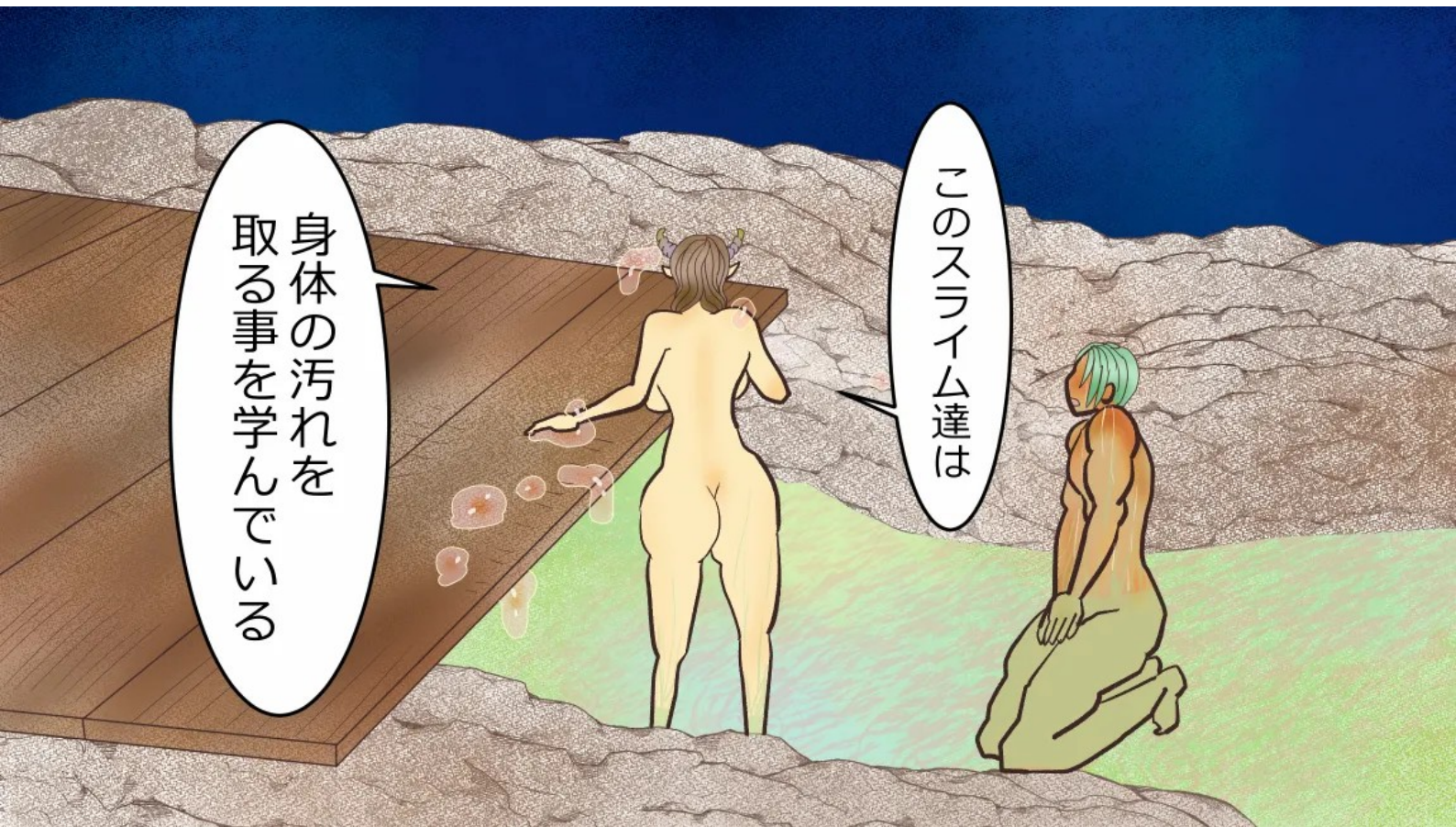


ただ浸かるのも  
気持ち良いが  
スライムで洗うと

それもまた  
気持ちが良いんだ  
ラノアもしょうか


え？





身体の汚れを  
取る事を学んでいる

このスライム達は

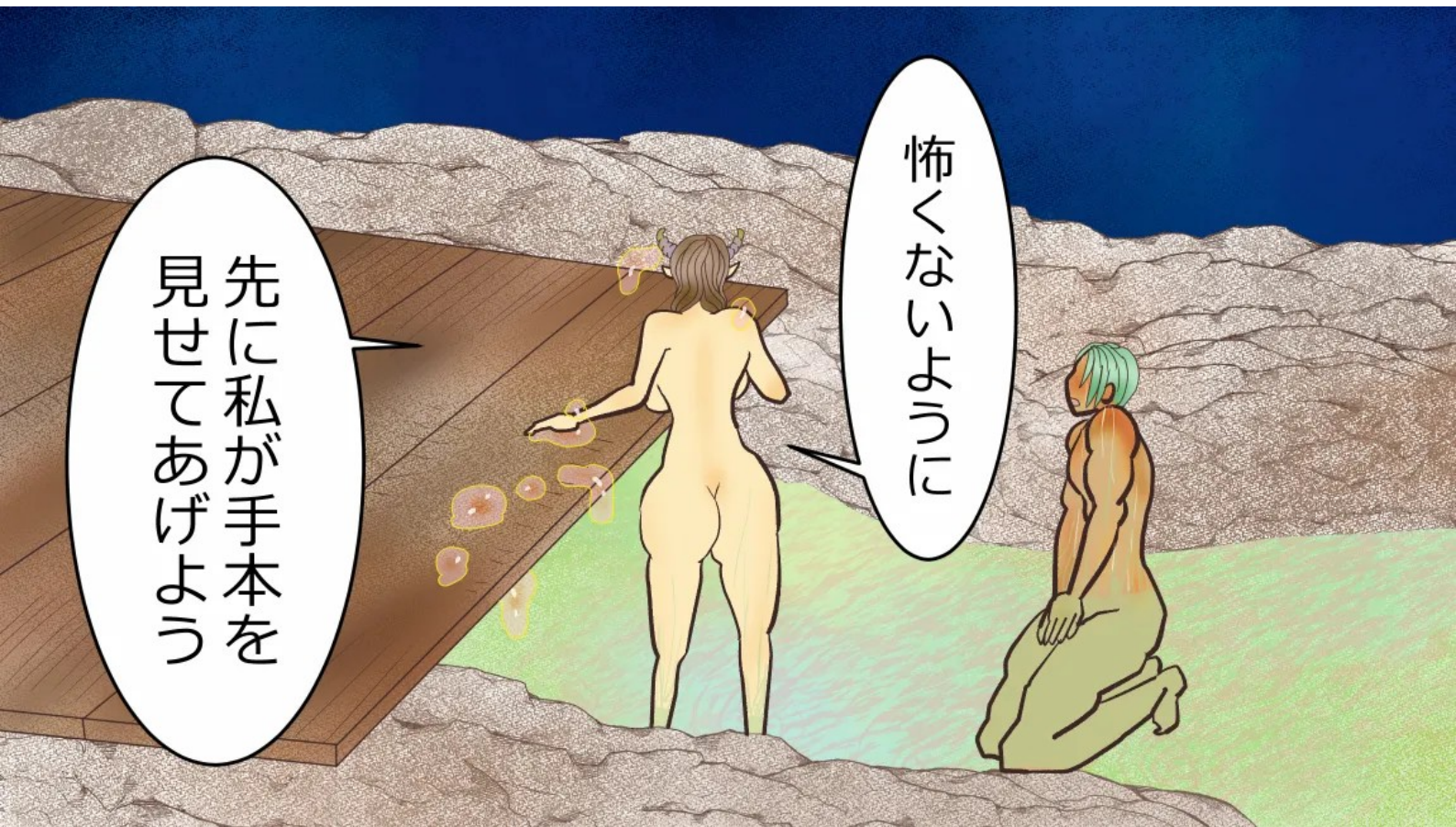


他にも  
この薬湯の効能を  
体内に濃縮し

回復や体力向上が  
行える者達だ

スライムを使って  
一体ナニを……♡





先に私が手本を  
見せてあげよう

怖くないよ



まとわせるだけで  
身体中の汚れが  
落ちていくんだよ

こっやって身体に...

じ、じわって…

そうなんです…

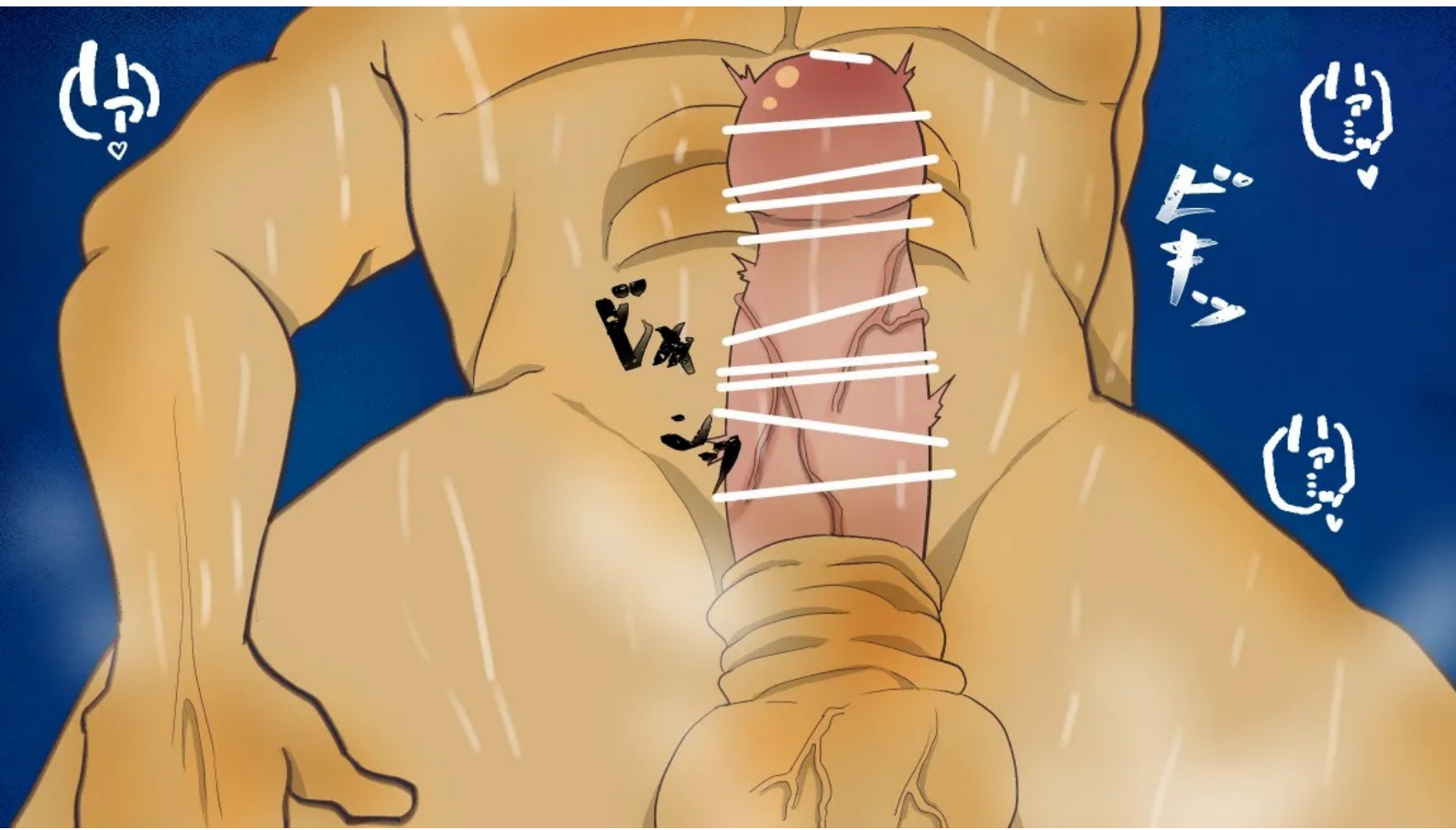
ん、ん

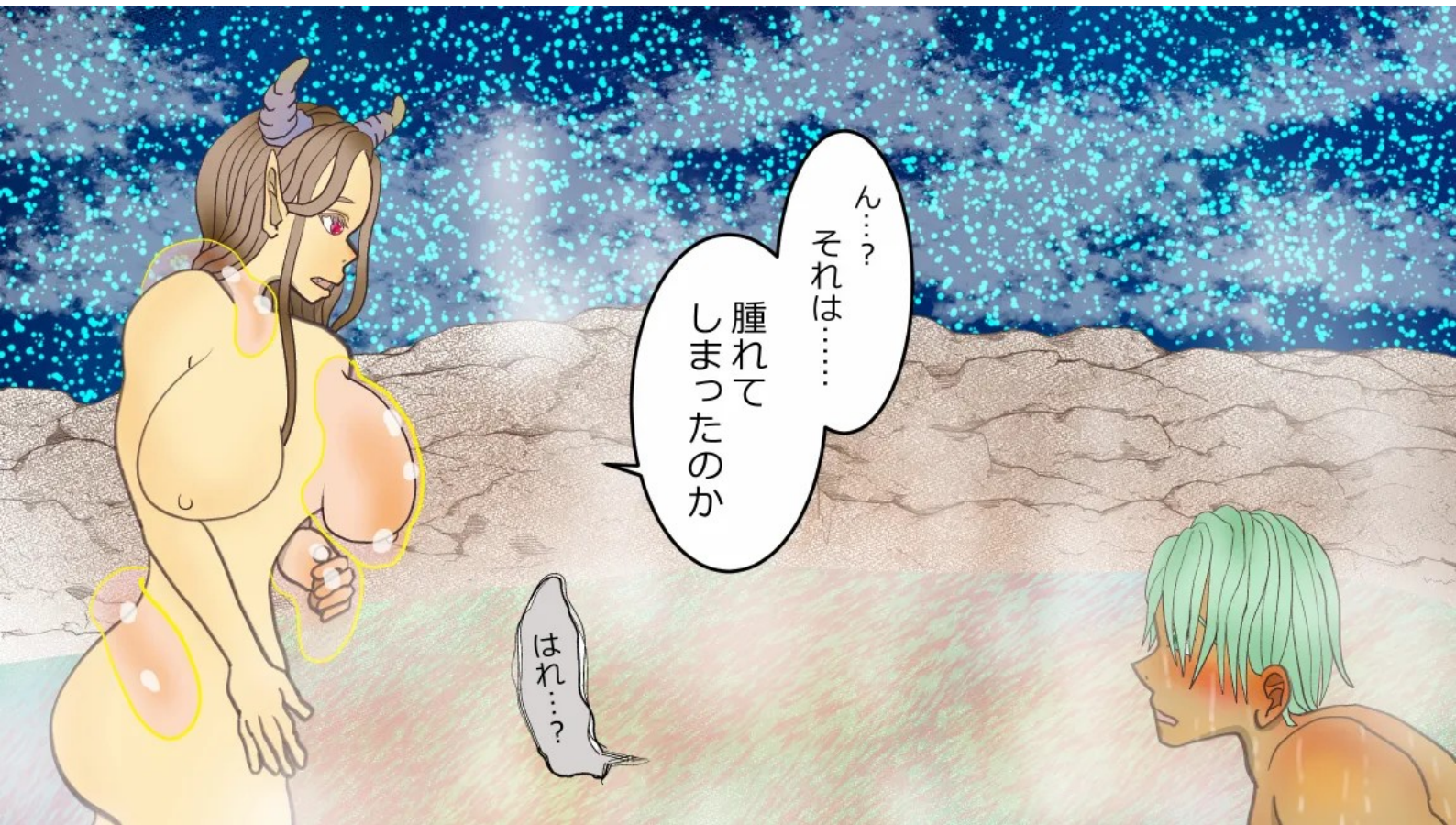
スイ

スイ  
ん、ん

卑猥すぎるんじゃないだろうか…♡

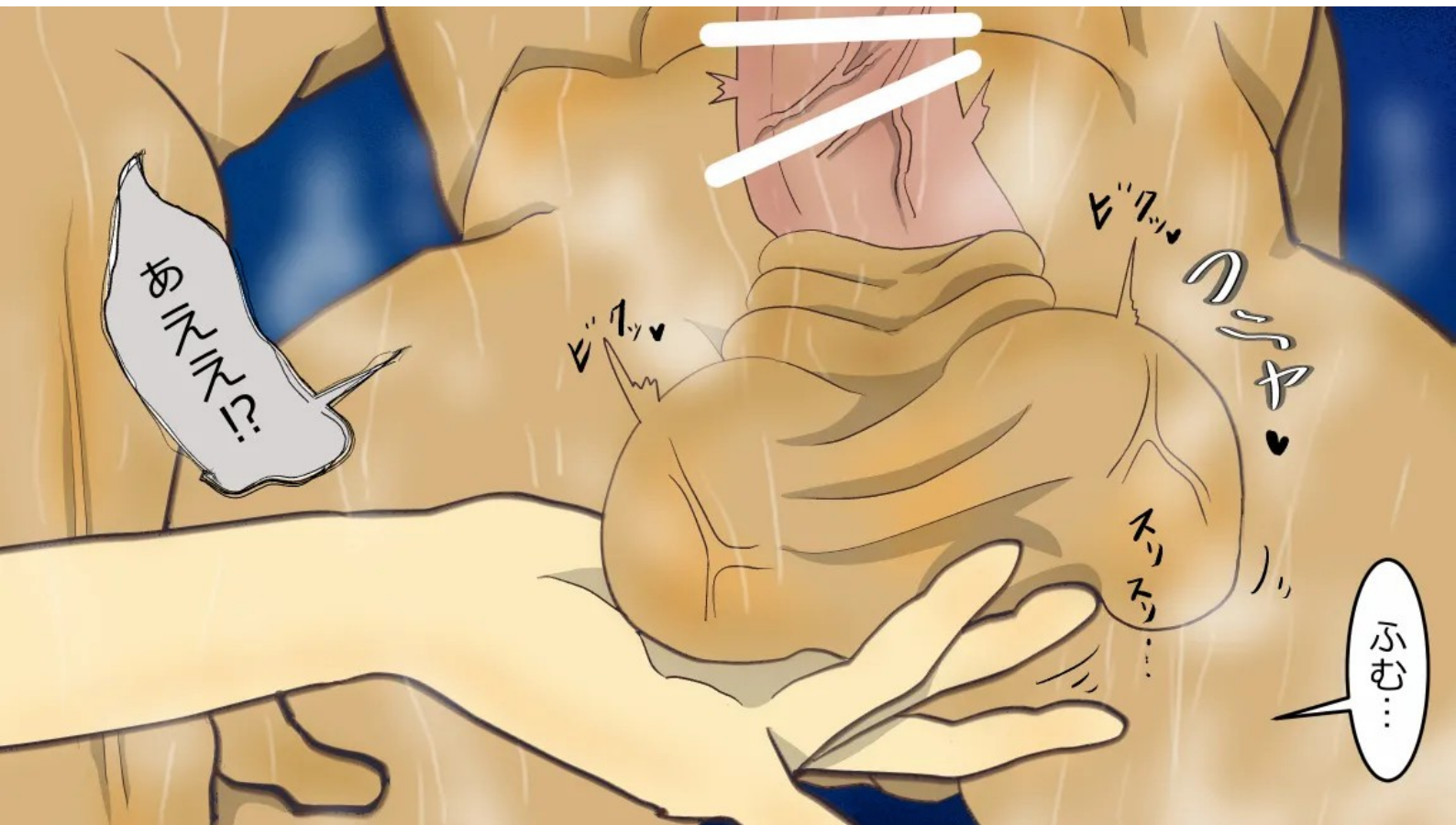




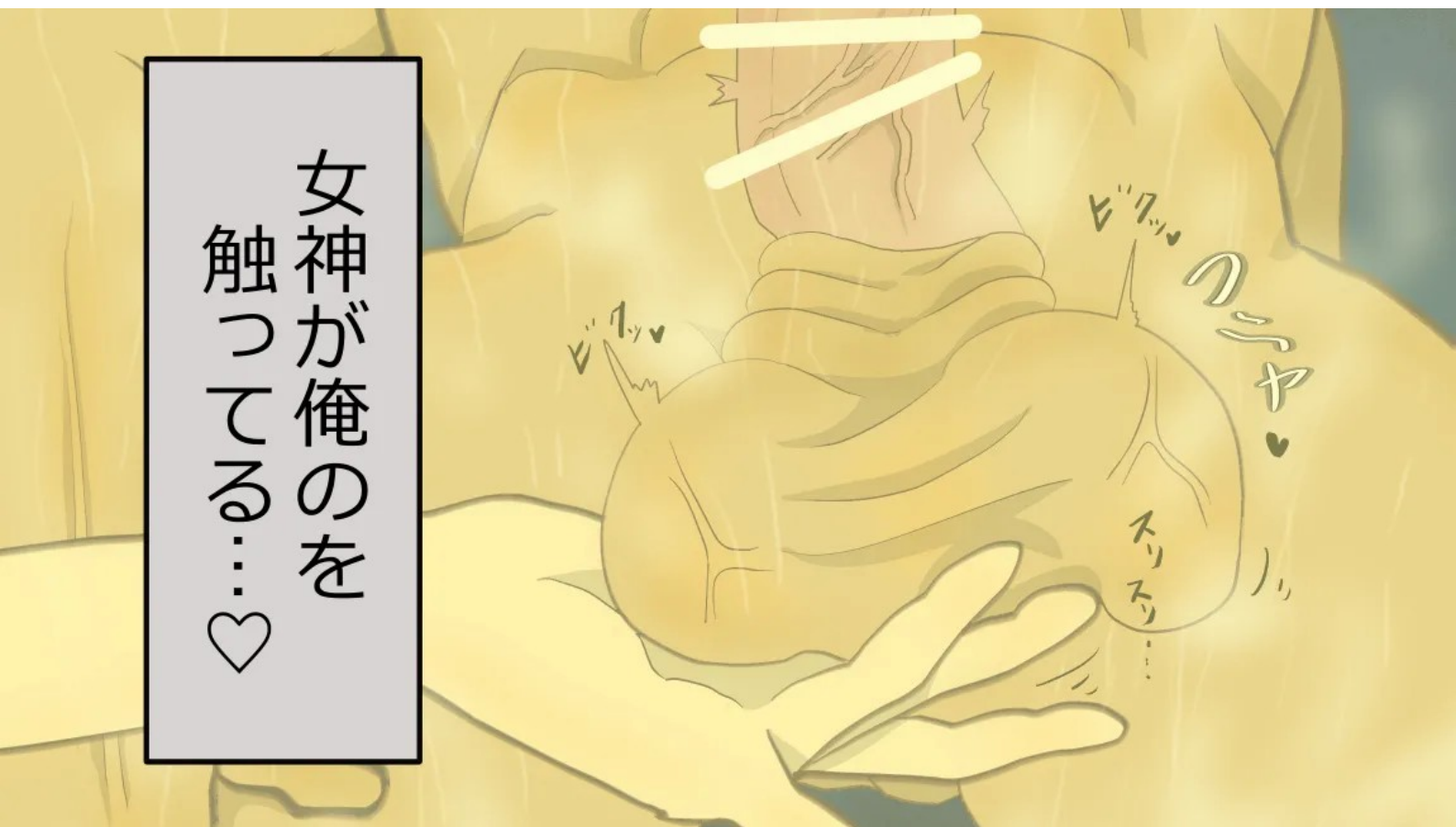


ん...?  
それは...  
腫れて  
しまったのか

はれ...?



女神が俺のを  
触ってる…♡



張っているし  
熱もあるな…

そ、そう…どう？

上也柔く  
触るぞ…

200...♡





血流…  
脈の動きを感じる

あり♡

ふあ♡

たわ、たわ

ス、ス

薬湯に浸かり  
起こったのなら

あ

アキ

スイ

う

スイ

アキ

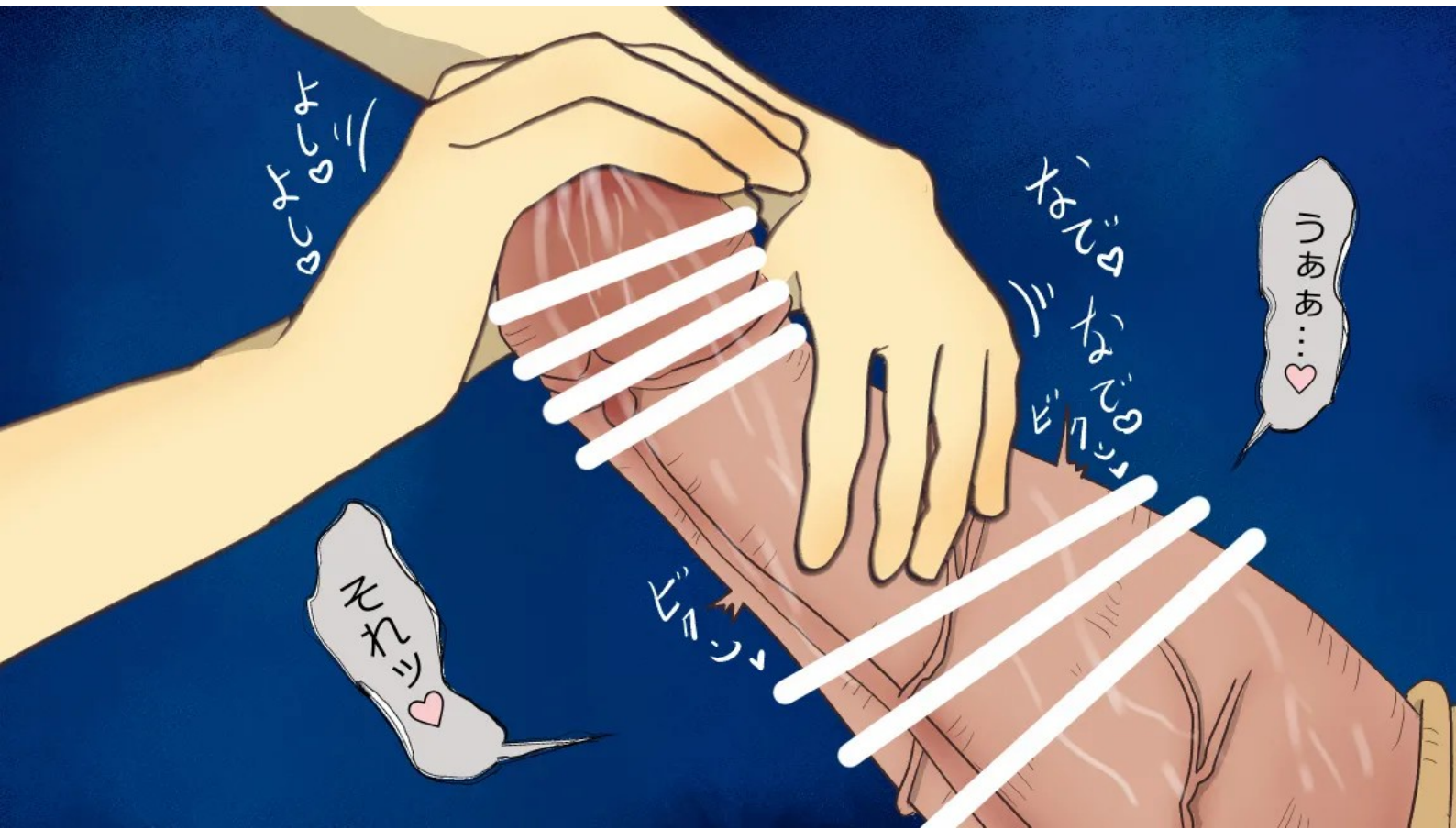
う

う

ん

逆に改善の為に  
反応したのか…





おっおっおっ

おんおんおん  
おんおんおん

うああ...♡

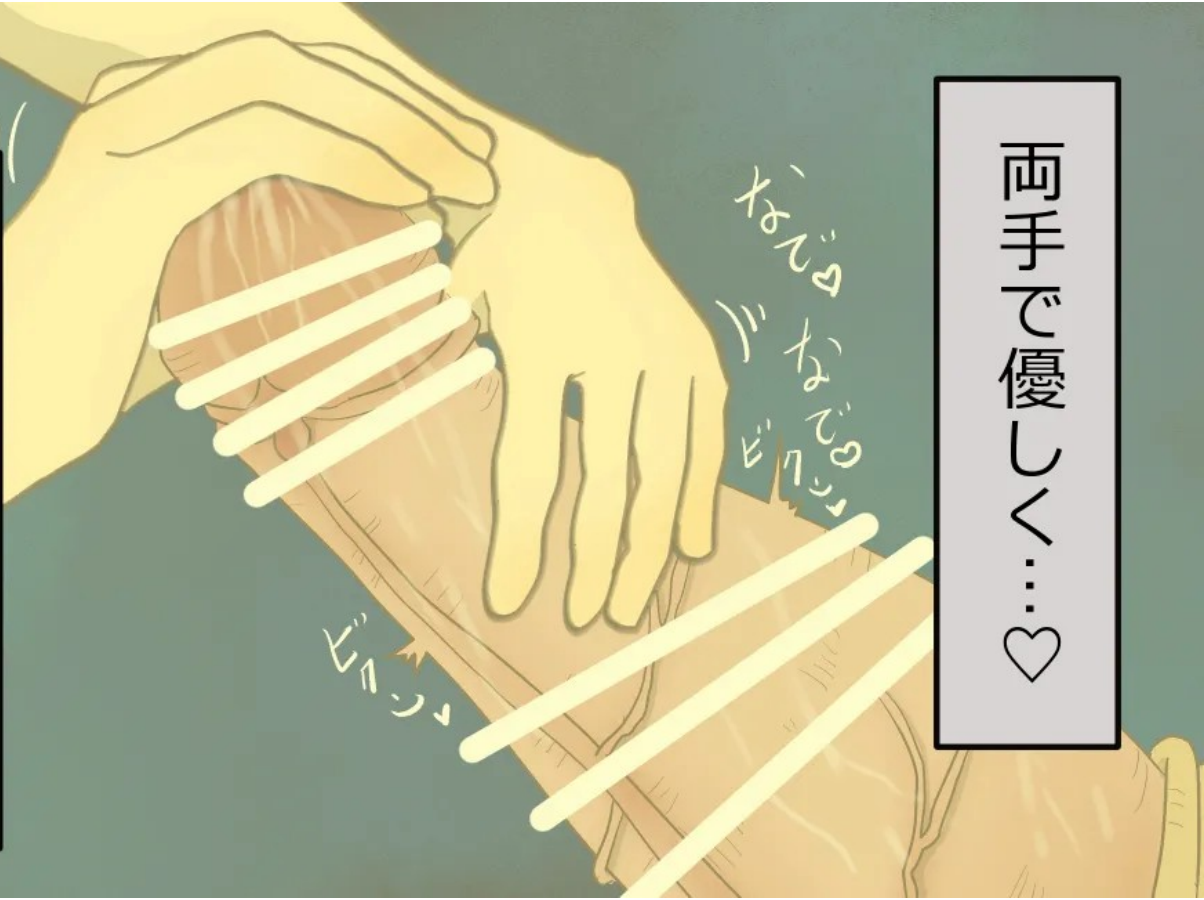
おんおん♡

おんおん

おんおんおん

両手で優しく…♡

竿と亀頭を  
撫でられ続けたら  
そんなの…♡









白い膿が出たら少し  
柔らかくなったな…



味は少し苦いが  
害になる要素は…

毒では無いし  
これは……？

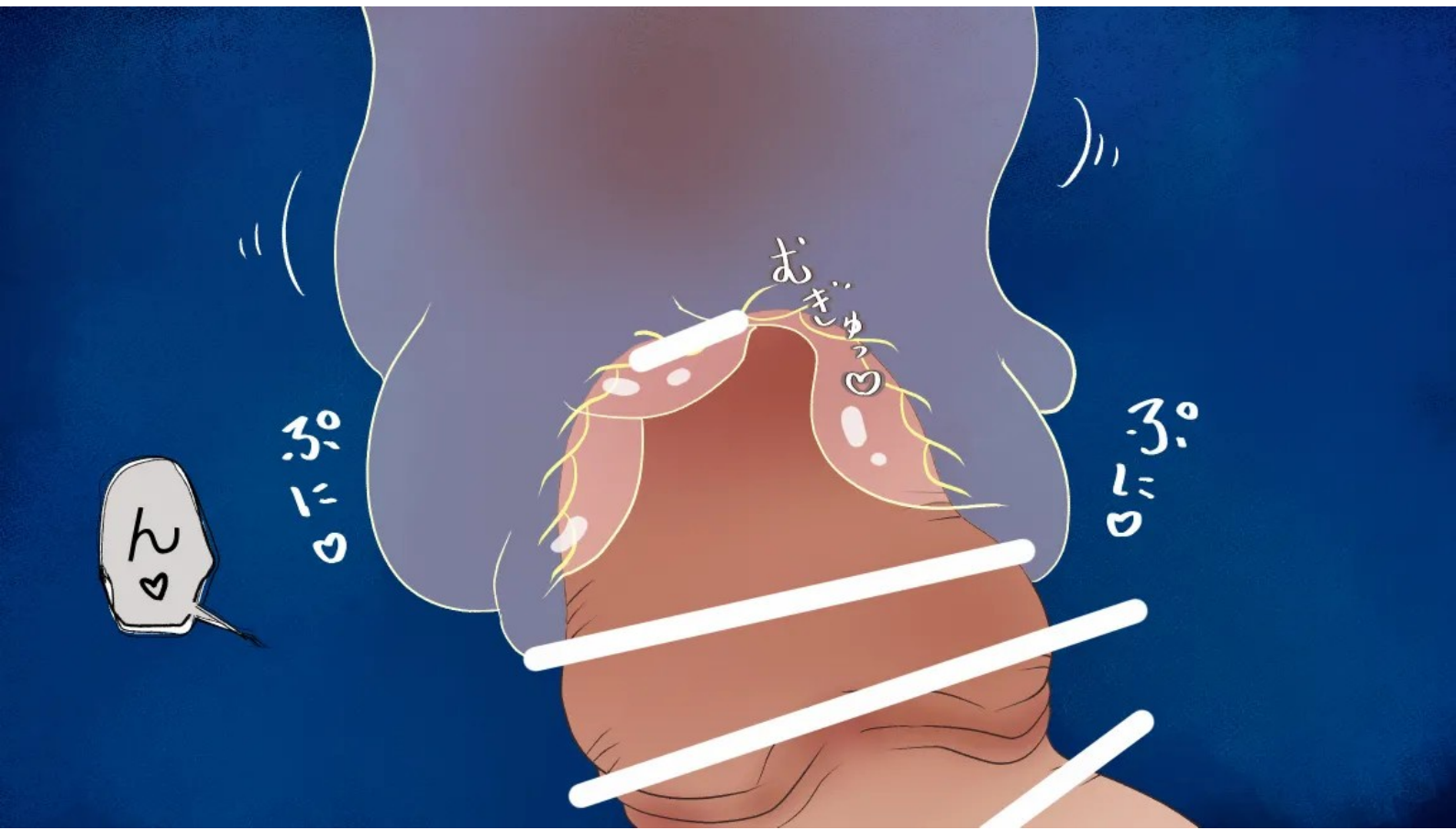
ん  
ん

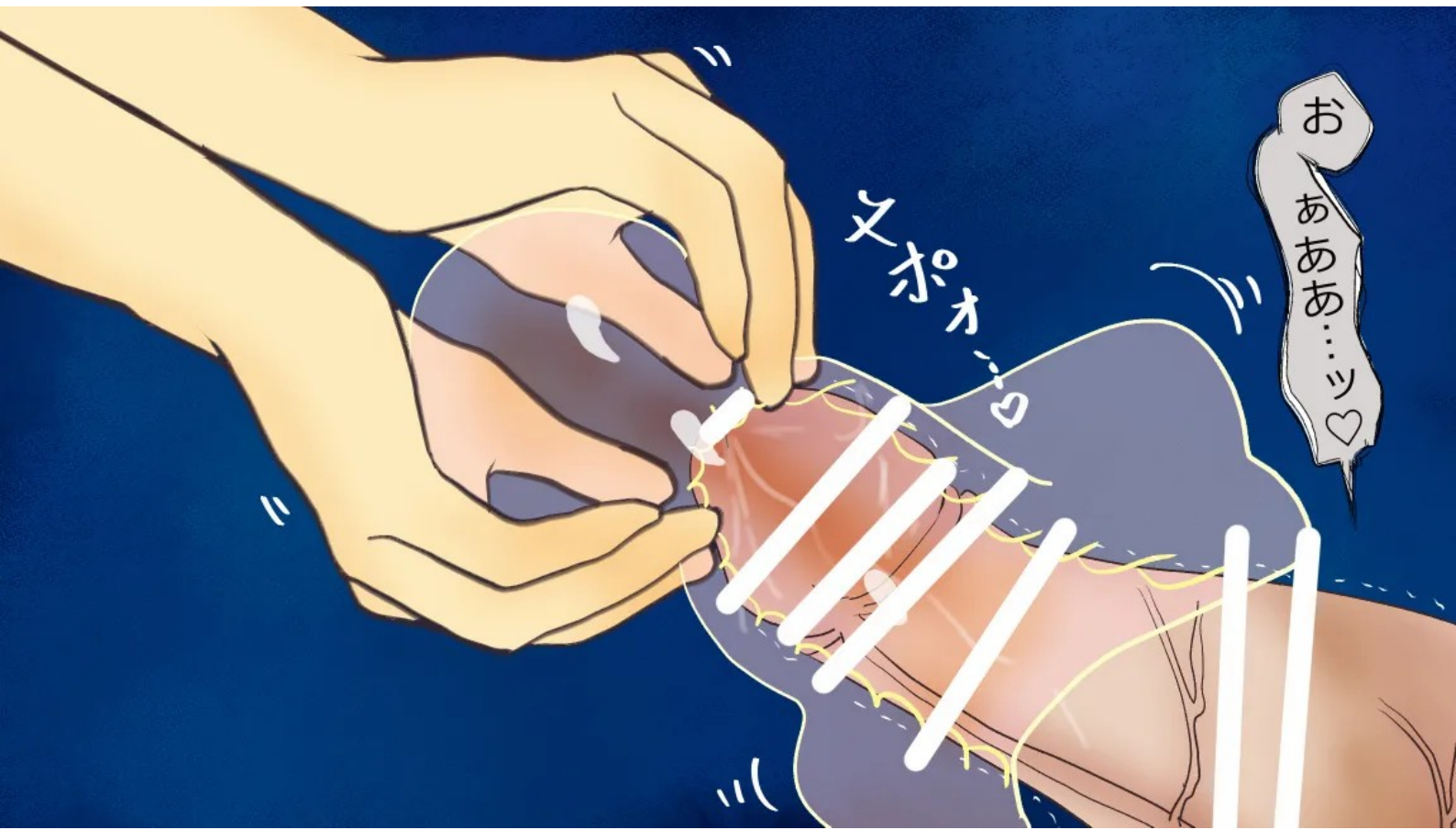
お、俺のを…  
舐めてる…♡

一応、スライムを  
使って出そうか

えあ…？







お  
あああ...ッ♡

又ホォー♡



念の為に痛覚遮断を  
しておこうな

気の流れからして  
痛みは無いようだね

はっ♡

うっ♡

あッ♡

くぽぽ♡  
わっ♡

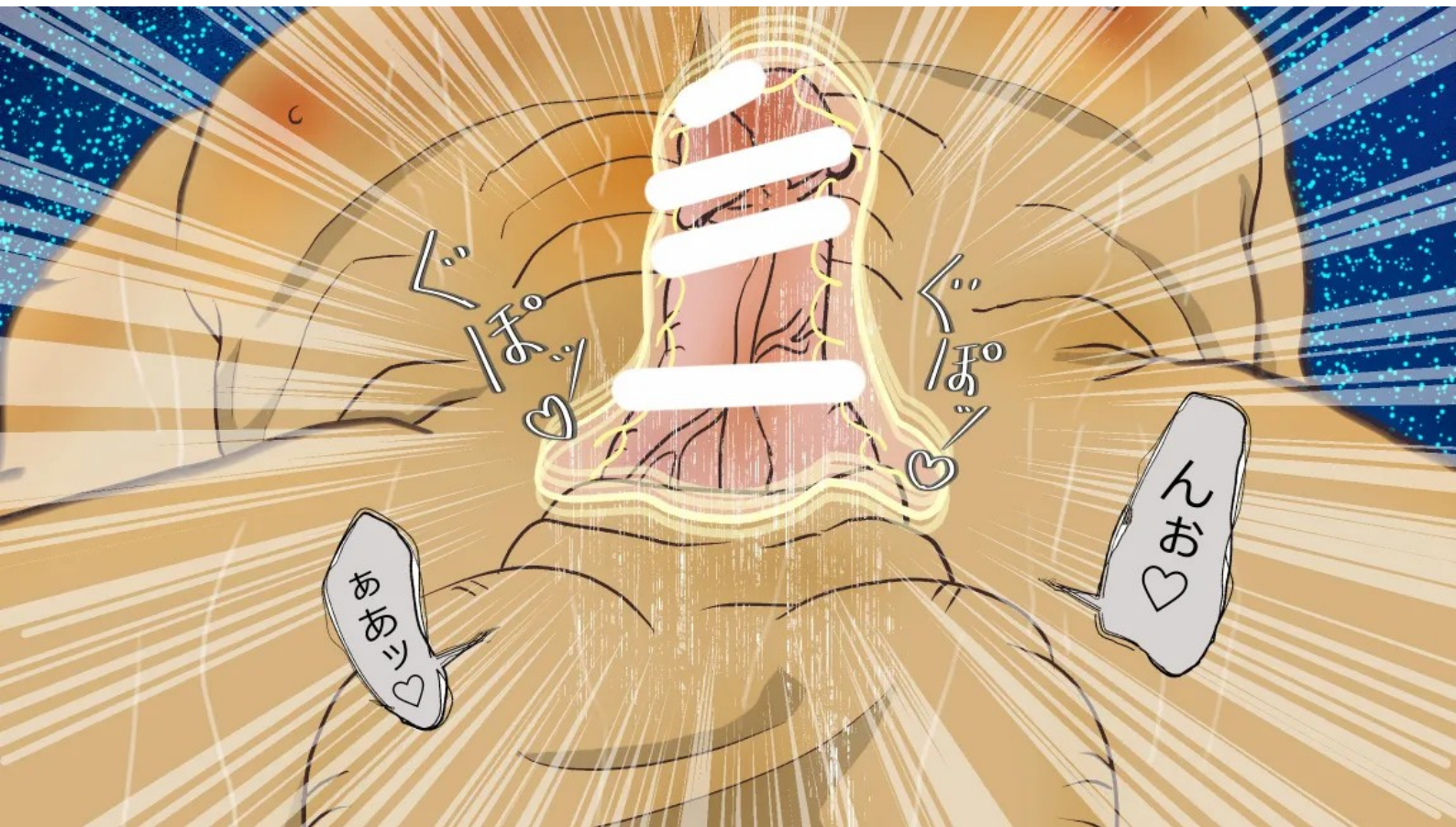
おっ♡

レッ♡



スライムが  
隙間なく密着して♡  
心地良い締め付けが♡

これ気持ち…♡  
腰が勝手に  
動いてしまう…♡





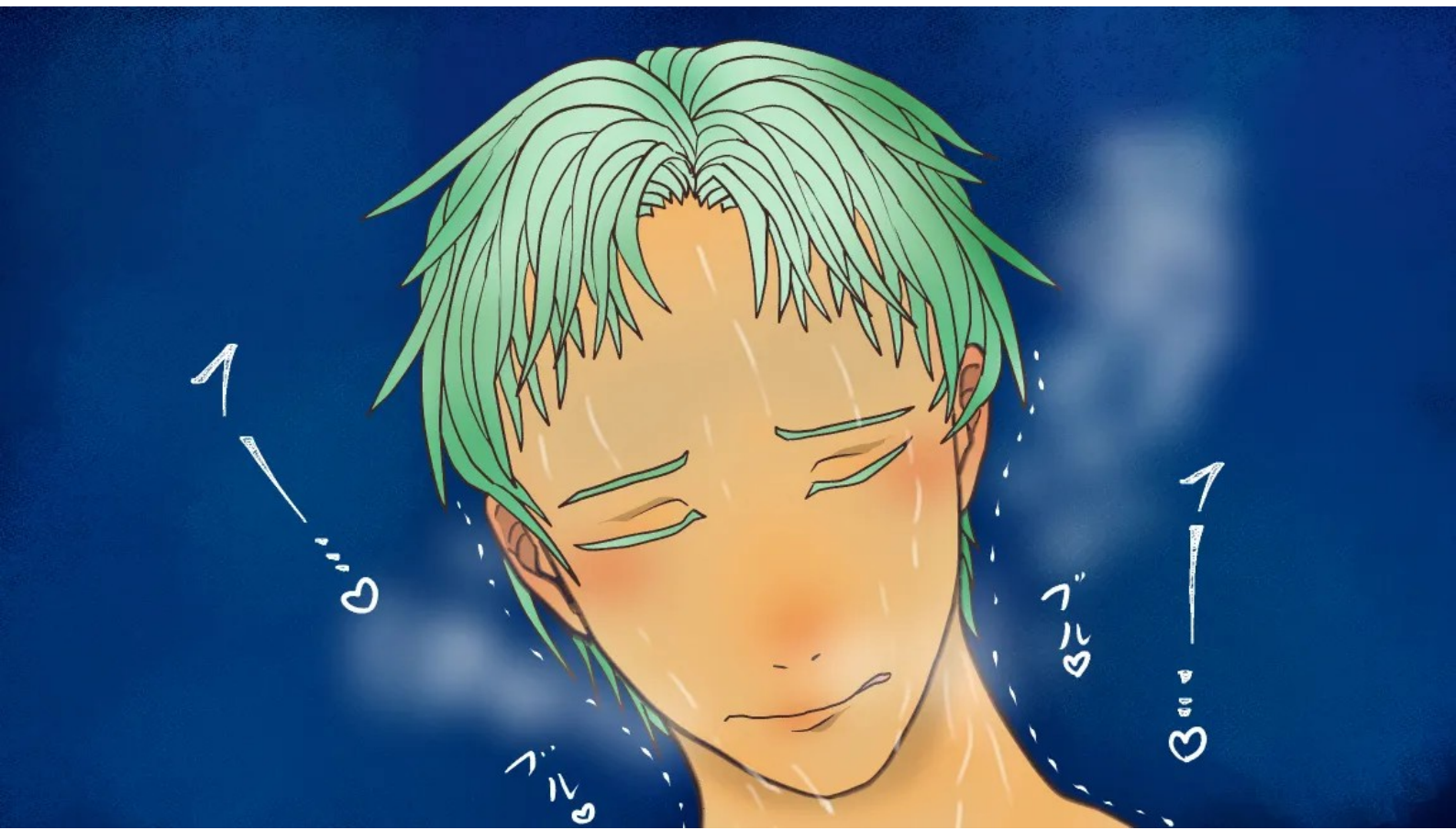




ヒビッ

ヒビッ

うおおあ♡





スライムが奥の  
精子も吸い取って  
ゾワゾワする…♡

んあ〜〜〜♡

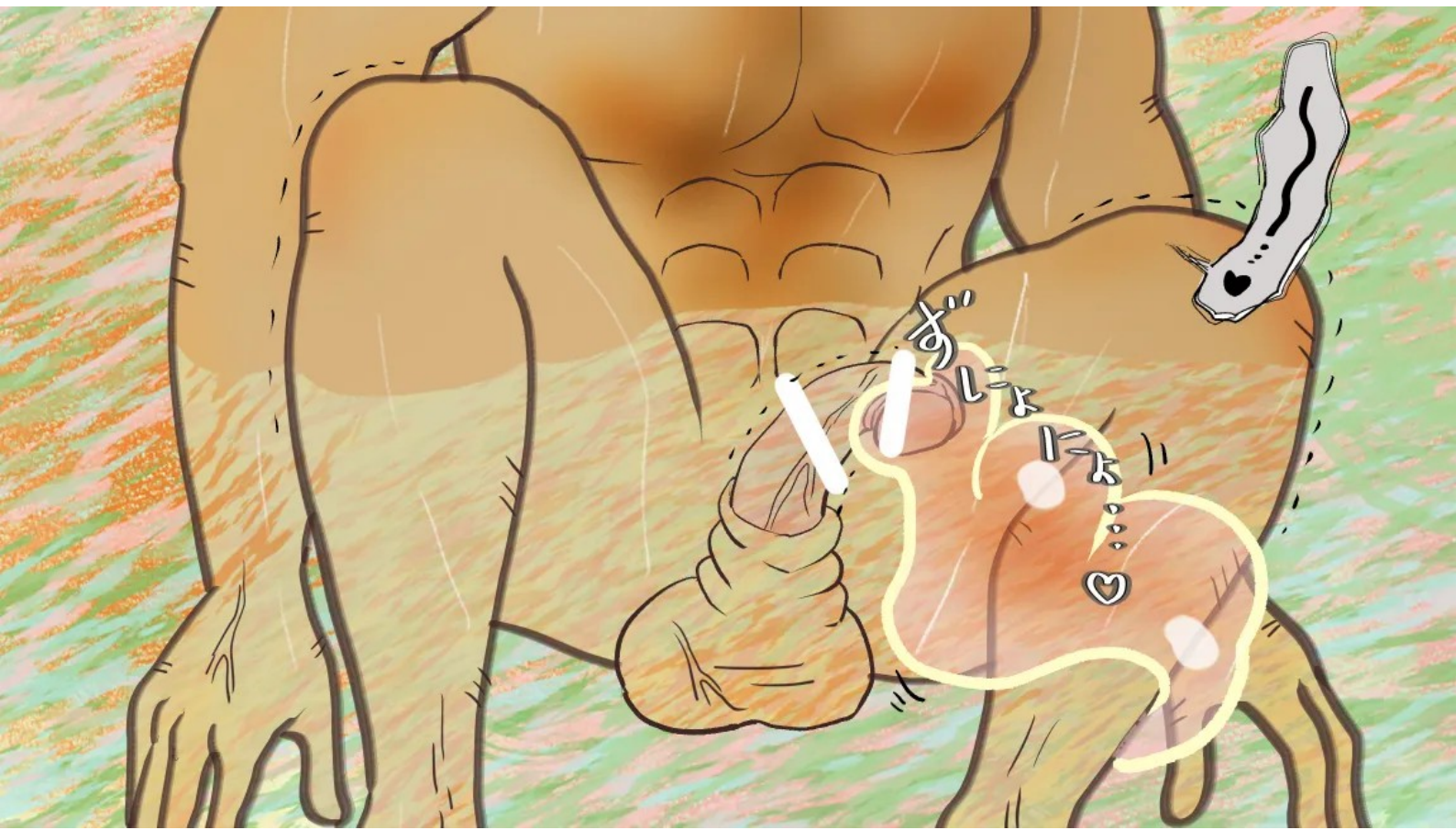
スロ〜ッ

ハッ

ハッ

ゴクッ

ゴクッ





最初にされた  
プラントの時も  
そうだけれど……  
こんなに気持ちの  
良い事は始めてだ♡

おわり……♡

ア  
イ  
どん♡  
あにゅ♡

広大な迷いの森の管理者  
無慈悲なクイーンと  
呼ばれる恐ろしい存在

気分はどうだ？

ん？

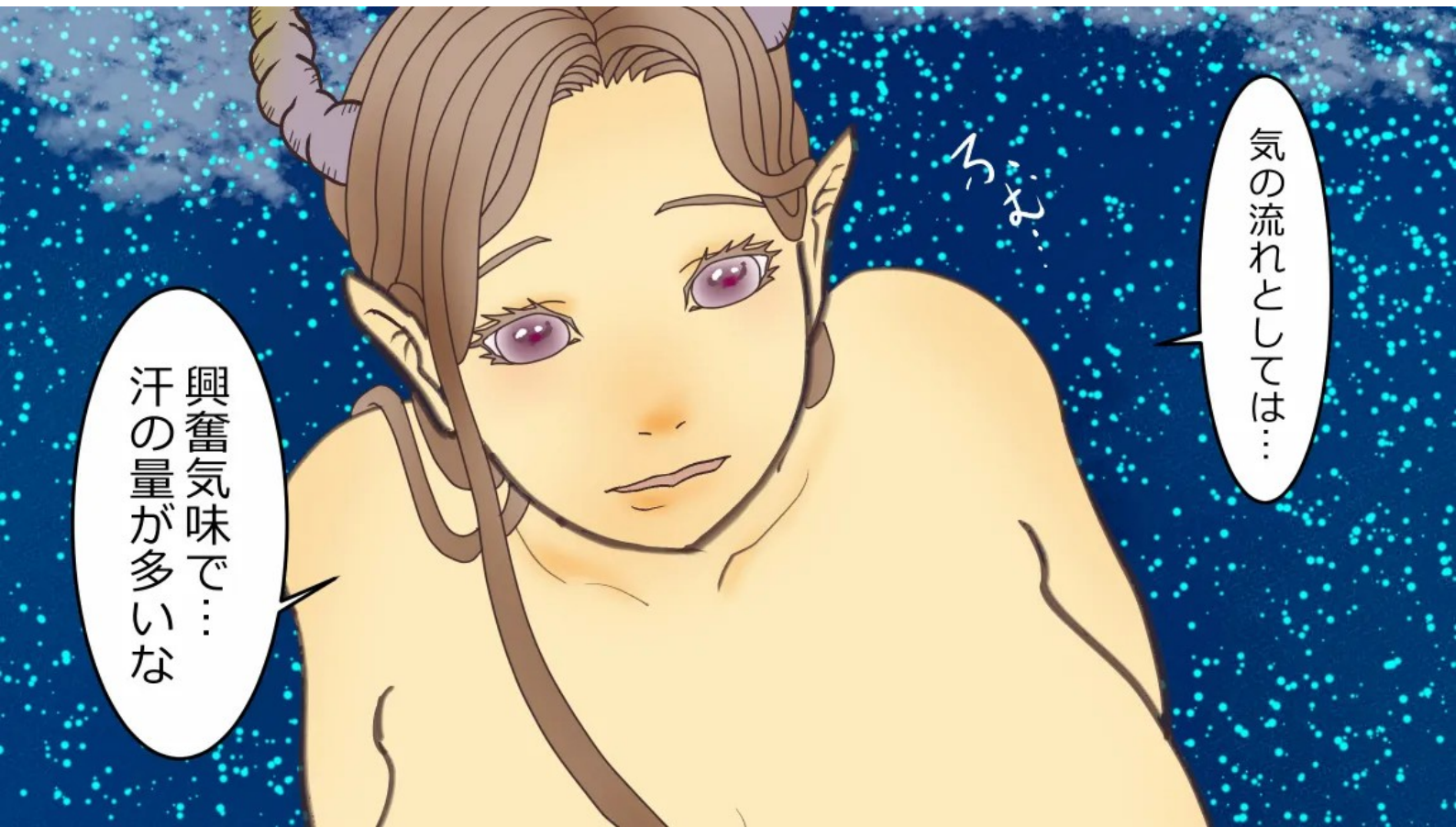
ロトムス大陸の三割を  
占める森を自由に操れる  
能力を持つ彼女は本当は  
美しく慈悲深い存在で……





き  
気分は良いです...


そんな女神が  
俺を癒そうと  
してくれている  
だなんて...  
やはり夢だろうか



興奮気味で…  
汗の量が多いな

気の流れとしては…

ふむ



この湯を飲んでも良いが  
水分補給をするなら  
スライムが丁度出来るな



スライムで直接体内に入れて  
吸収させた方が栄養摂取も早い

クイーン様...?

はーん  
はーん  
はーん  
はーん

ふーん

そんな近くで乳房に  
当てられて息も  
吹きかけられたら…♡



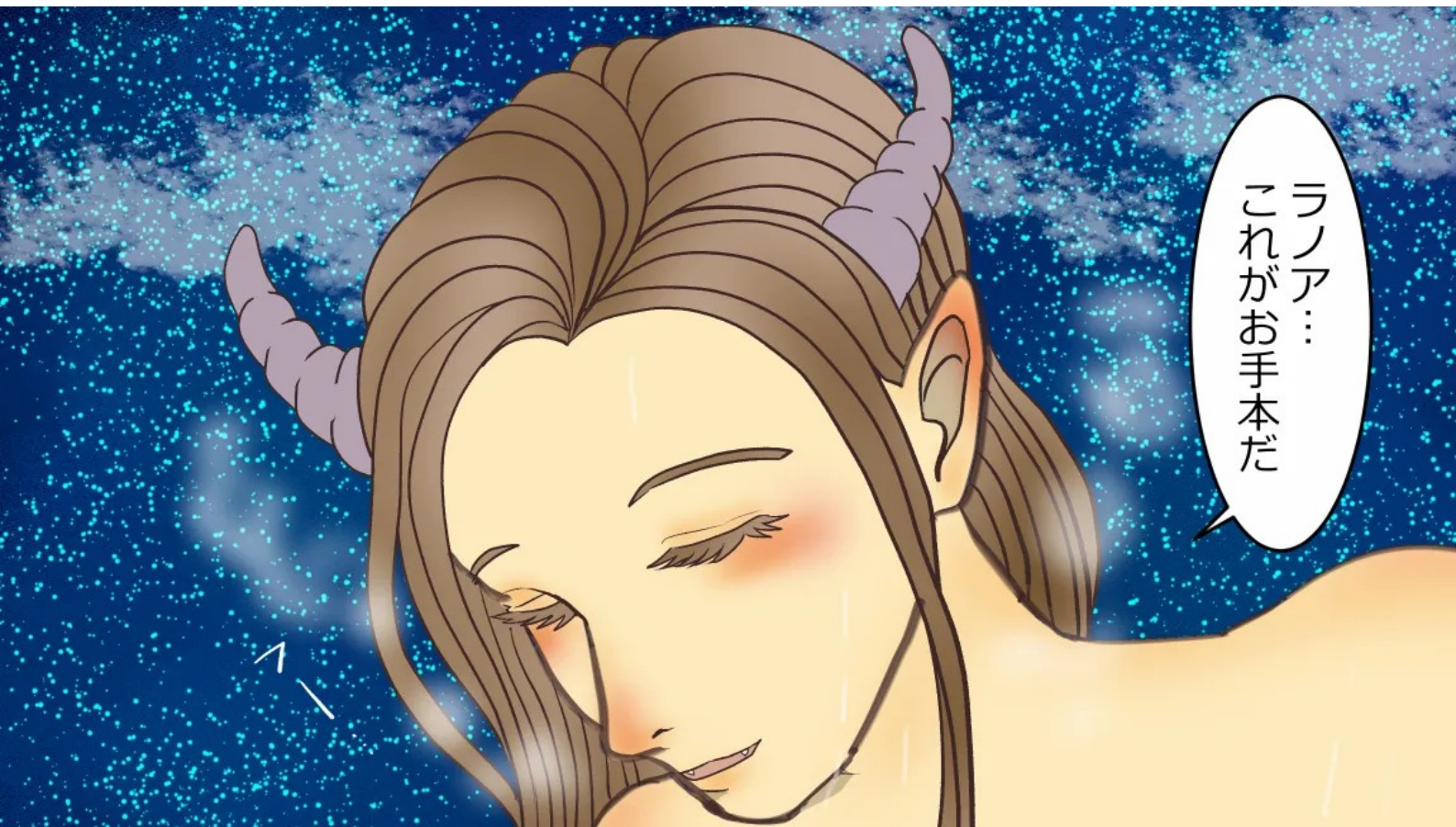


クイーン様…  
クイーンさまッ

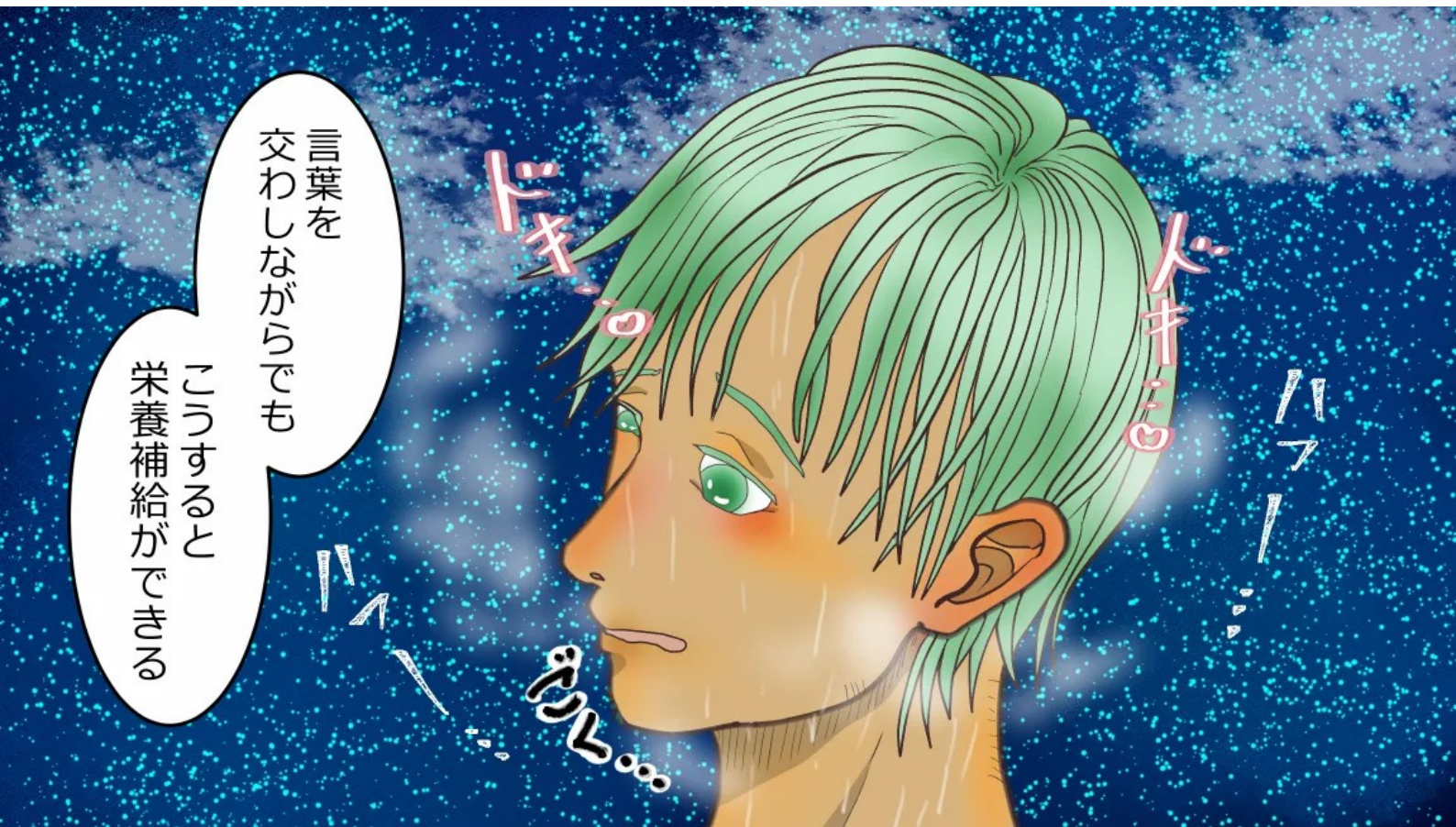
ん…つ、やはり  
出した時のみ  
縮むのだろうか…

まあ水分も減ったし  
共に栄養補給を  
しようか…ラノア

へう？

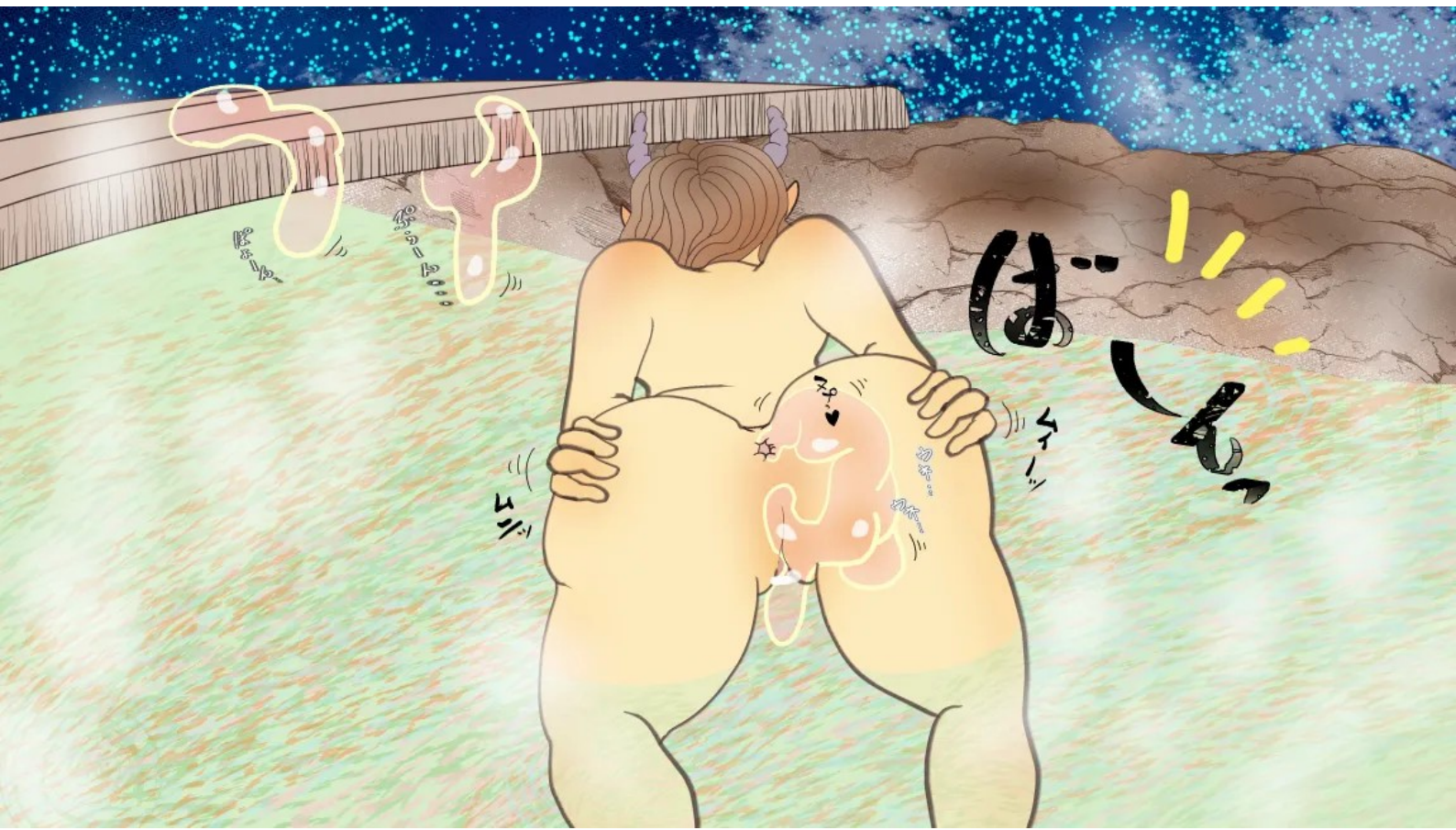


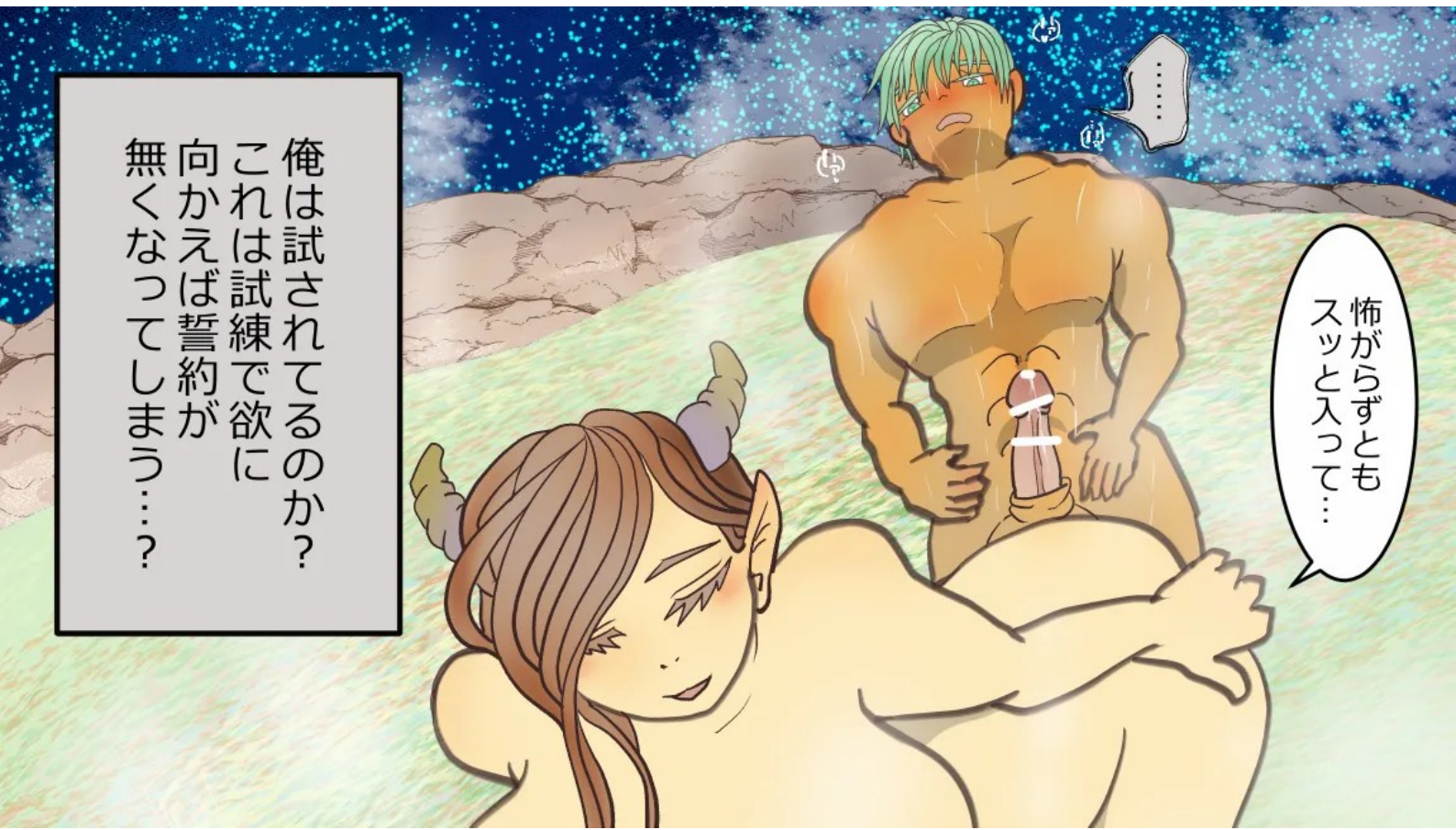
ラノア：  
これがお手本だ



言葉を  
交わしながらでも

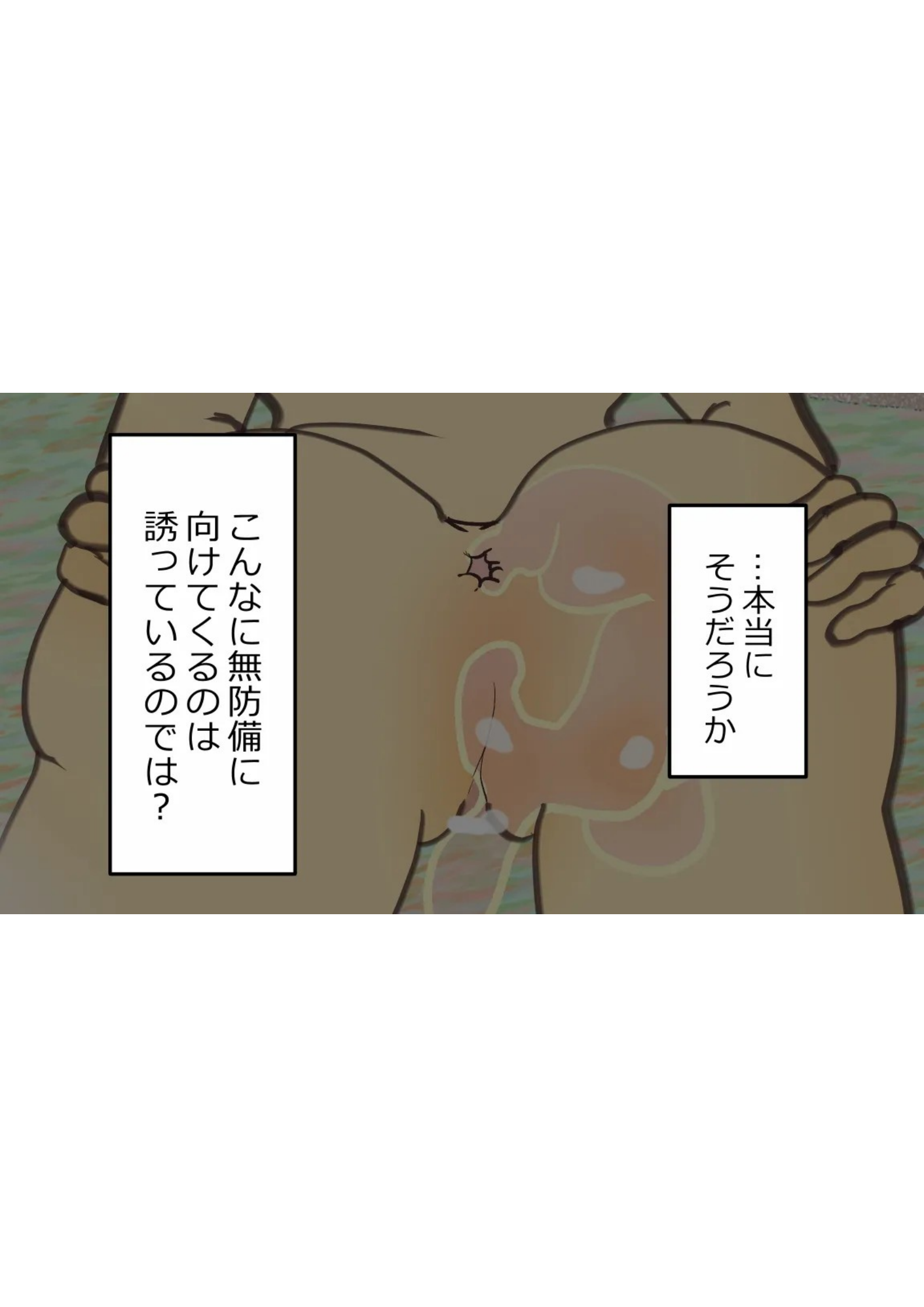
こうすると  
栄養補給ができる





俺は試されてるのか？  
これは試練で欲に  
向かえば誓約が  
無くなってしまう…？

怖がらずとも  
スツと入って…



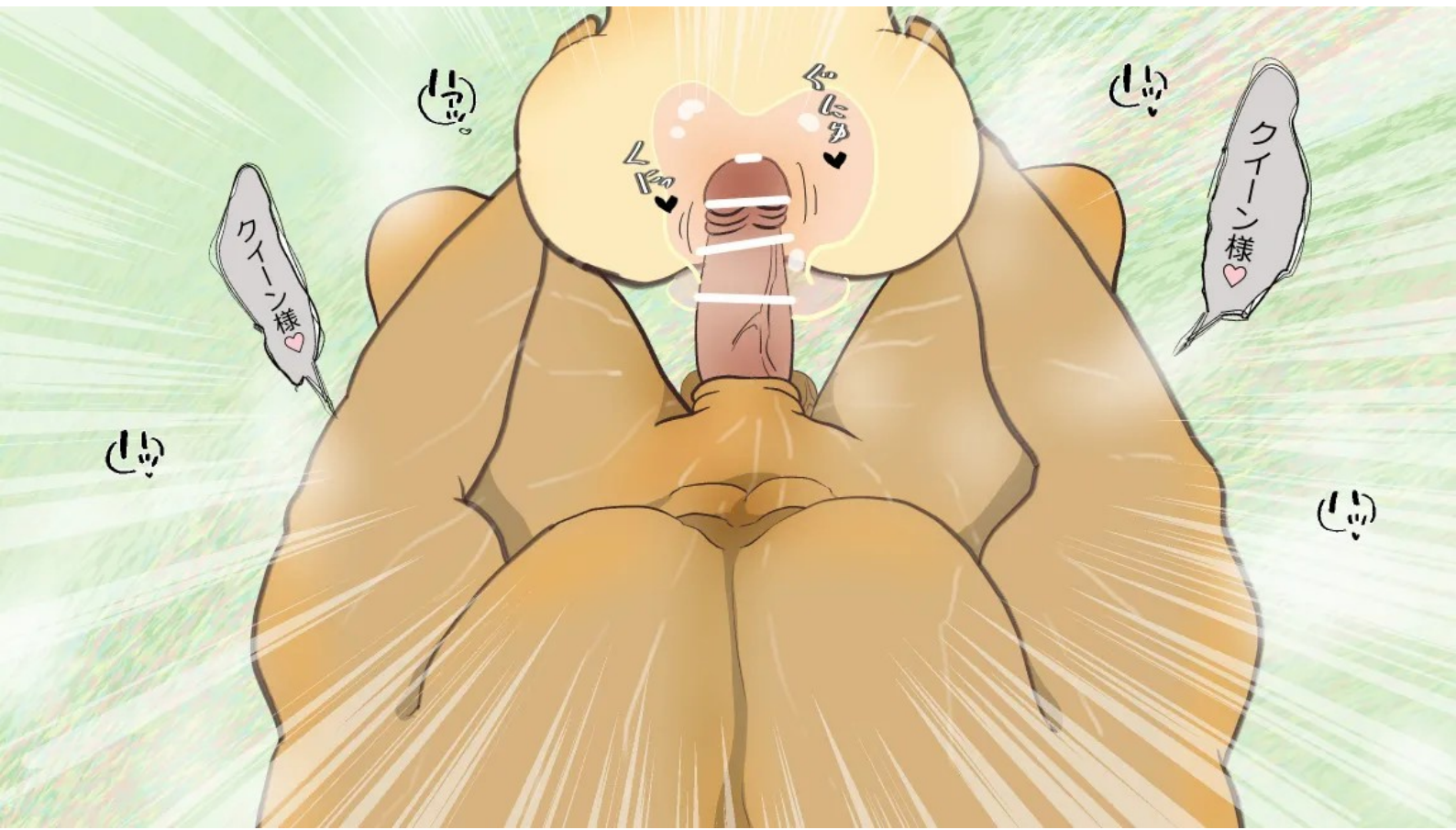
…本当に  
そうだろうか

こんなは無防備に  
向けてくるのは  
誘っているのでは？

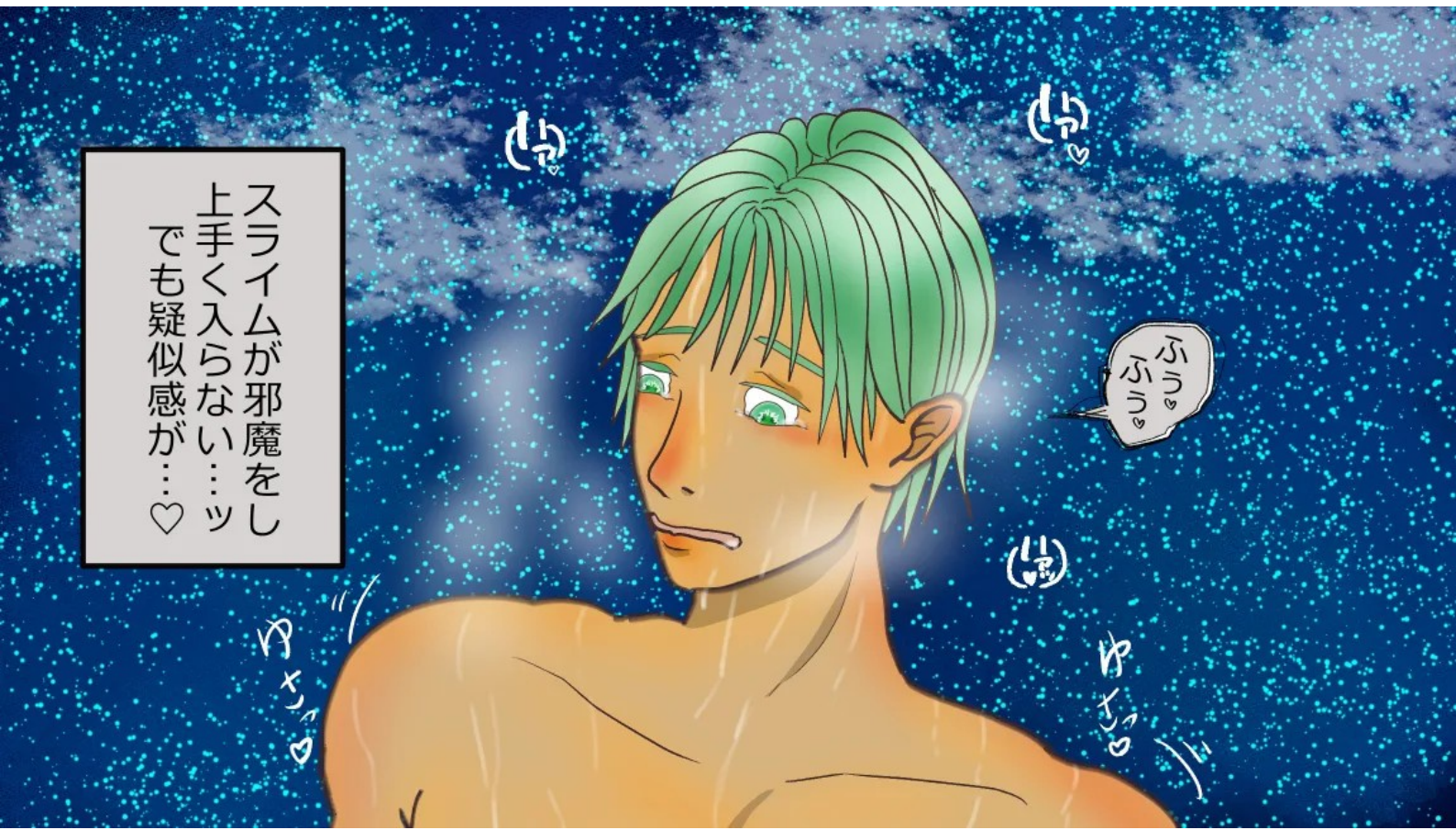


むしろ誘われているのに  
しないのは失礼なのは？  
クイーン様への  
侮辱となるのでは…？





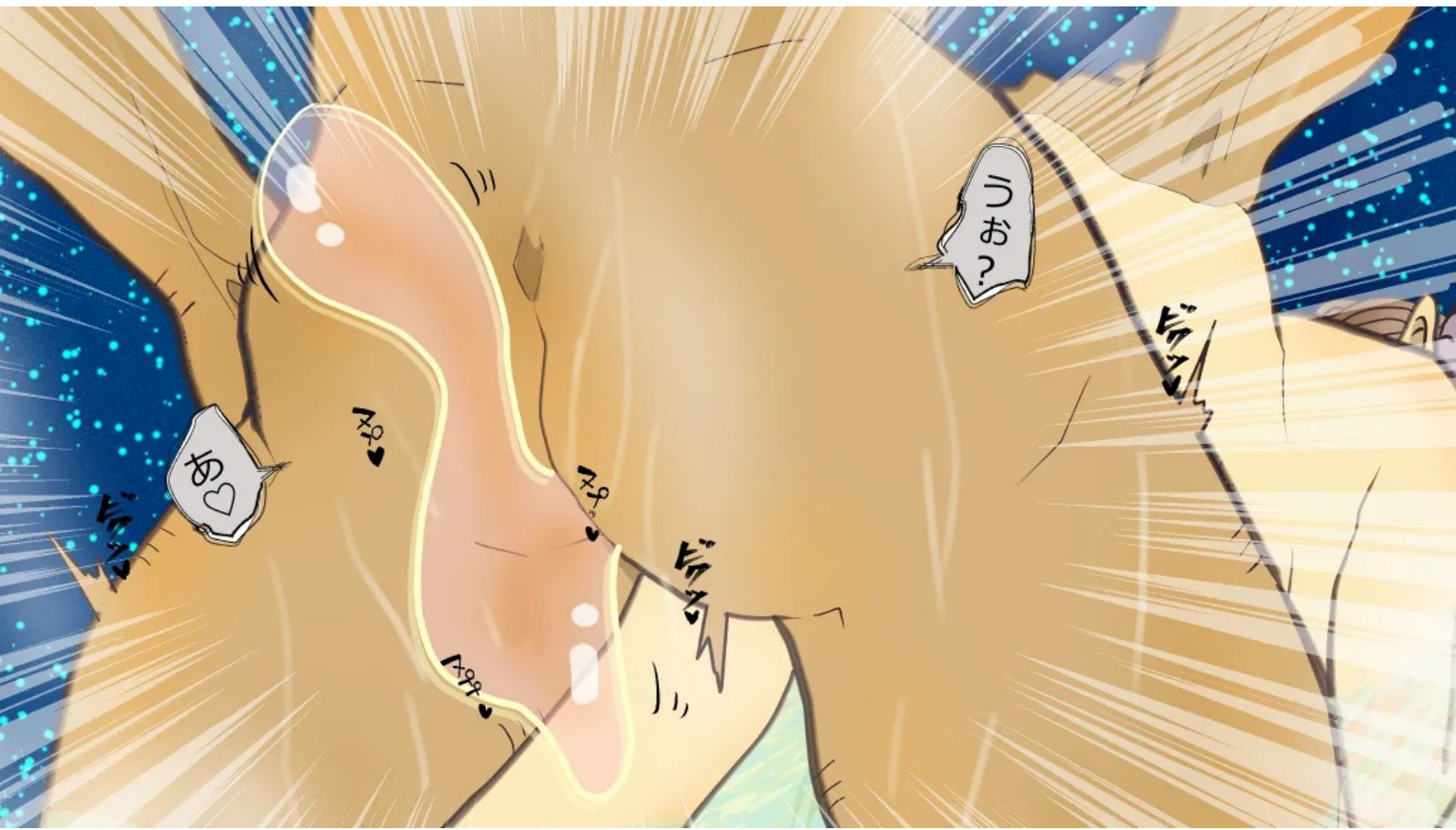
スライムが邪魔をし  
上手く入らない…ッ  
でも疑似感が…♡





へあッ!?

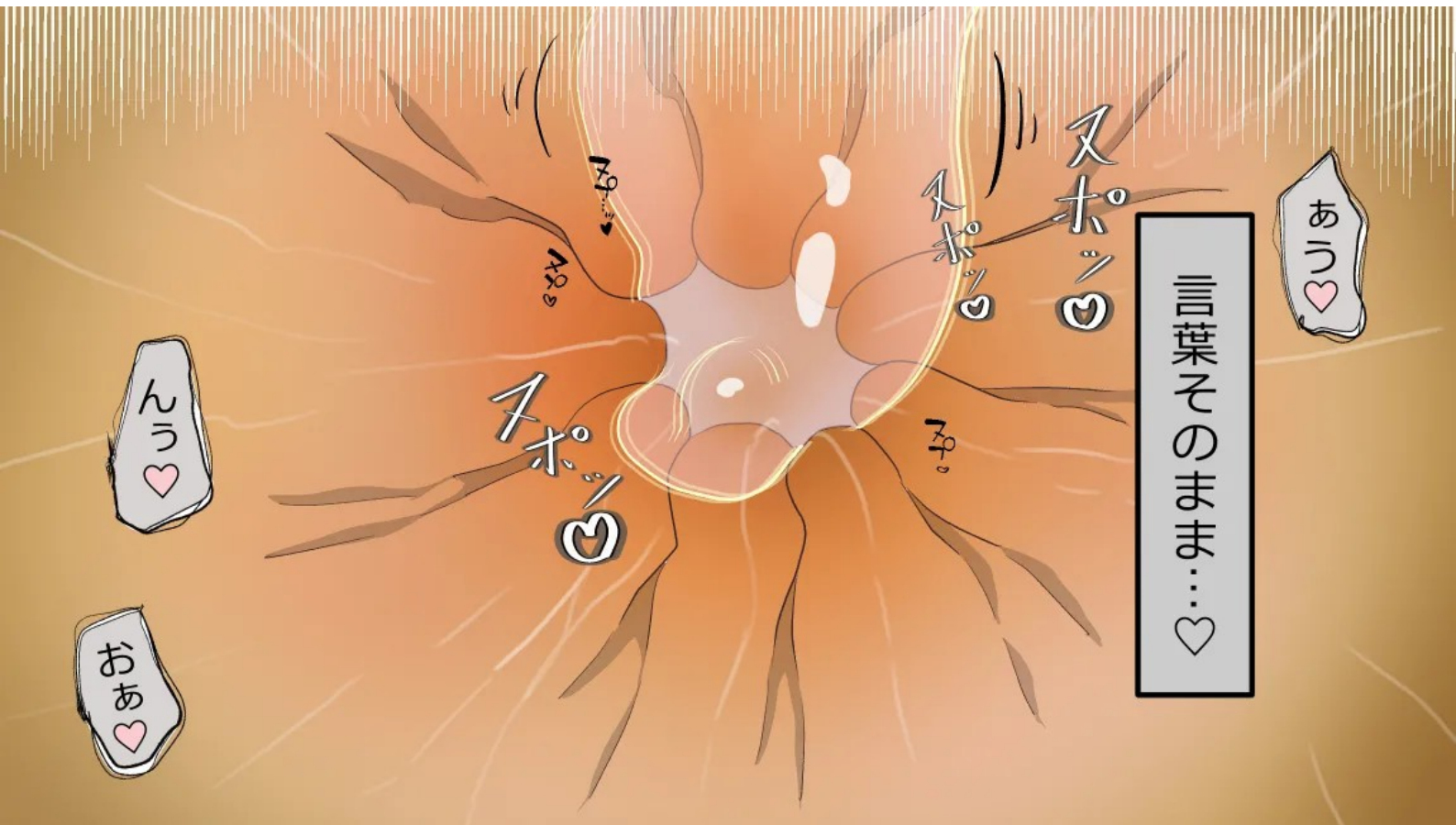
おんやん





尻に何か入って…  
あ…スライム…？

もしかして…  
クイーン様が…  
言っていた事は…♡



あう♡

言葉そのまま…♡

又ポン♡

又ポン♡

ん

ポン♡

ん

ん

ん♡

おあ♡

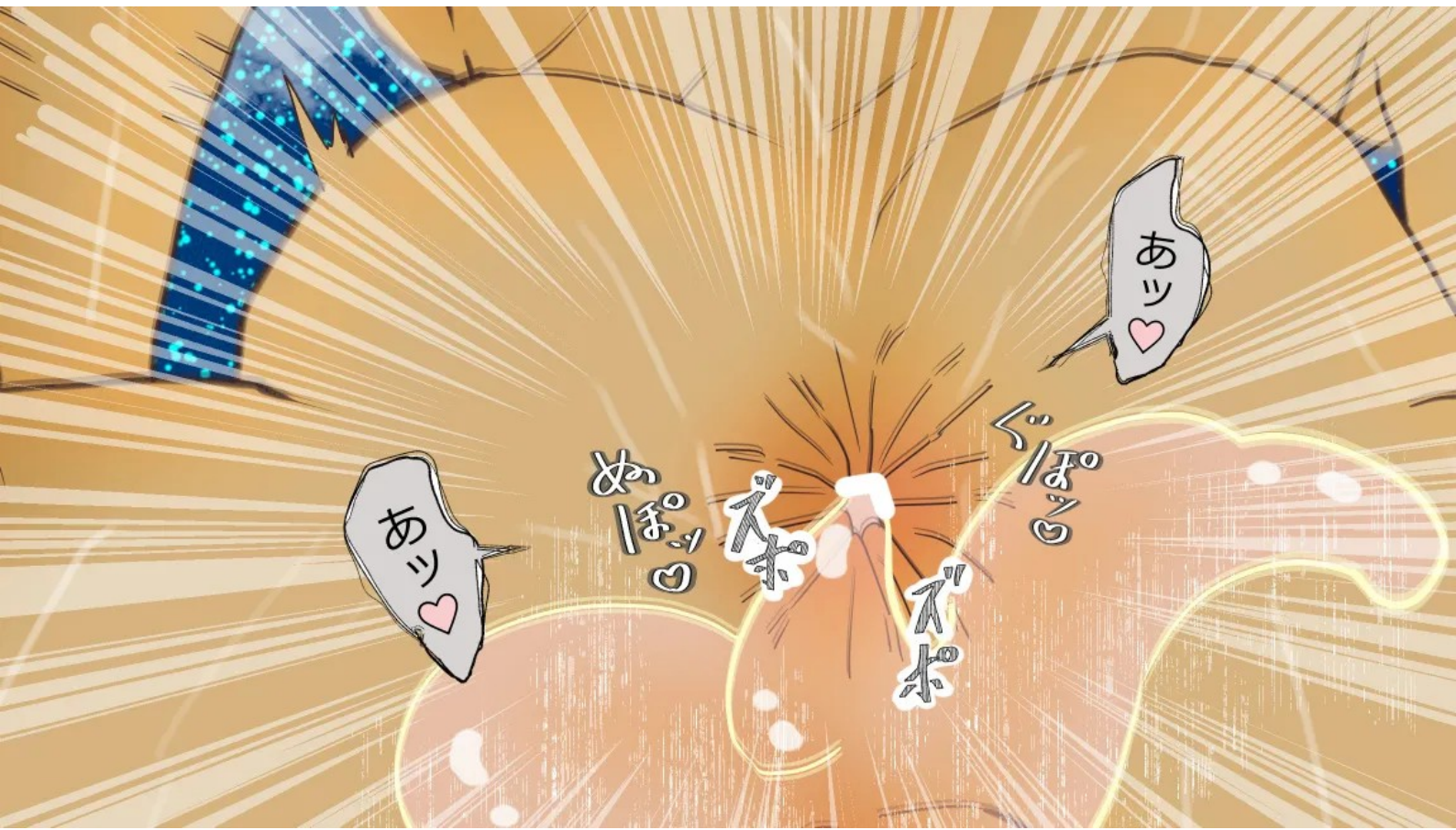


甘い声が抑えられず  
自然と出てしまう…♡



スライムが尻の中に入  
るだなんて本来は  
嫌な筈なのに…♡







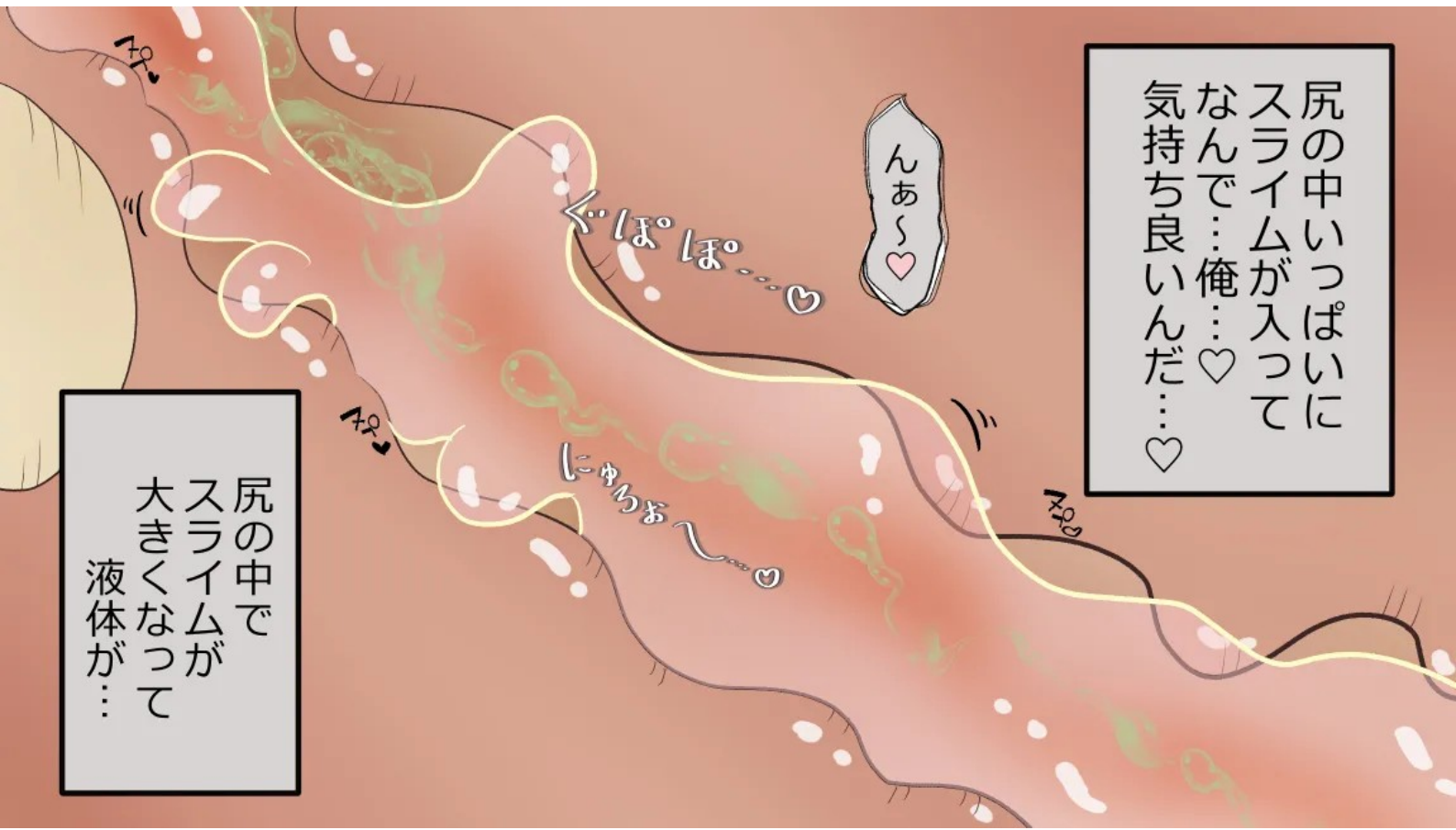
尻の中いっぱい  
スライムが入って  
なんで…俺…♡  
気持ち良いんだ…♡

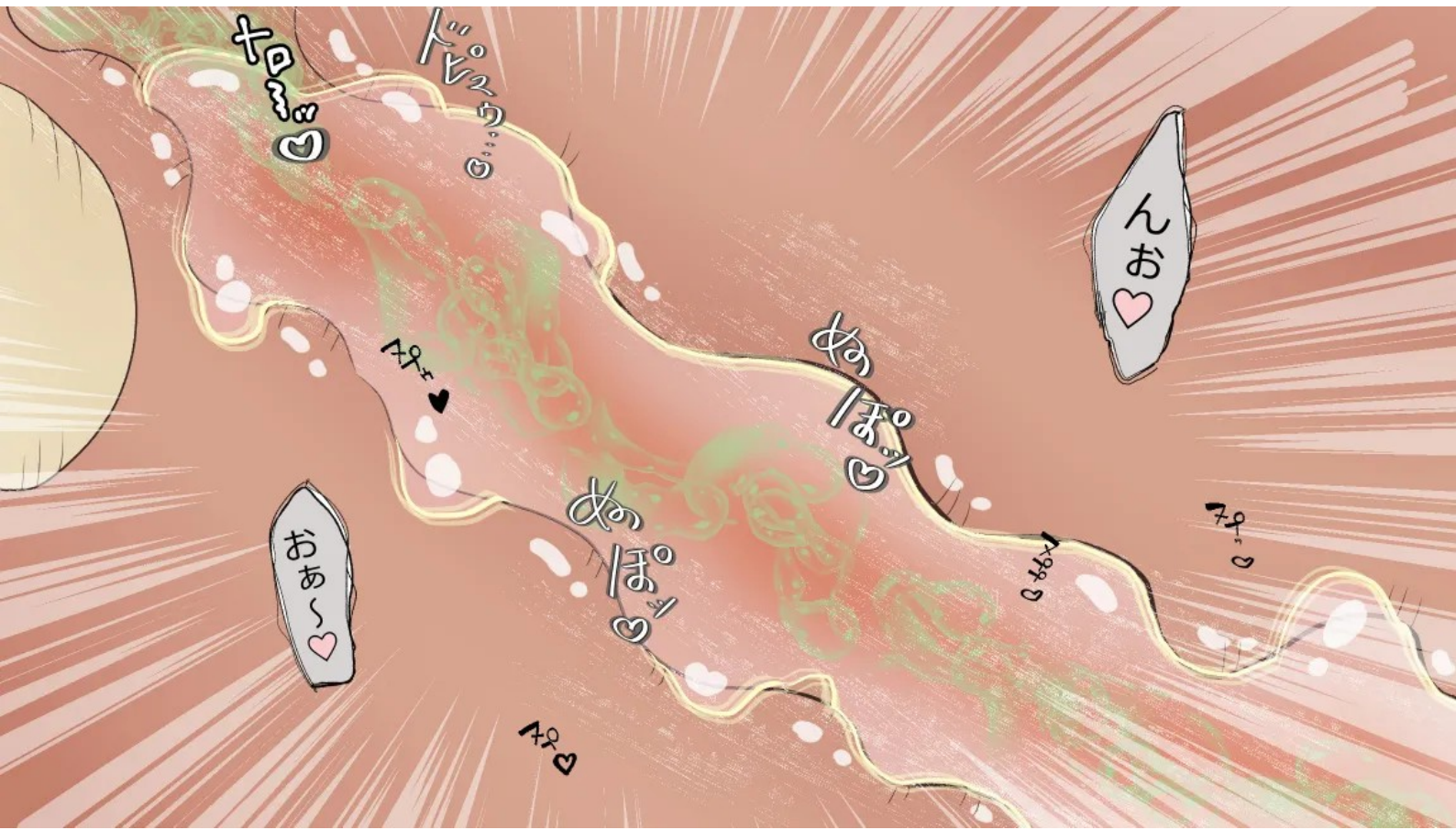
んあ♡

ぐぽぽ…♡

じゅわお…♡

尻の中で  
スライムが  
大きくなって  
液体が…





あほ♡

あほ♡

んお♡

あほ♡

あほ♡

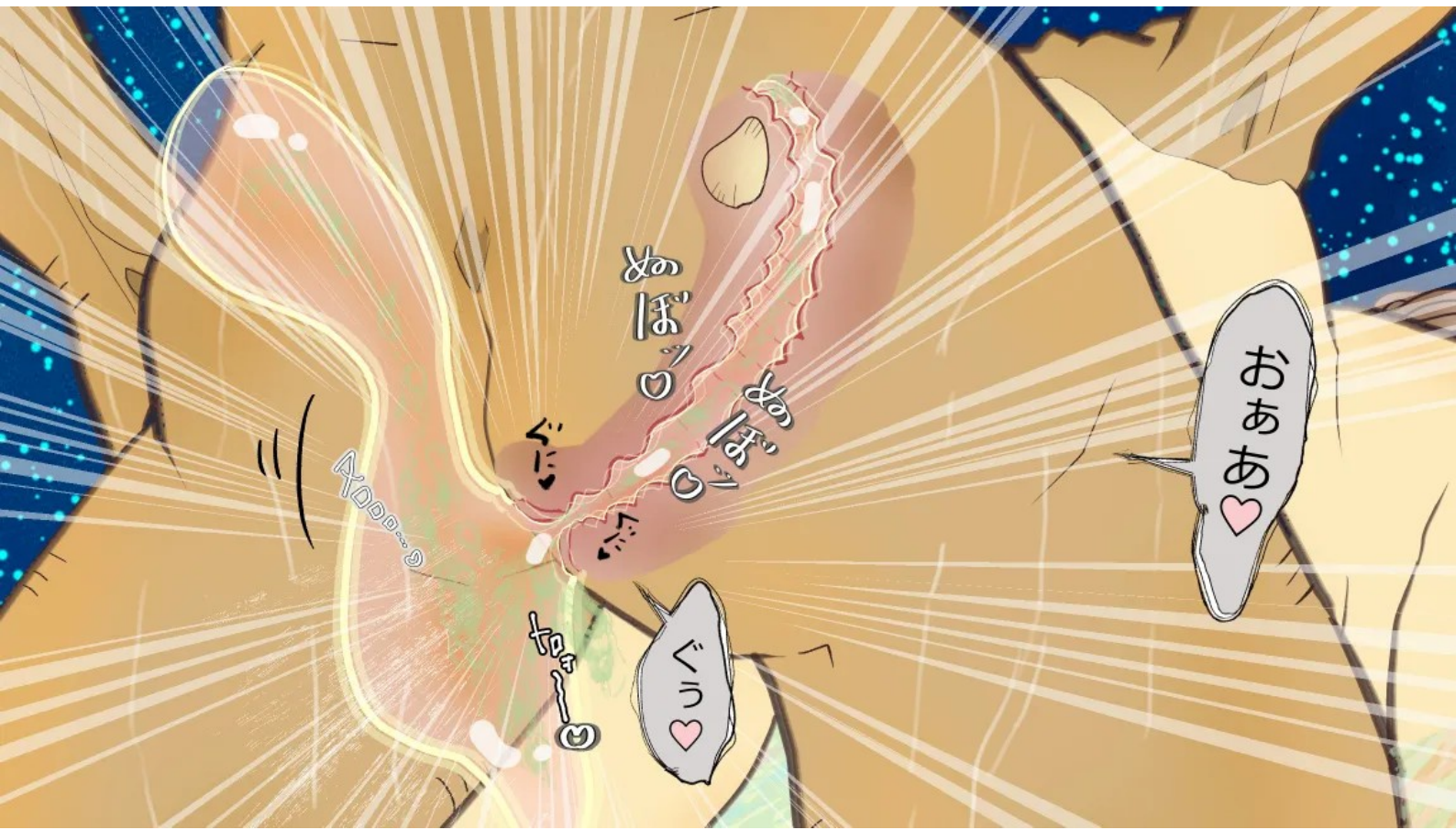
おあ〜♡

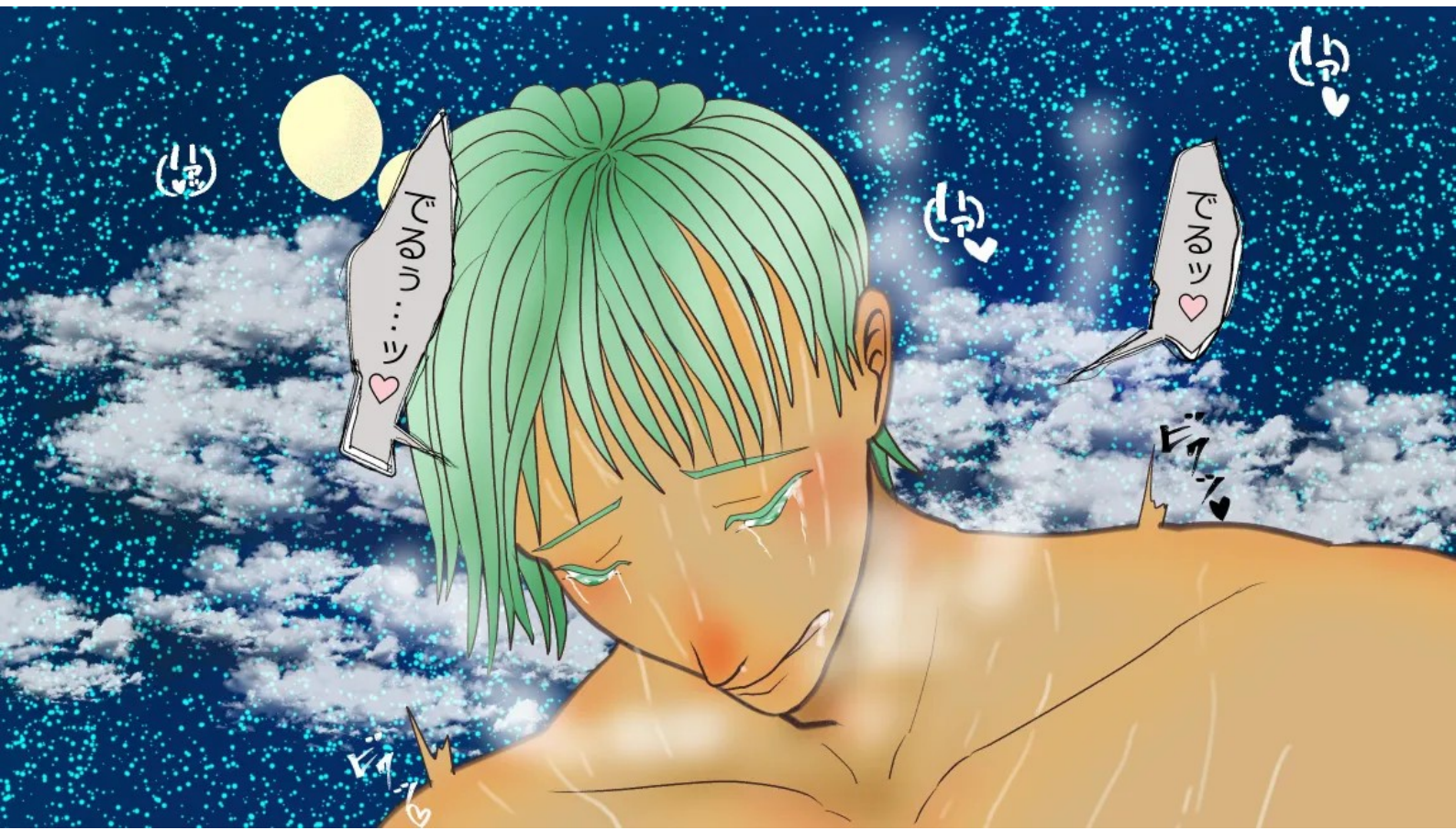
あほ♡

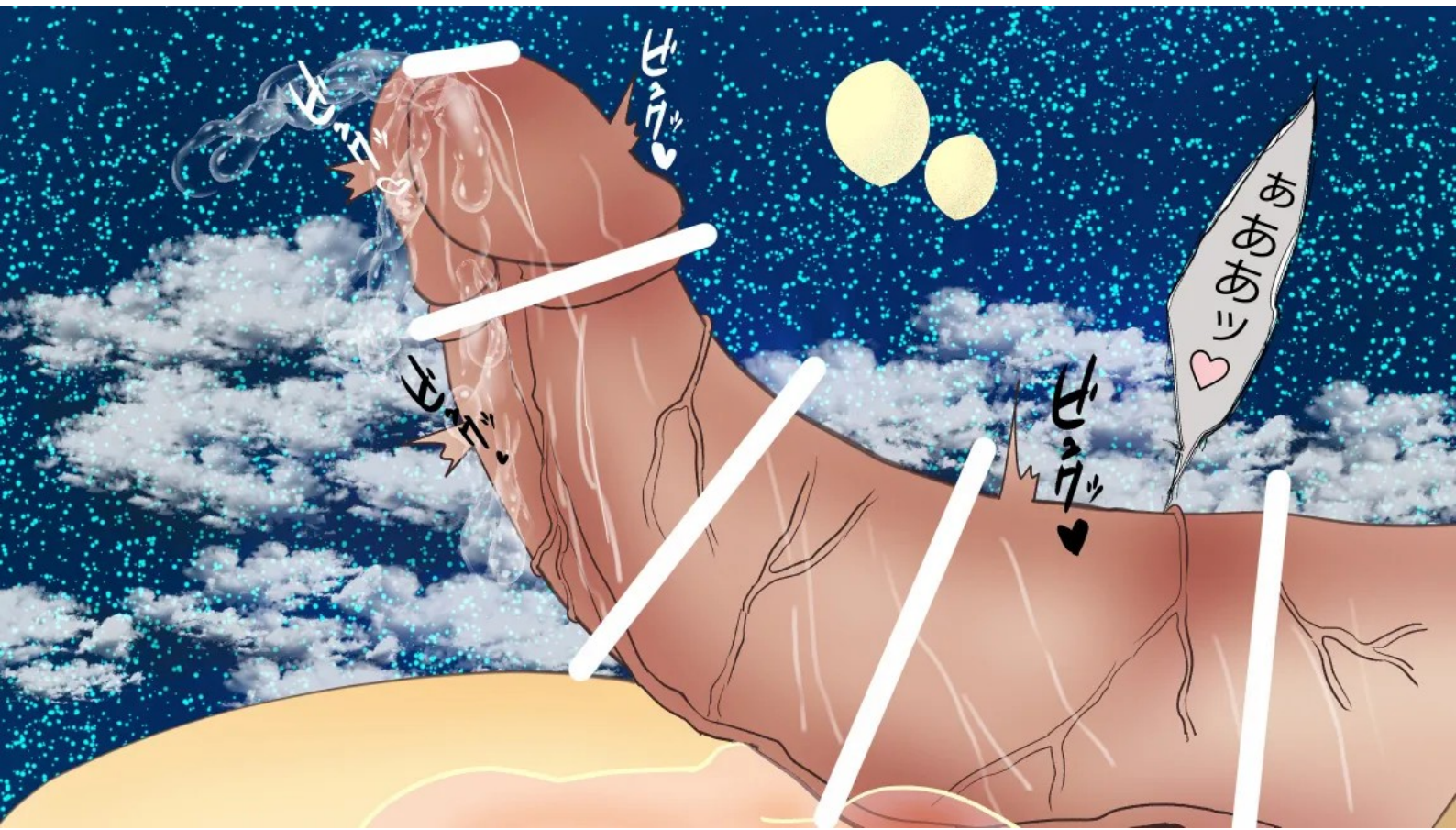
あほ♡

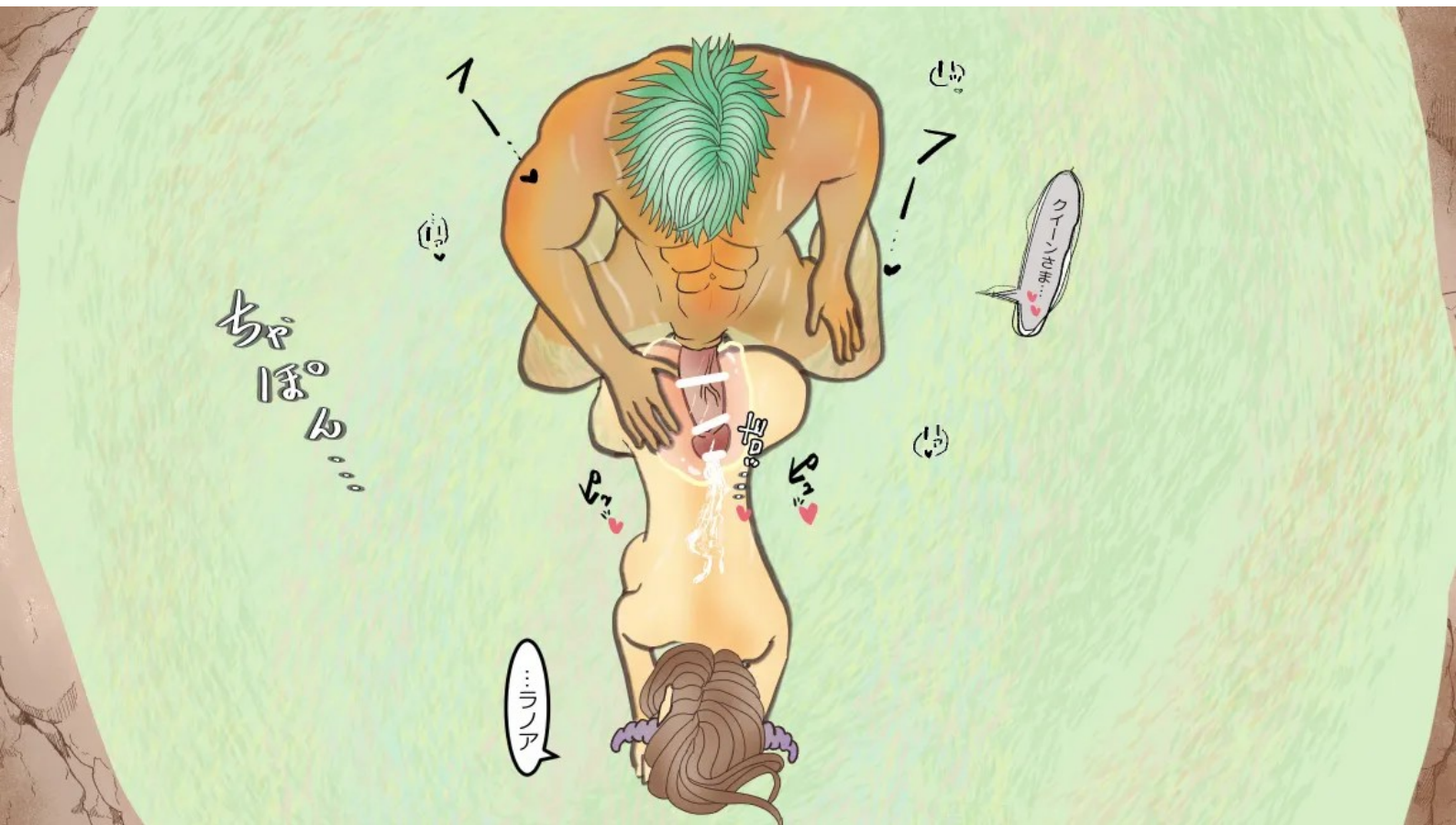
あほ♡

あほ♡









ちほん...

...ラノア

アノラ...

ちほん

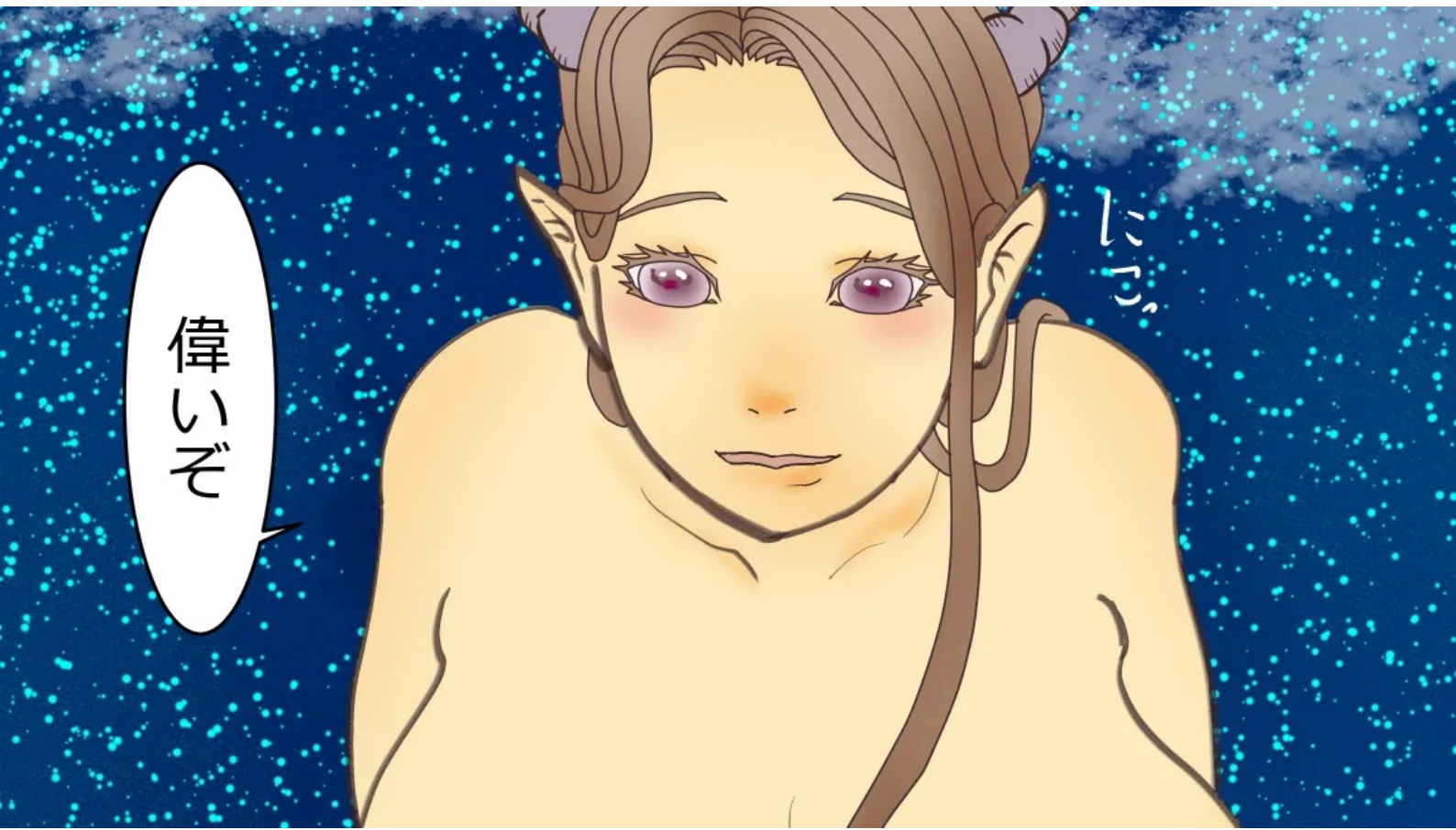
ちほん

ちほん

ちほん

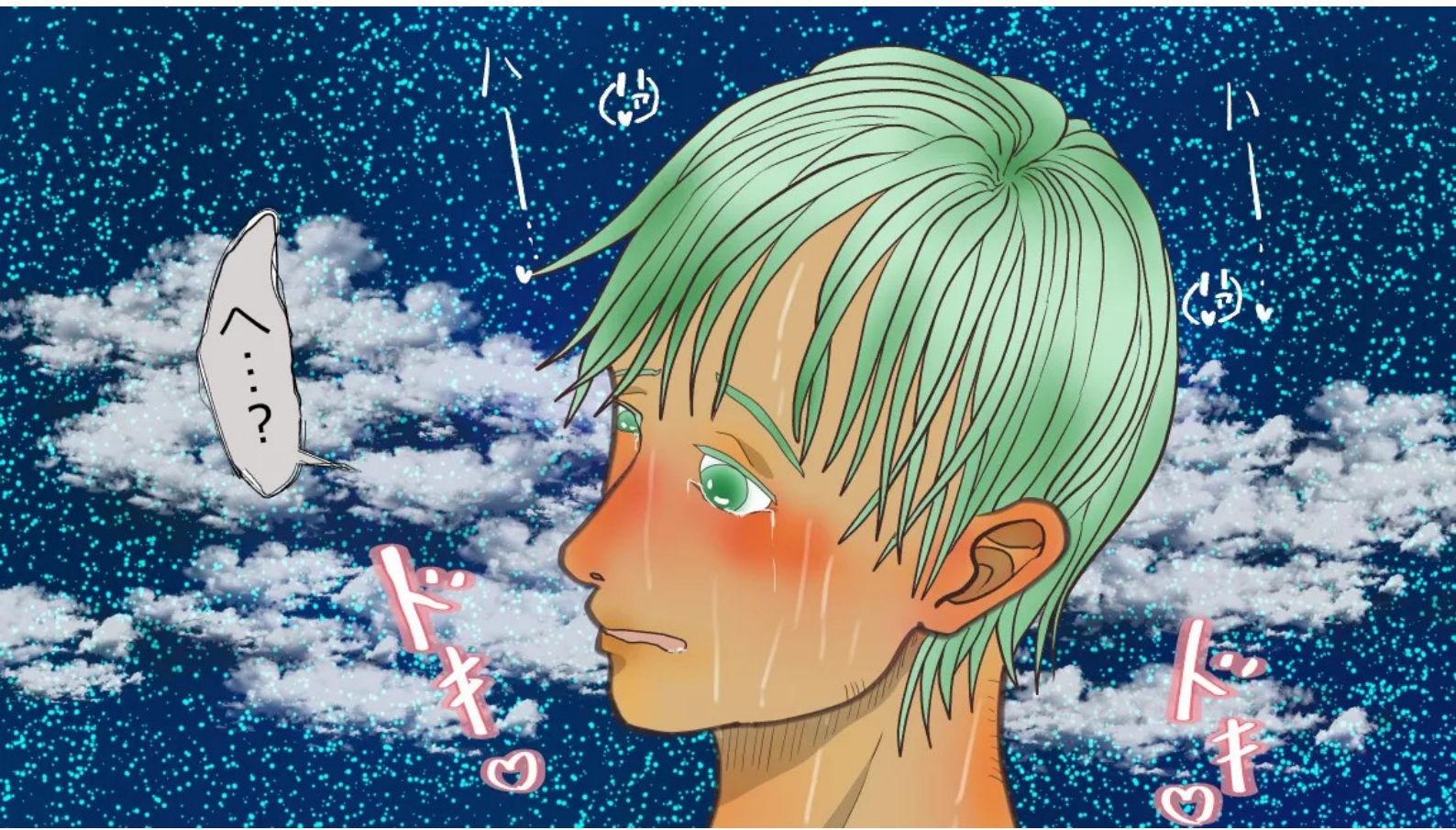
ちほん

ちほん



偉いぞ

しんぱ

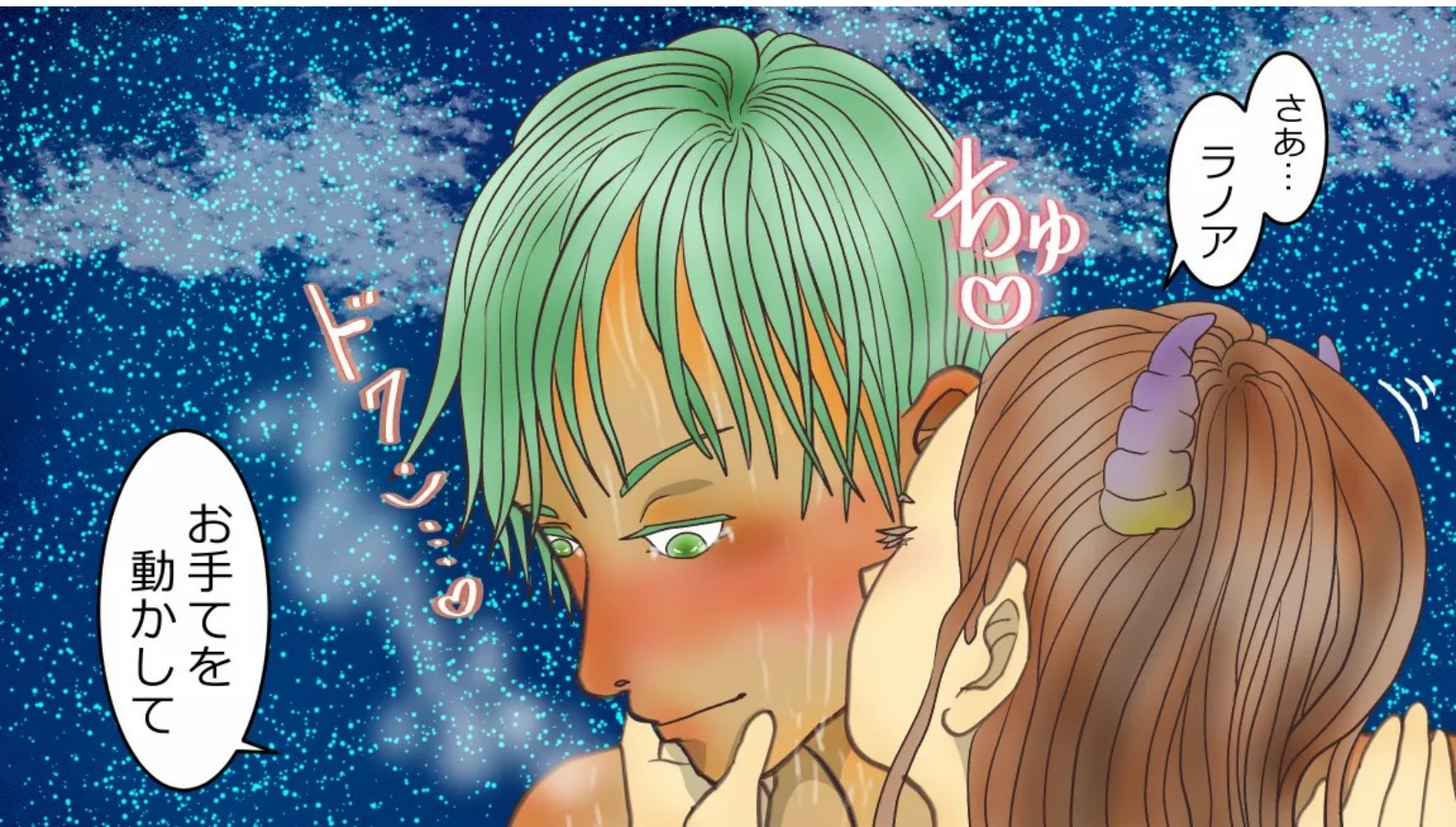




一人で出せて  
偉いぞラノア

よし、  
よし、

それじゃあ…  
もう一回出したら  
湯から上がって  
食事しようかラノア

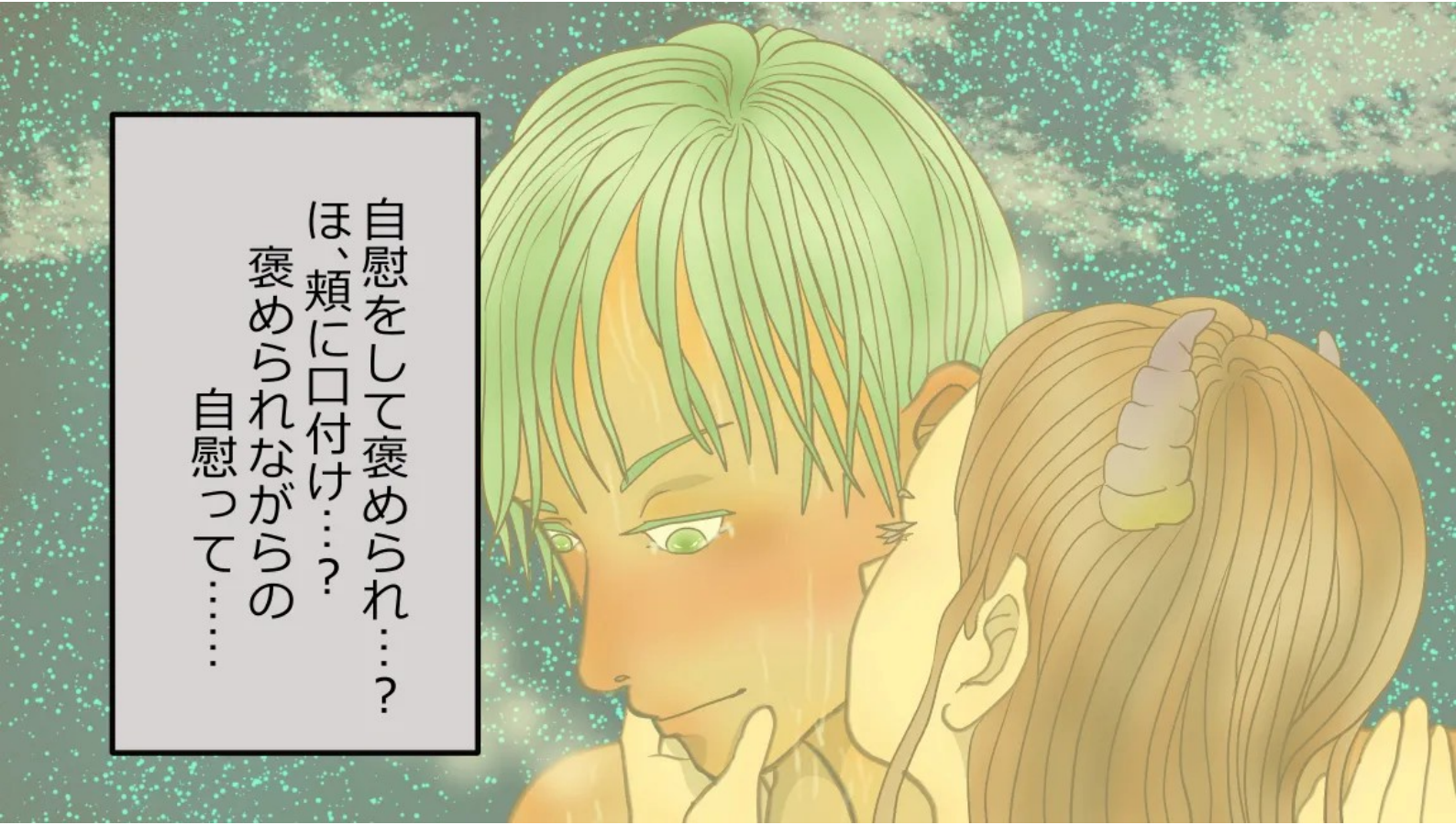


さあ…  
ラノア

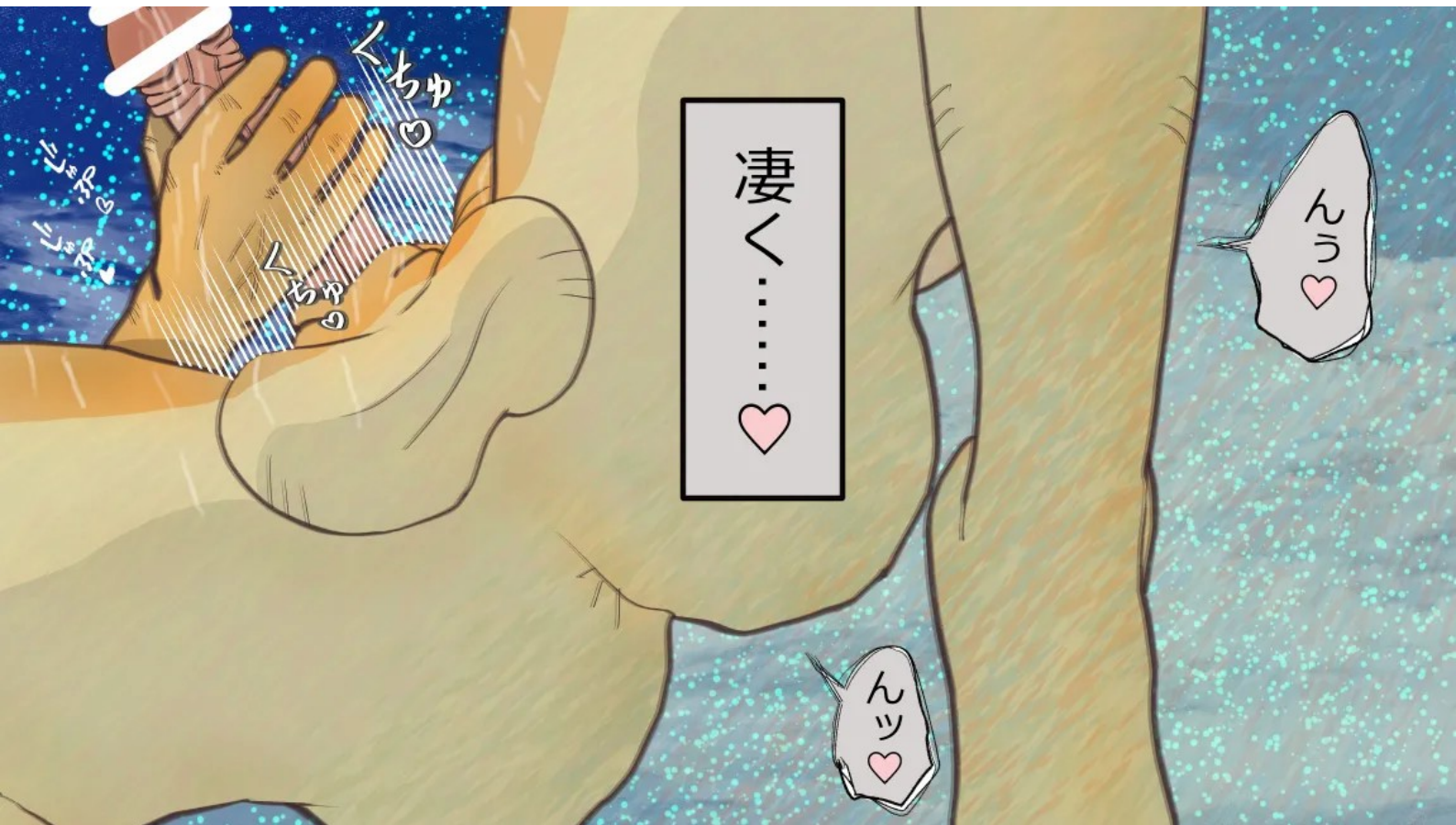
あゆ  
♡

ドクン

お手をを  
動かして



自慰をして褒められ……？  
ほ、頬に口付け……？  
褒められながらの  
自慰って……

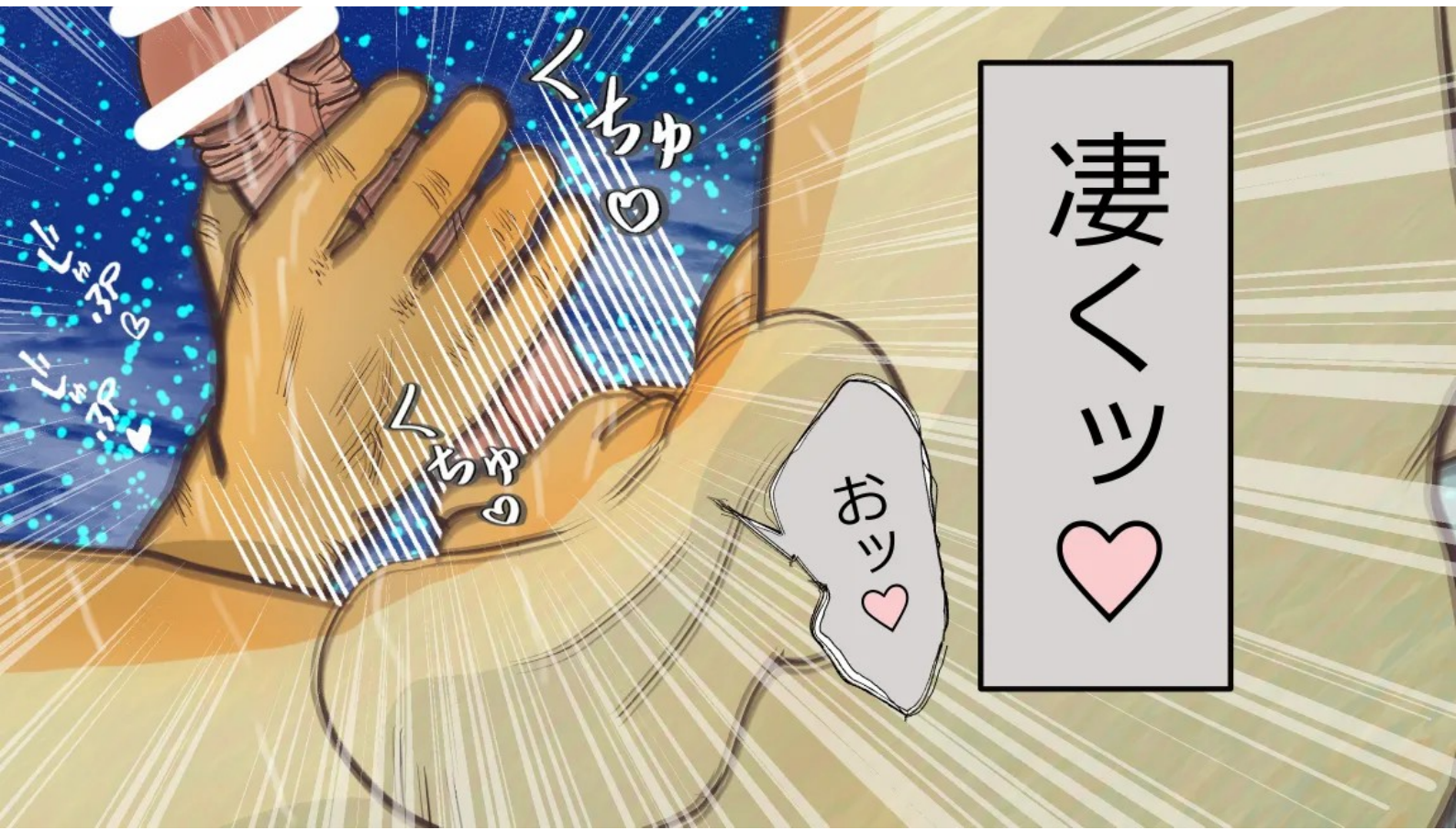


凄く……♡

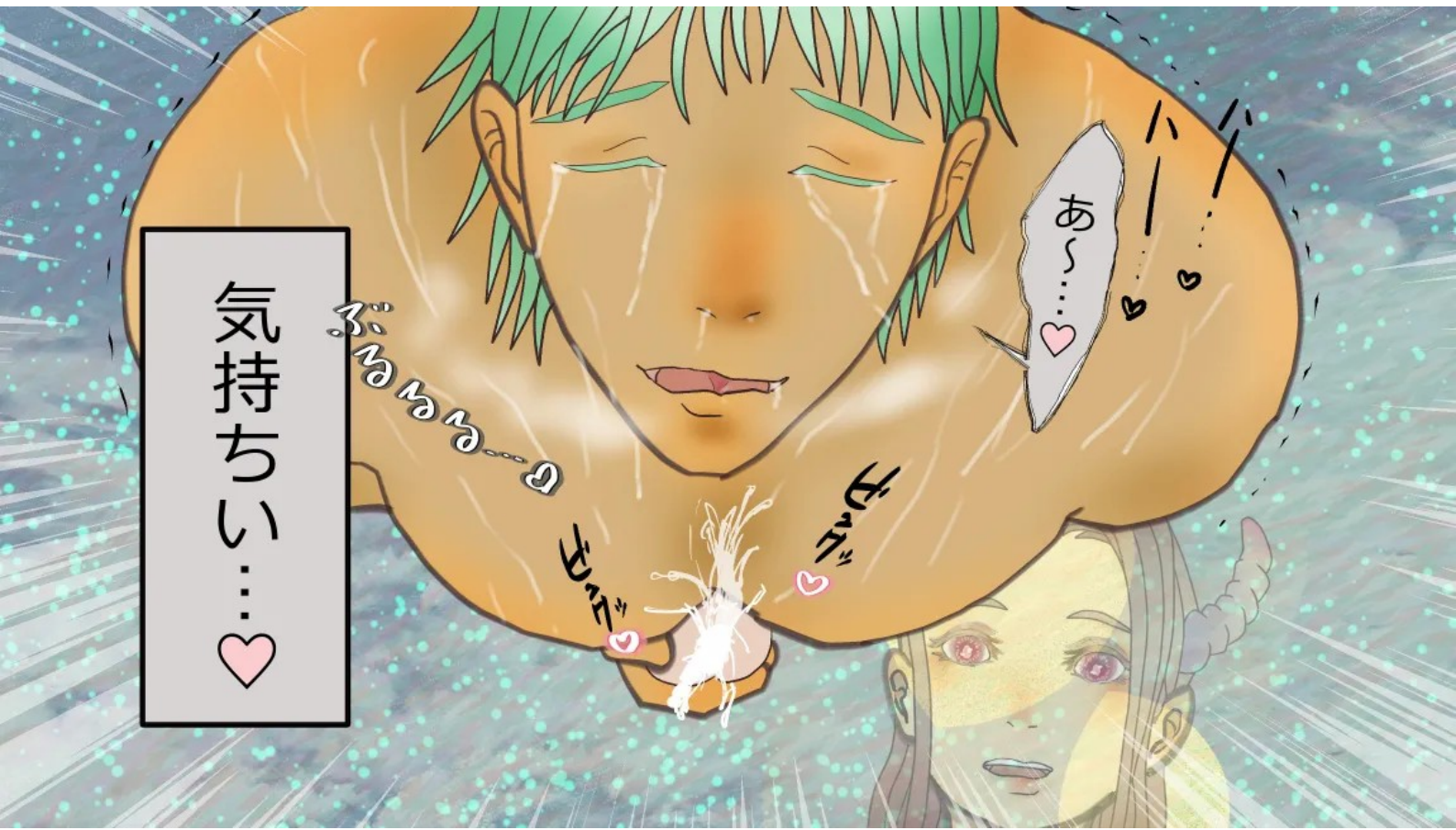
んじゅ♡

んじゅ♡

くちゅ♡  
しゅわん♡  
しゅわん♡  
くちゅ♡



妻♡



気持ちい…♡

あ…♡

ぶるん♡

ブーン♡

ブーン♡

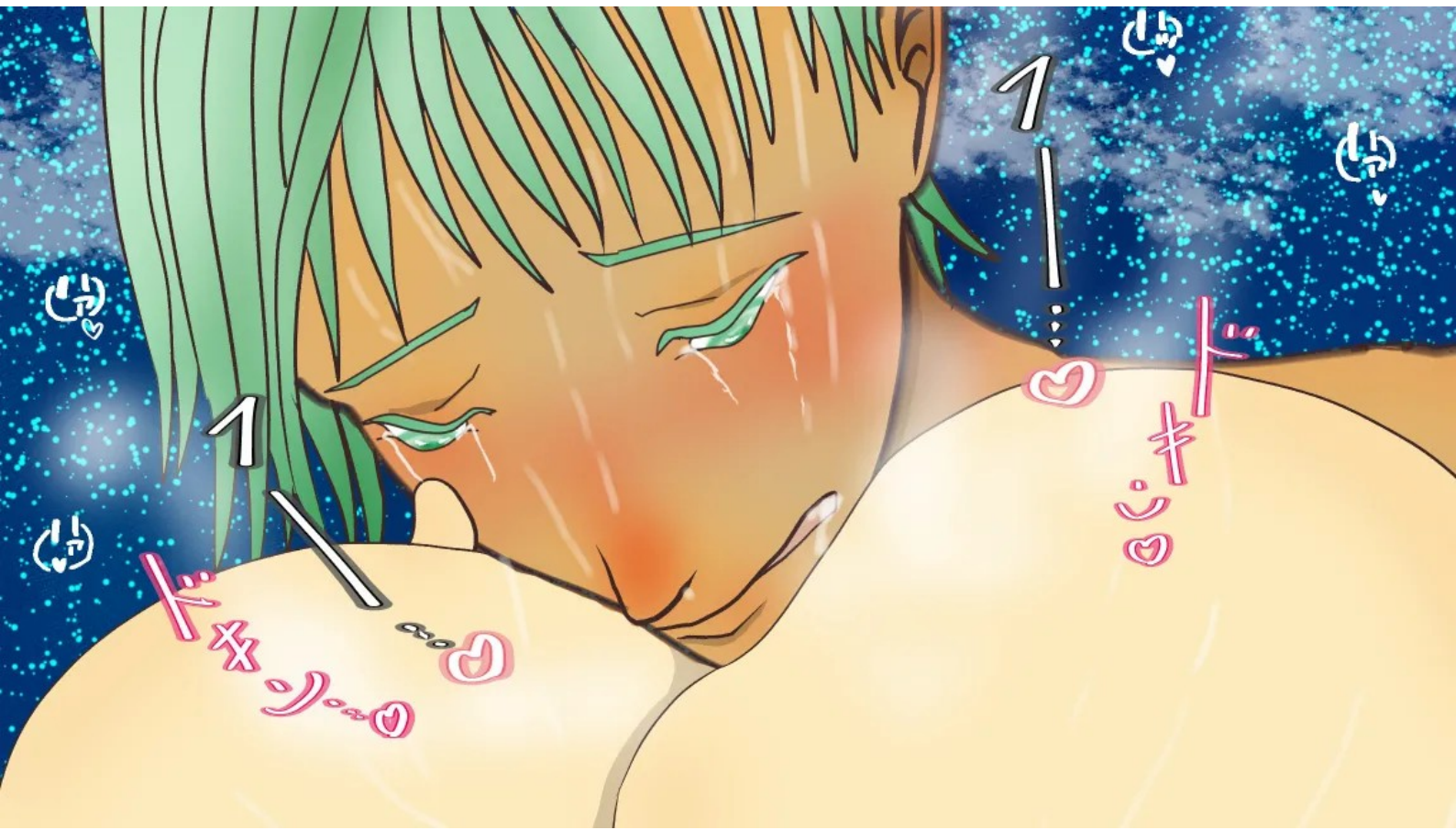


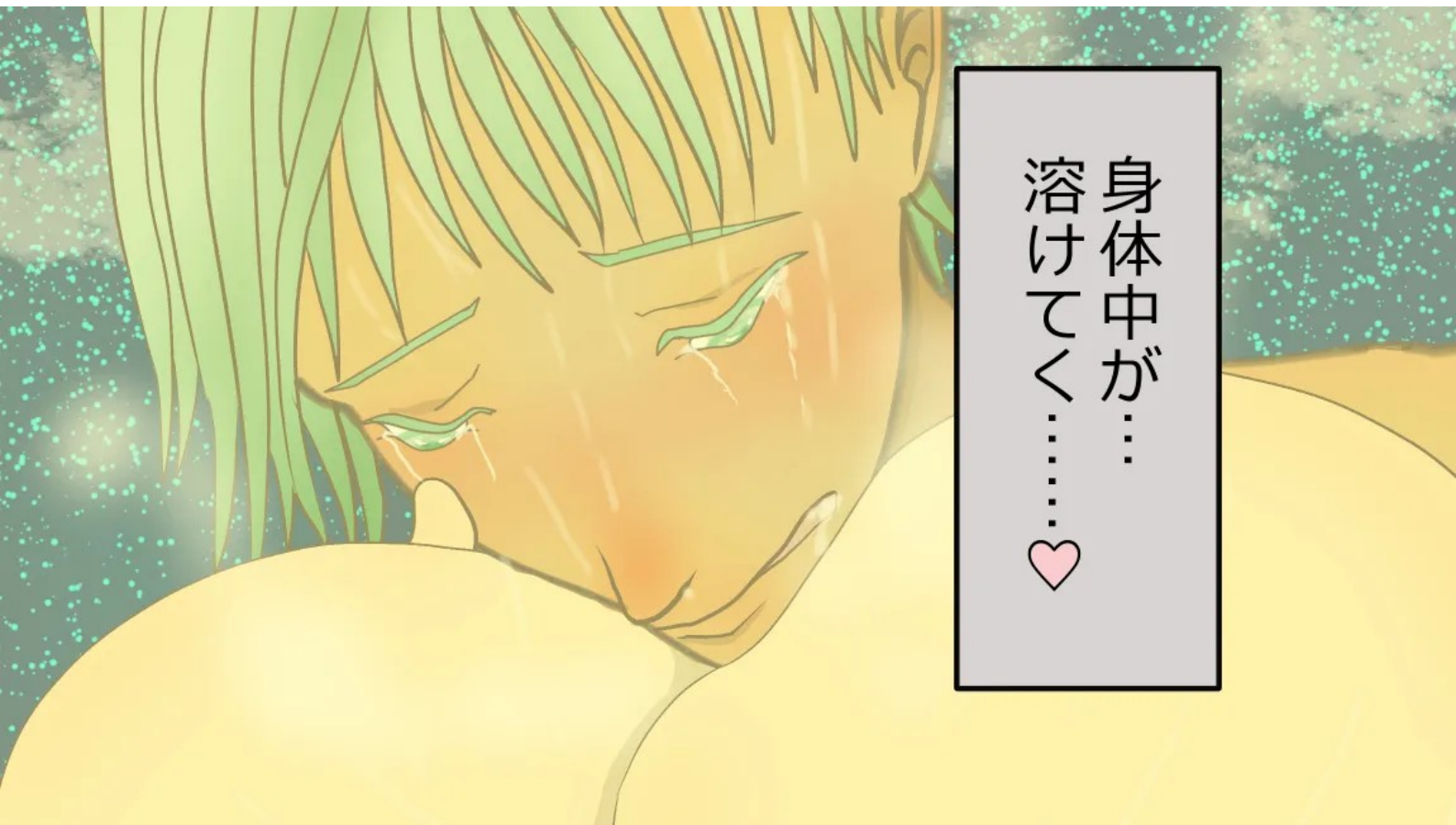
ぽん

ぽん

よしよし...  
よく頑張ったな

ああっ〜...♡






身体中が…  
溶けてく…  
…  
♡



三話目 おわり  
《過保護な洗淨》

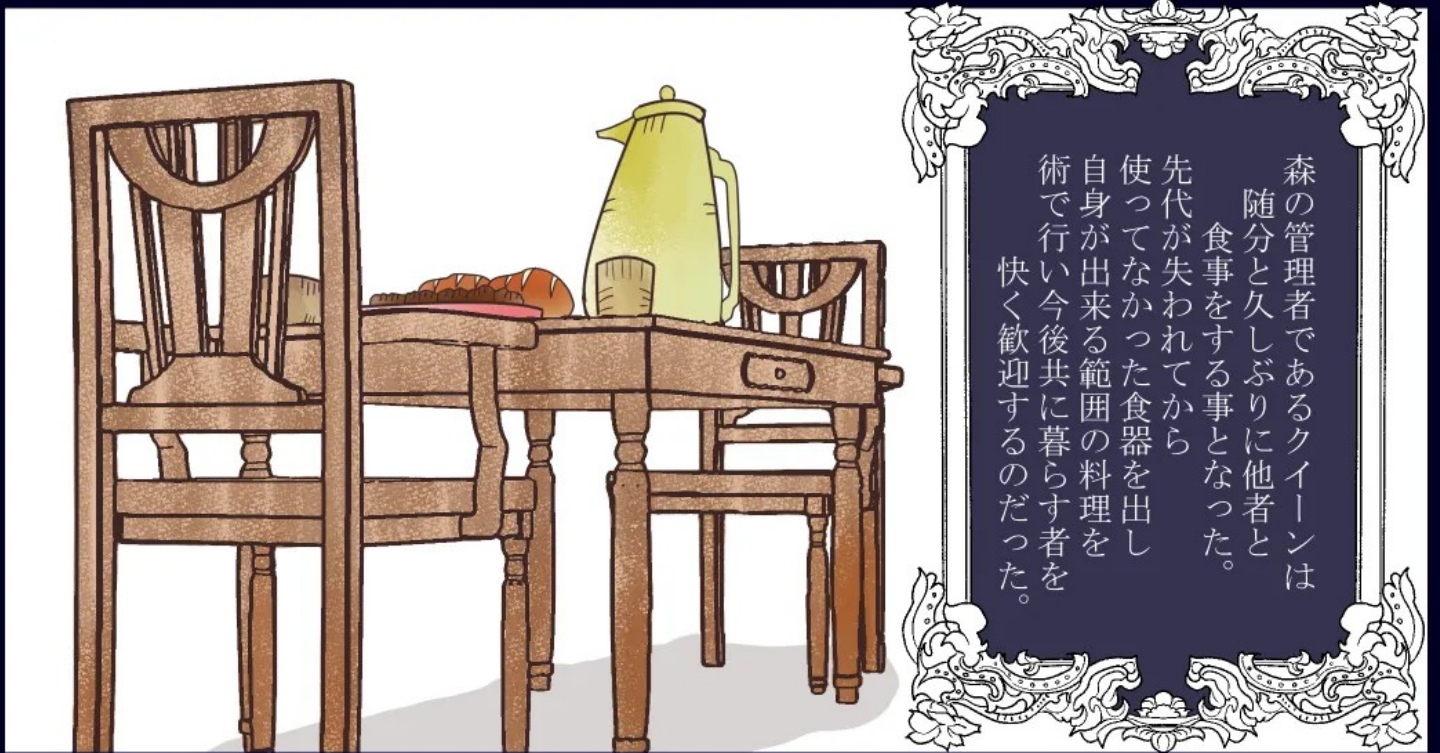


四話目  
《祝賀祭の贈り物》

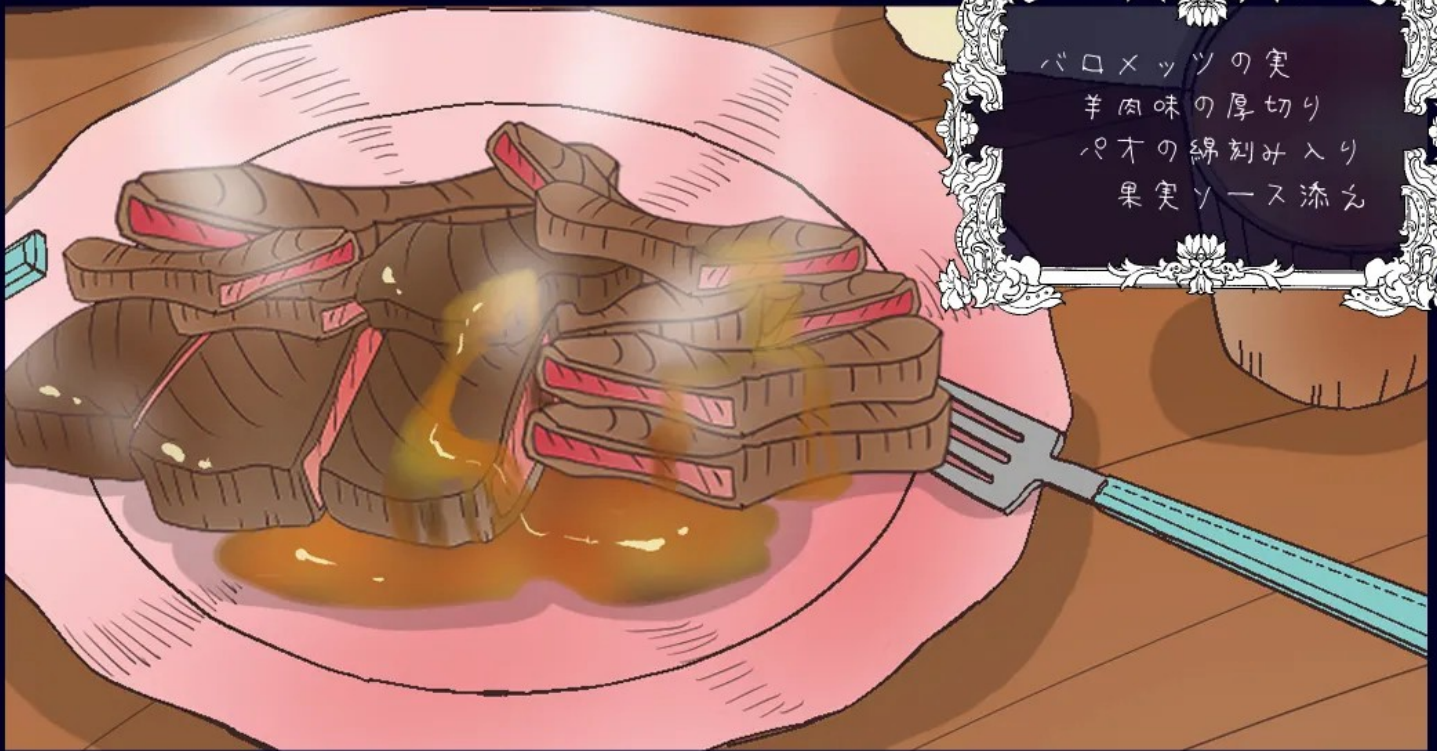


恵み豊かな迷いの森には  
奇妙なる植物が  
存在し、その一つが  
【バロメッツ】と呼ばれる  
肉食者を満たせる  
不思議な植物だ。

この植物の実は肉と似た  
硬さや味わいを持っている。  
実の色合いによって似る  
肉類は変わって来るようだが  
灰色の身は羊肉と似た味が  
すると言われていた。

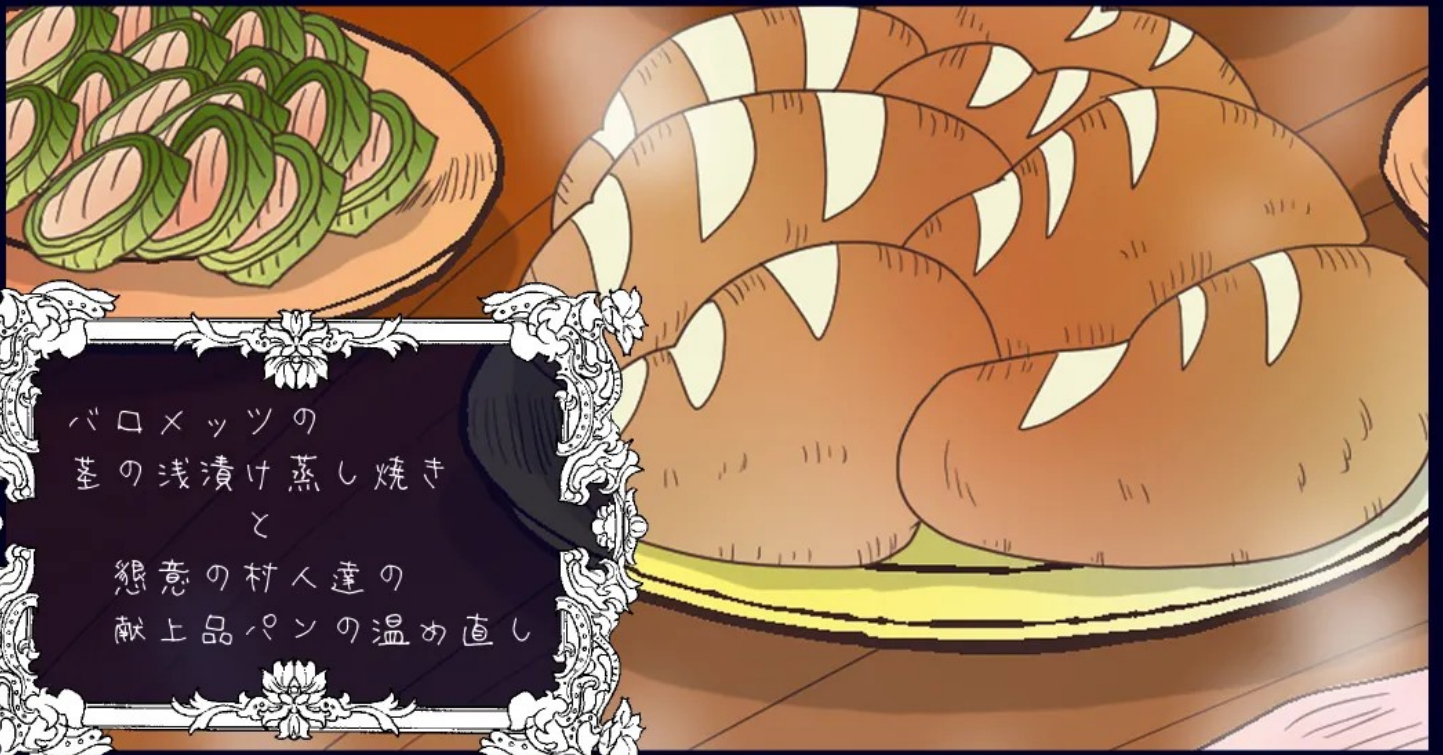


森の管理者であるクイーンは  
随分と久しぶりに他者と  
食事をする事となった。  
先代が失われてから  
使ってなかった食器を出し  
自身が出来る範囲の料理を  
術で行い今後共に暮らす者を  
快く歓迎するのだった。

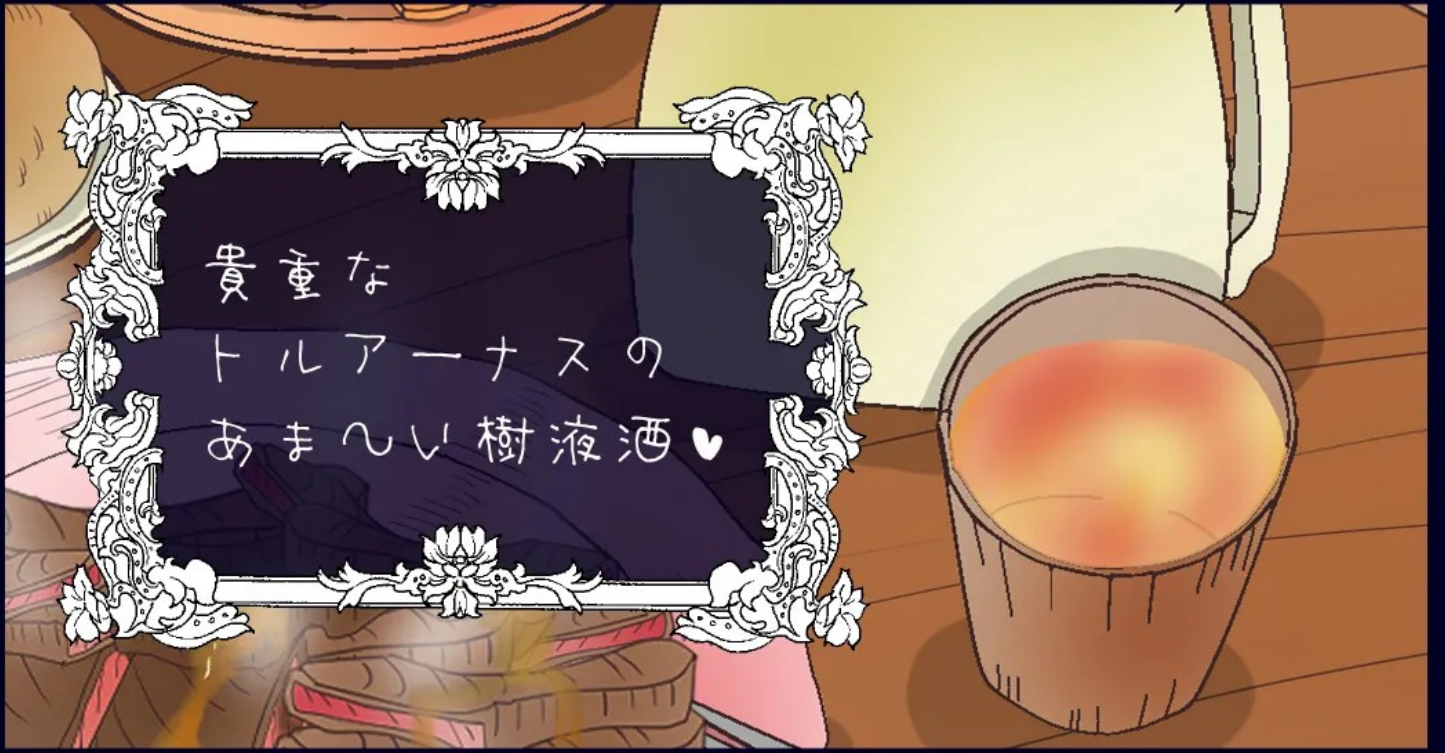


パロメツツの実  
羊肉味の厚切り  
パオの綿刻み入り  
果実ソース添え





バロメッツの  
茎の浅漬け蒸し焼き  
と  
懇意の村人達の  
献上品パンの温め直し

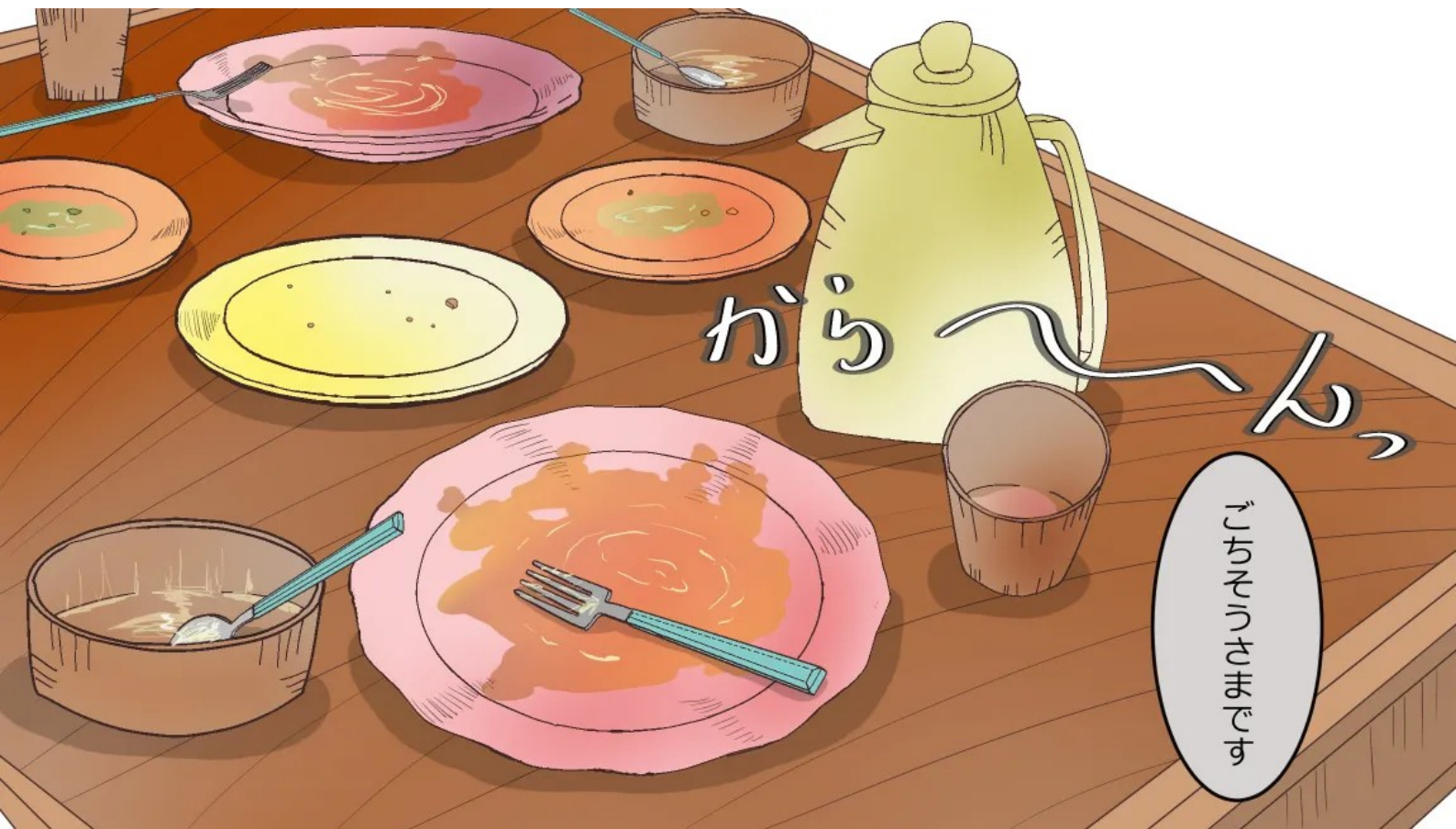


貴重な  
トルアーナスの  
あま〜い樹液酒♡



いただきます!

迷いの森奥深くで：  
祝賀日でも  
食べれない御馳走が  
食べれるなんて：



からへんた

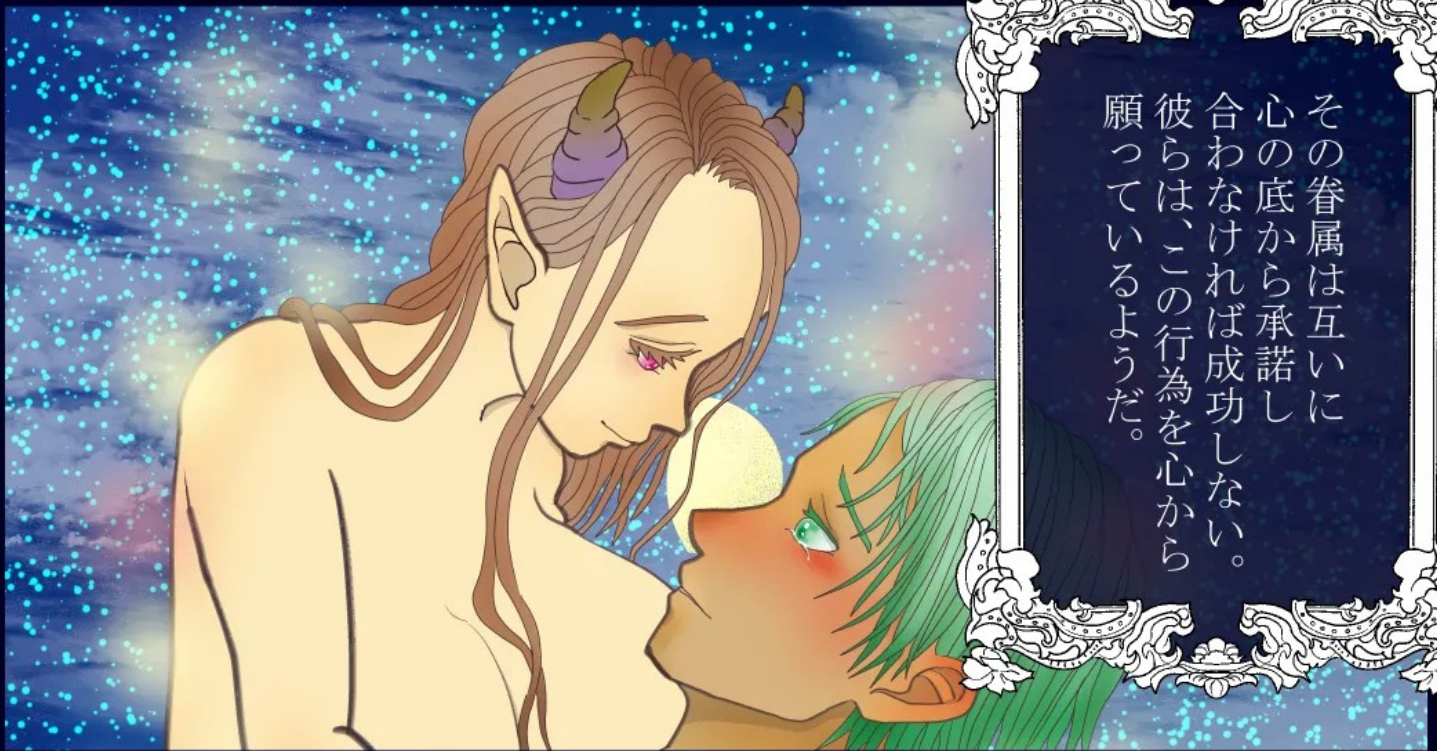
いんげんをちまじり




無慈悲なクイーン  
モウガルン・クイーン・リイム。  
その日、彼女は自分より  
弱き者を眷属にする呪いとも  
呼ばれる術式を護兵の男に  
施し彼は永続的に彼女の  
配下となったのだった。

それは人によっては呪いだが  
男にとっては祝福である。  
魂が繋がり力が分け与えられ  
人の理念とは違う生き方に  
なった彼は彼女と共に  
人より遥かに長い時を  
生きていく事になるだろう。






その眷属は互いに  
心の底から承諾し  
合わなければ成功しない。  
彼らは、この行為を心から  
願っているようだ。



クイーンは今日一日  
自分が彼にナニを  
していたか時と共に  
知る事になるが  
それは後の話……。



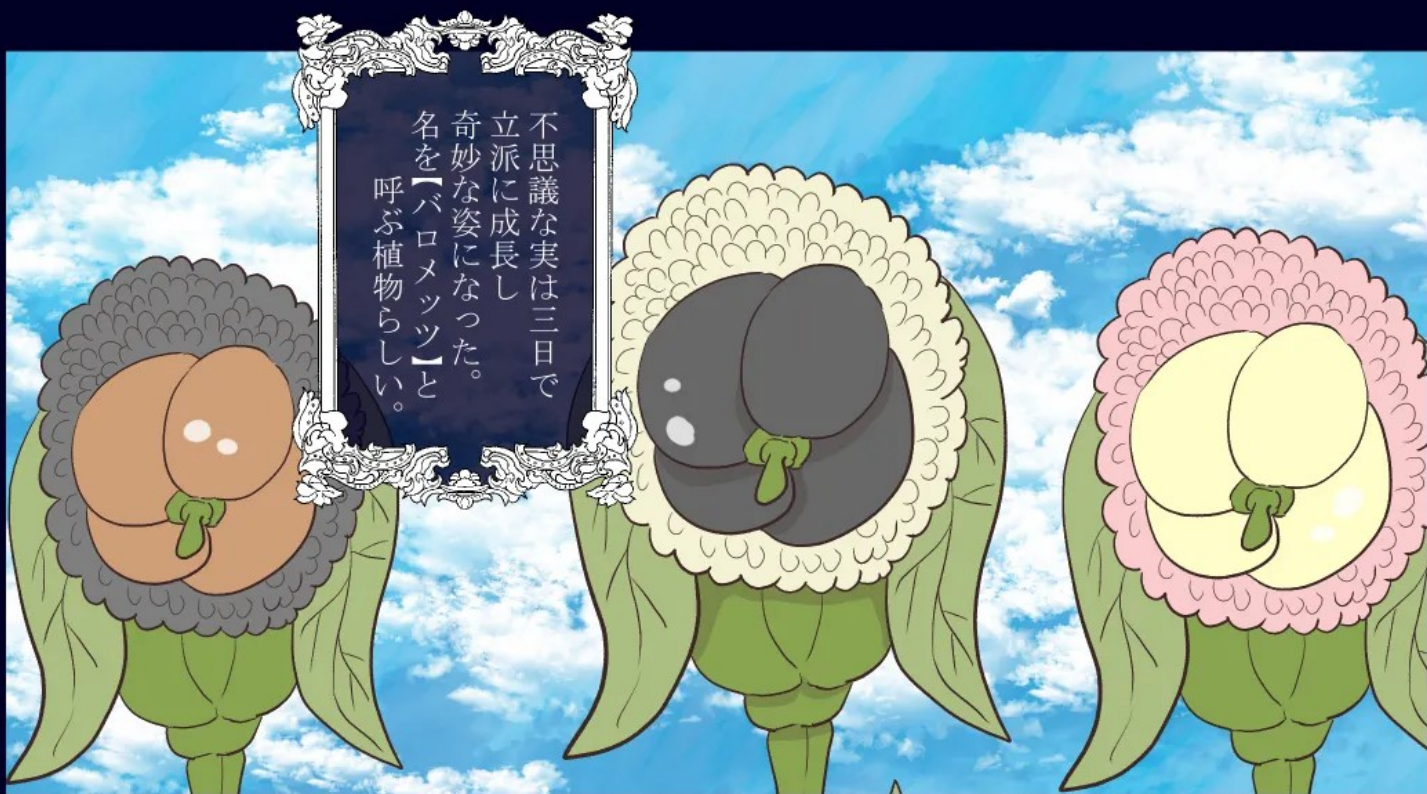
祝賀日が近づいた頃  
街の孤児院に手紙と  
不思議な実が届いた。  
大好きな彼らの兄ラノアが  
行方不明となっている事に  
落ち込んでいた子供らは  
手紙の文字から兄だと気づく。

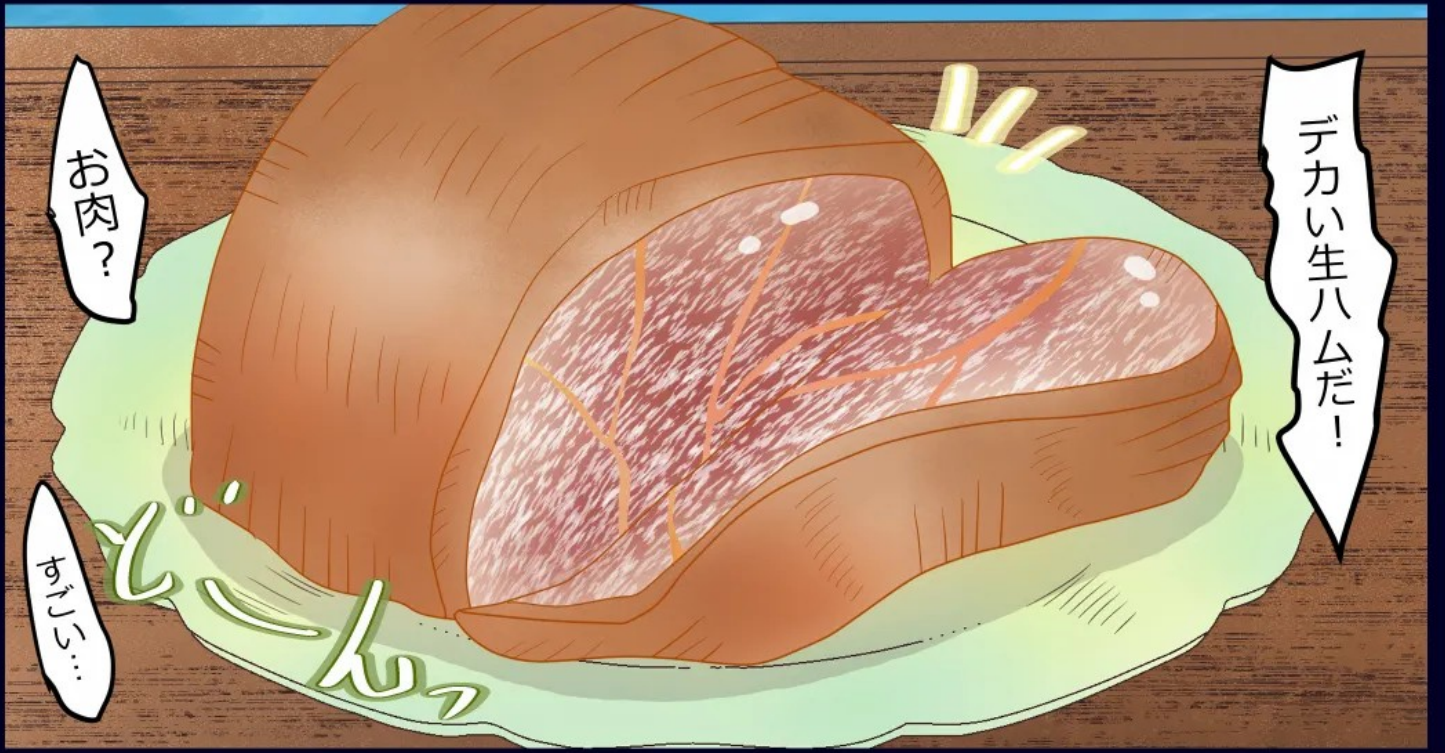


遠い所で暮らし始めた  
ラノアは簡単には街に  
来られないらしい。  
その代わりに贈ってくれた  
実に喜び兄が生きている  
事に安堵する面々。

この実は直ぐには食はず  
一度植えて育てるらしい。  
不思議な実は一回かぎり  
立派に成長するそうだ。  
彼らは手紙の指示通り  
庭に埋め育てる事にした。

不思議な実は三日で  
立派に成長し  
奇妙な姿になった。  
名を「パロメッツ」と  
呼ぶ植物らしい。

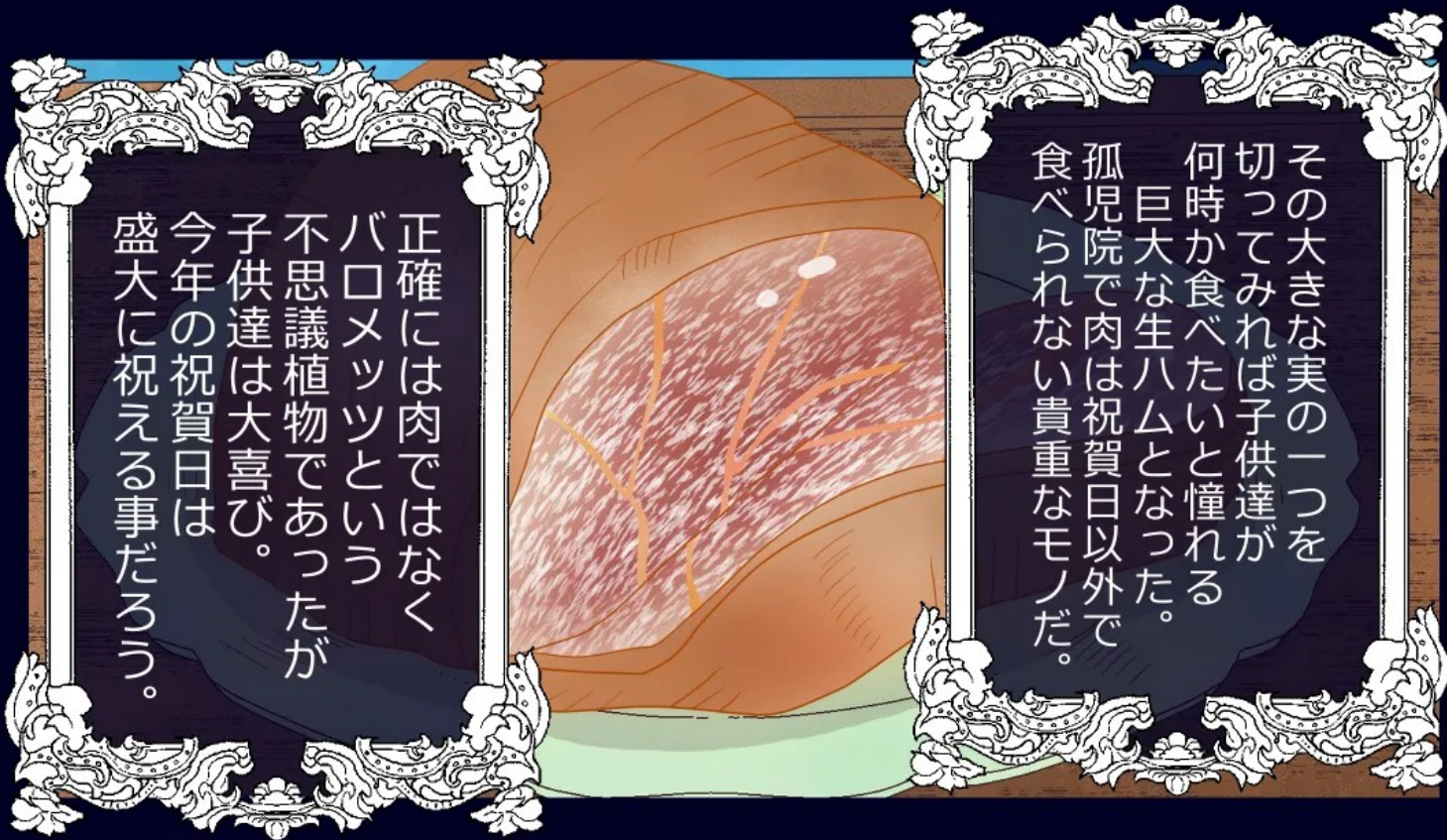




お肉？

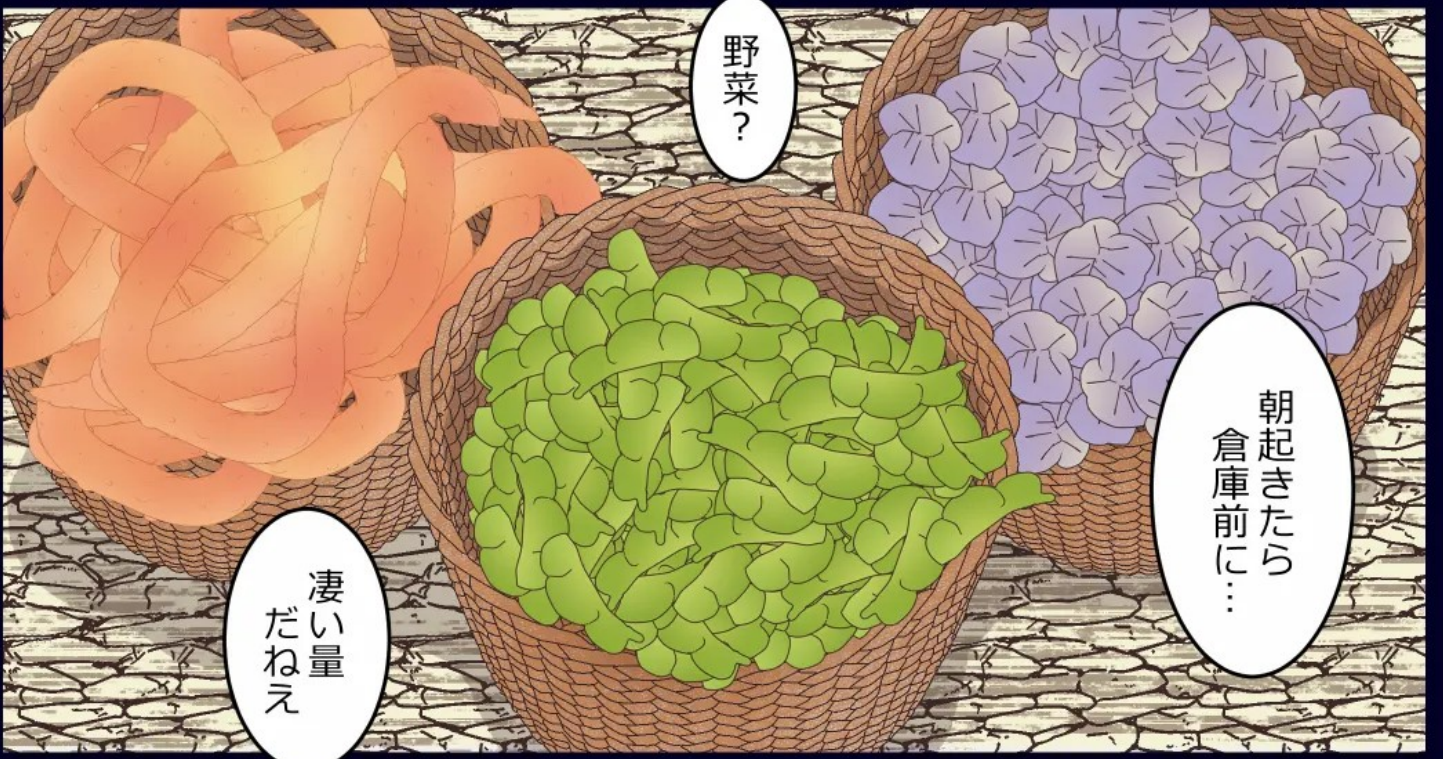
デカイ生ハムだ！

すごい...

A large ham is the central focus of the image, rendered in shades of brown and red to show its texture. It is set against a dark background and framed by an ornate, white, Art Nouveau-style border. The frame has intricate scrollwork and floral motifs at the corners and midpoints. The text is placed within the frame, flanking the ham.

その大きな実の一つを  
切ってみれば子供達が  
何時か食べたいと憧れる  
巨大な生ハムとなった。  
孤児院で肉は祝賀日以外で  
食べられない貴重なモノだ。

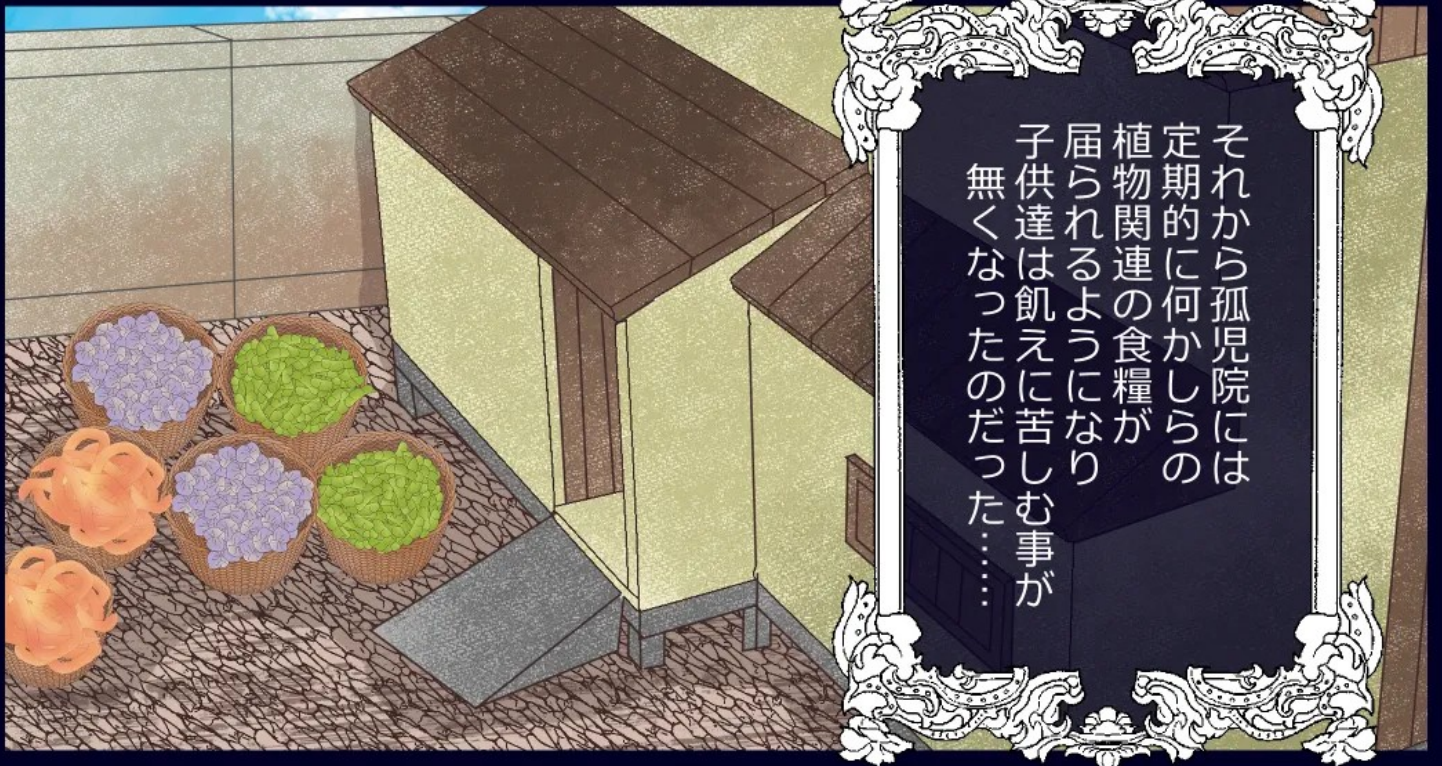
正確には肉ではなく  
バロメツツという  
不思議植物であったが  
子供達は大喜び。  
今年の祝賀日は  
盛大に祝える事だろう。



野菜？

朝起きたら  
倉庫前に…

凄い量  
だねえ



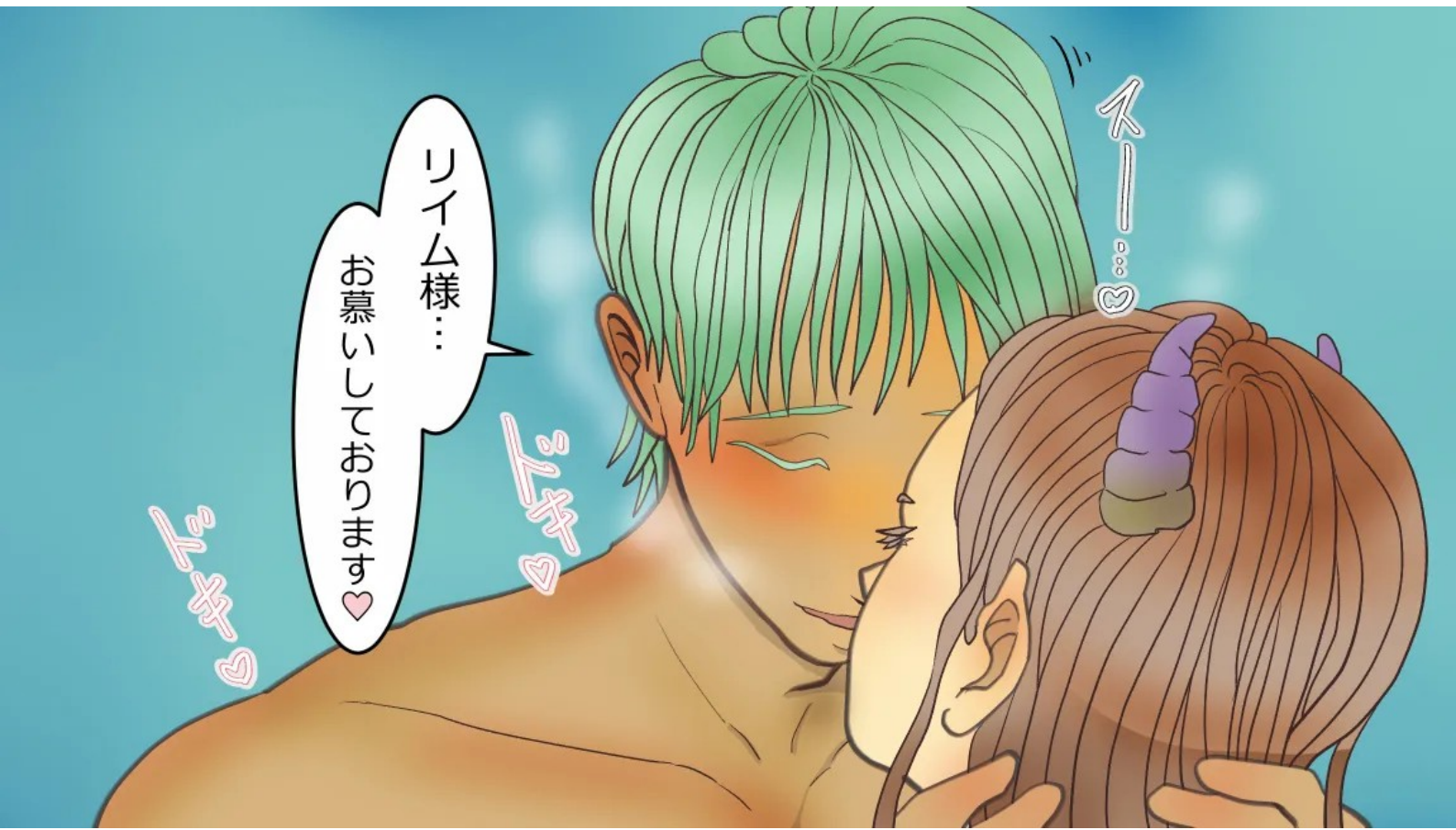
それから孤児院には  
定期的に何かしらの  
植物関連の食糧が  
届られるようになり  
子供達は飢えに苦しむ事が  
無くなったのだった……



四話目 おわり  
《祝賀祭の贈り物》

後日談  
《親密な夜》





リイム様...

お慕いしております♡

スー...♡

ラブ♡

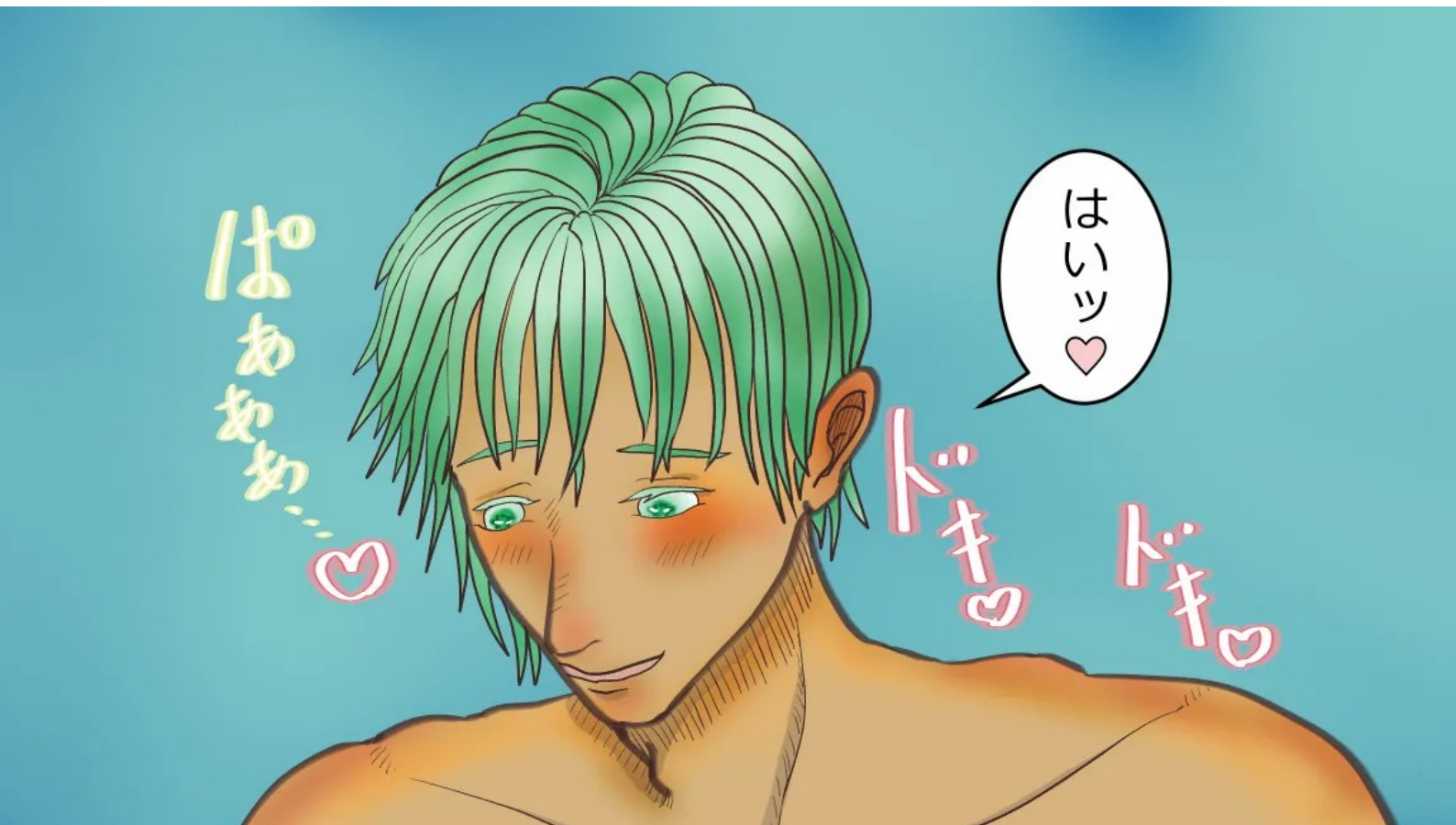
ラブ♡



ラノア

今日も愛して  
くれるのか

17...



はあああ



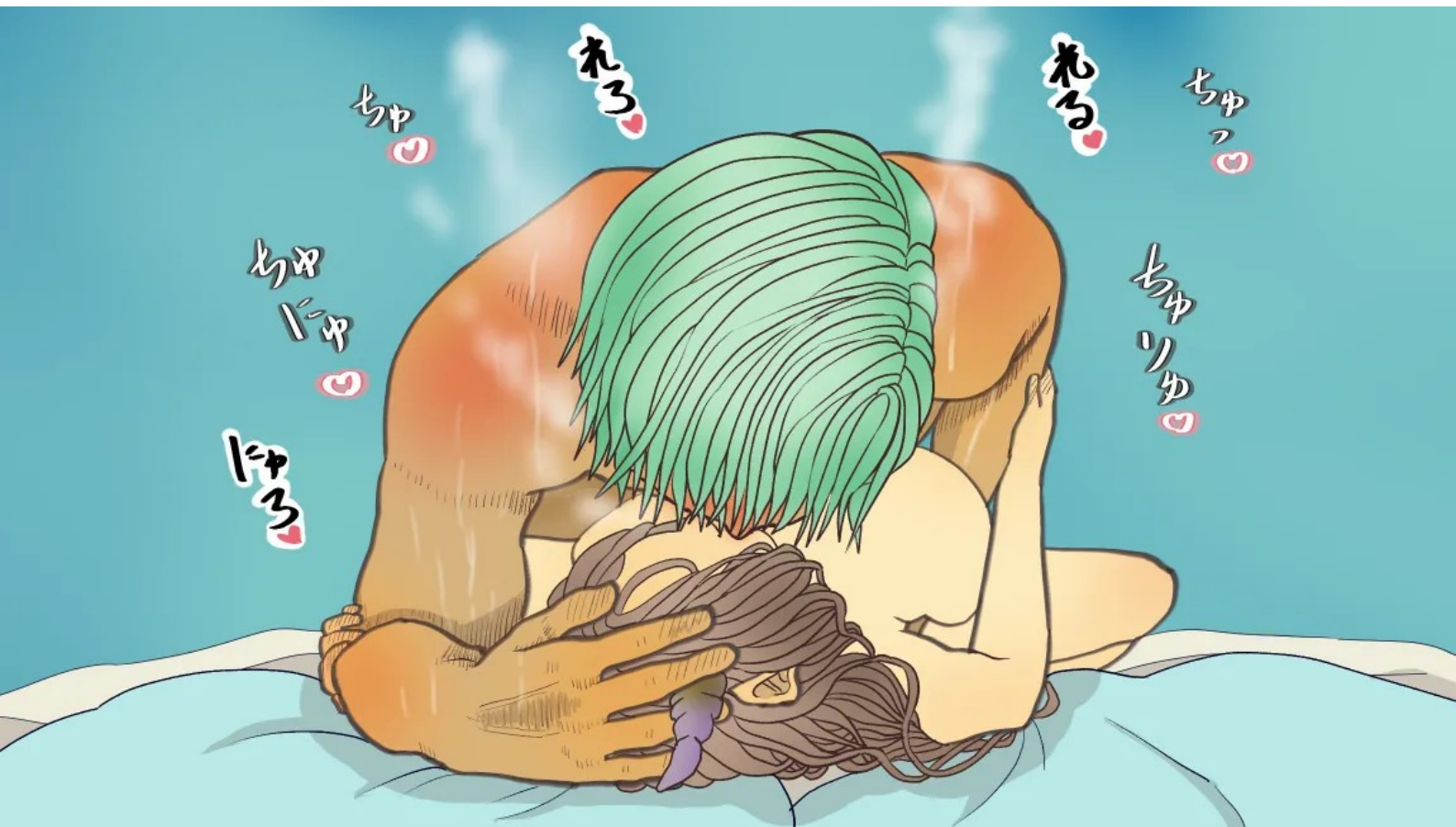
はこしん

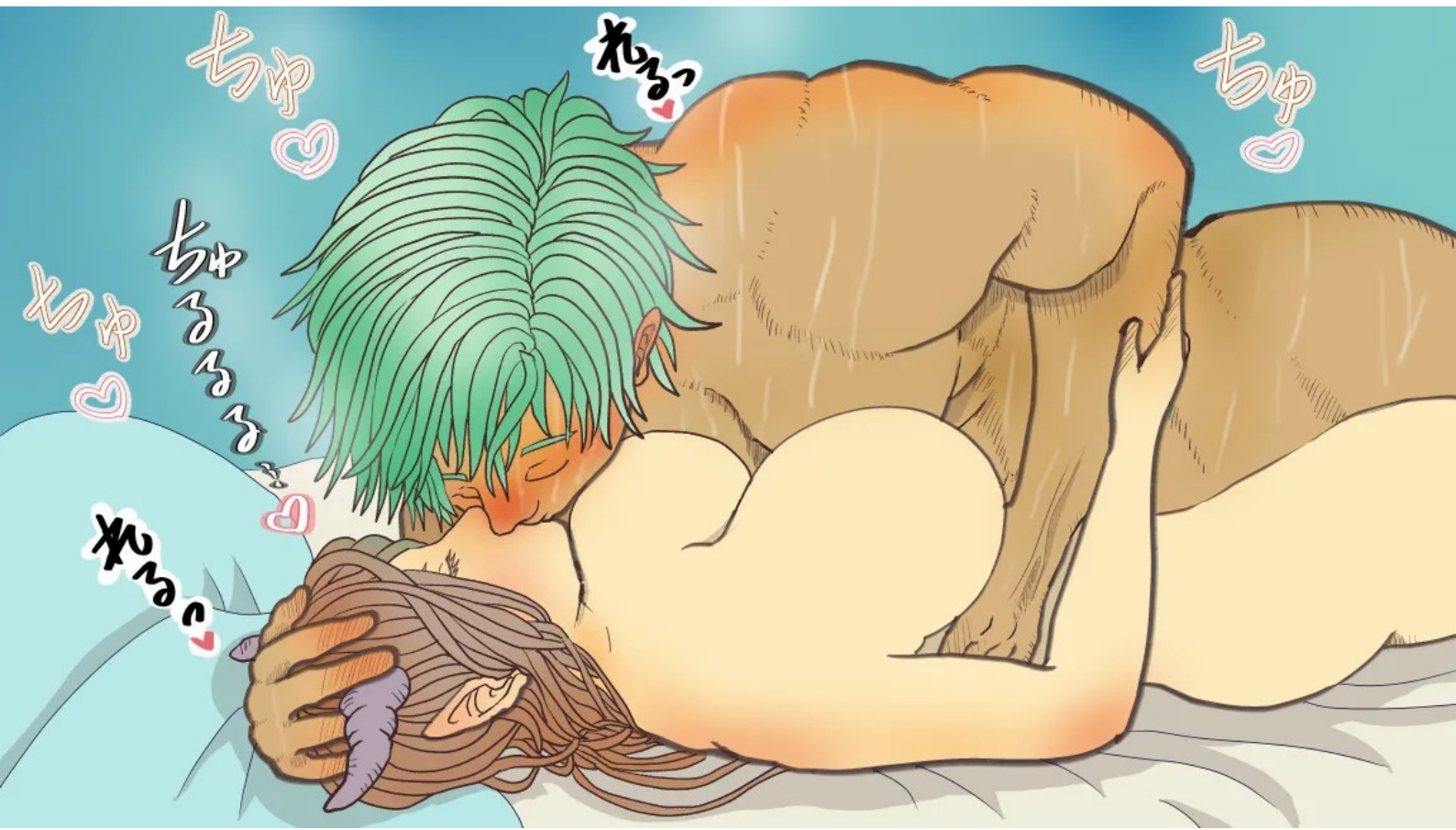


ドキ

ドキ









ちゅっ♡

ちゅっ♡

んっ♡

リイムさま



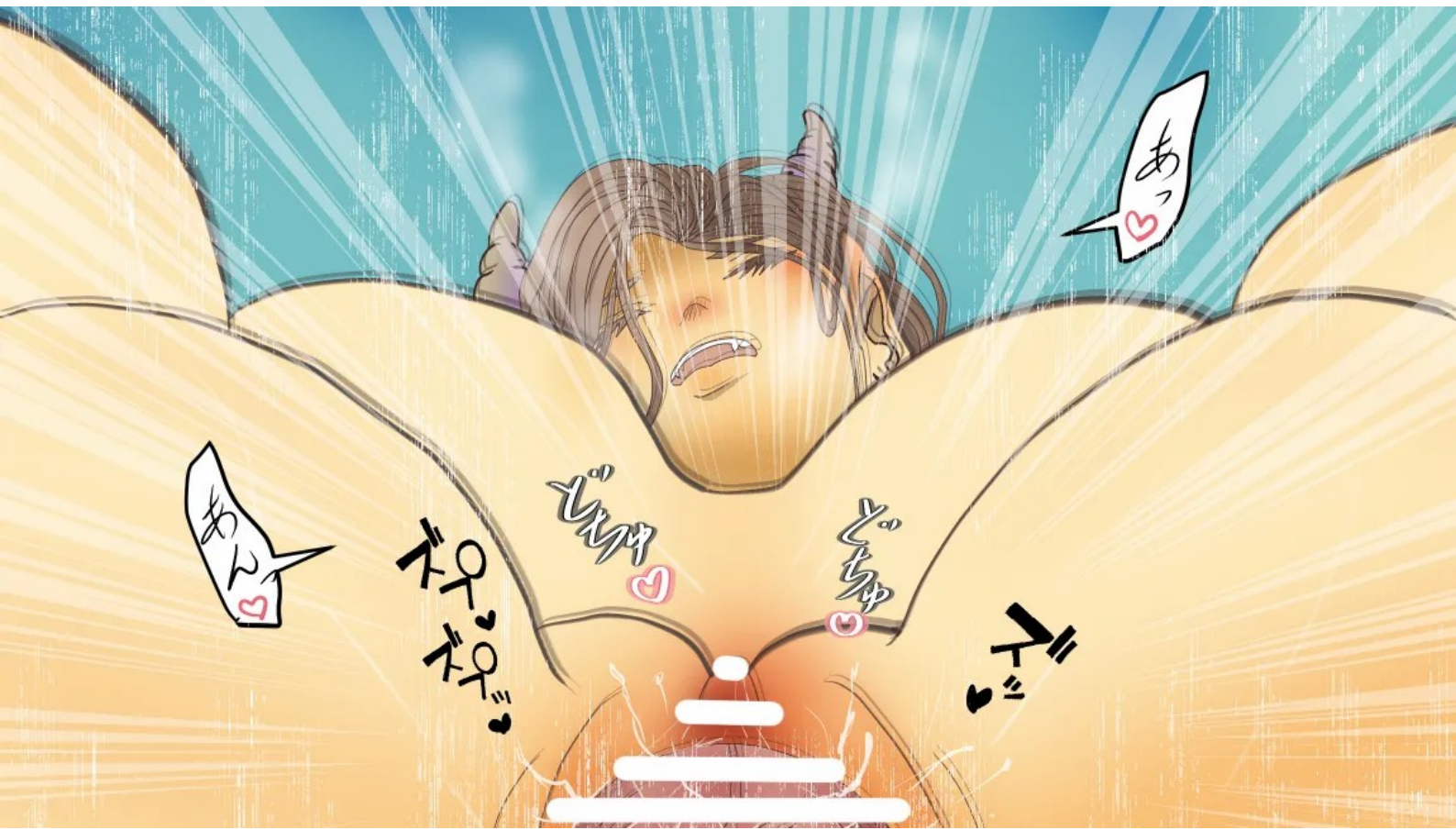




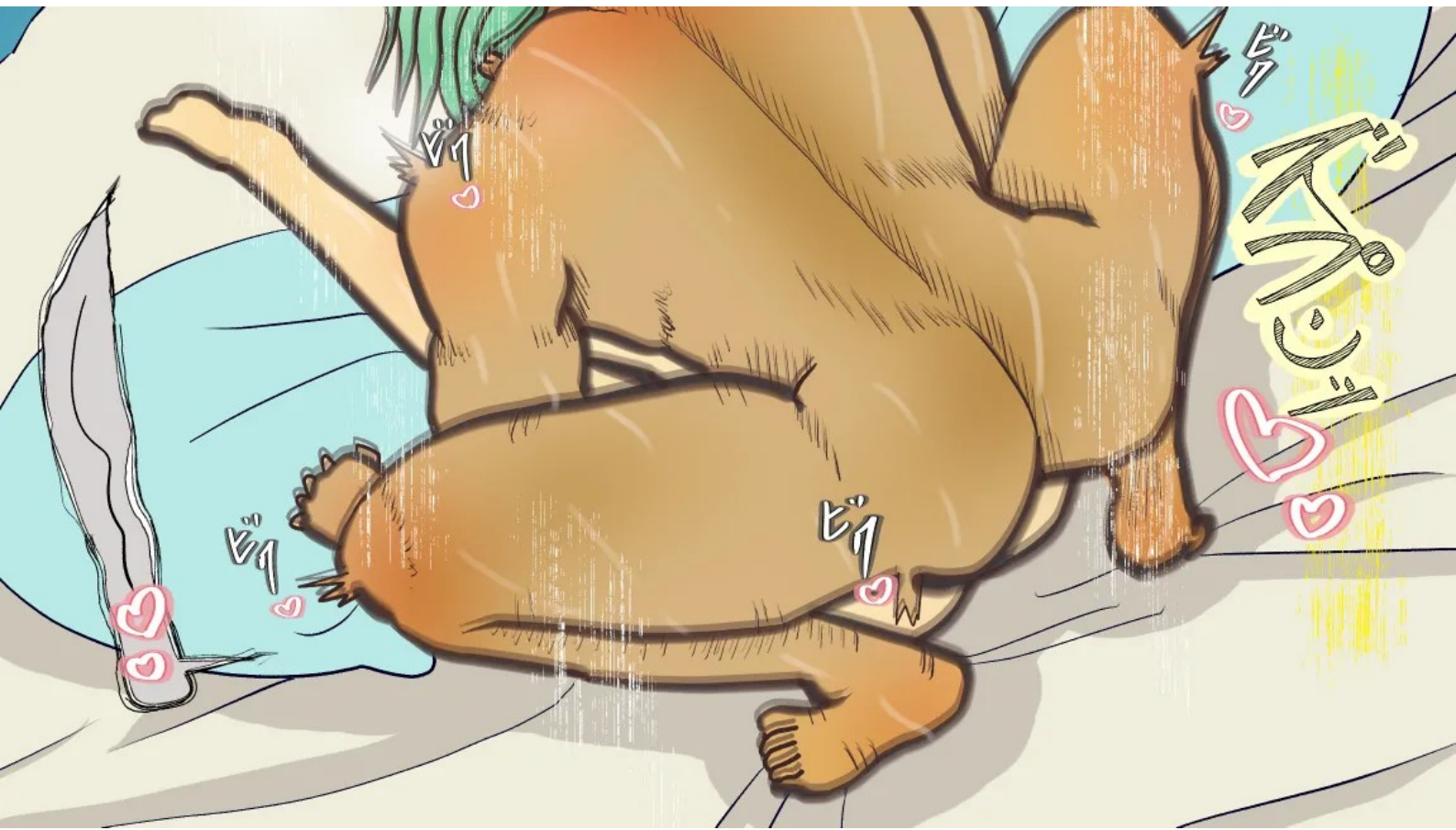




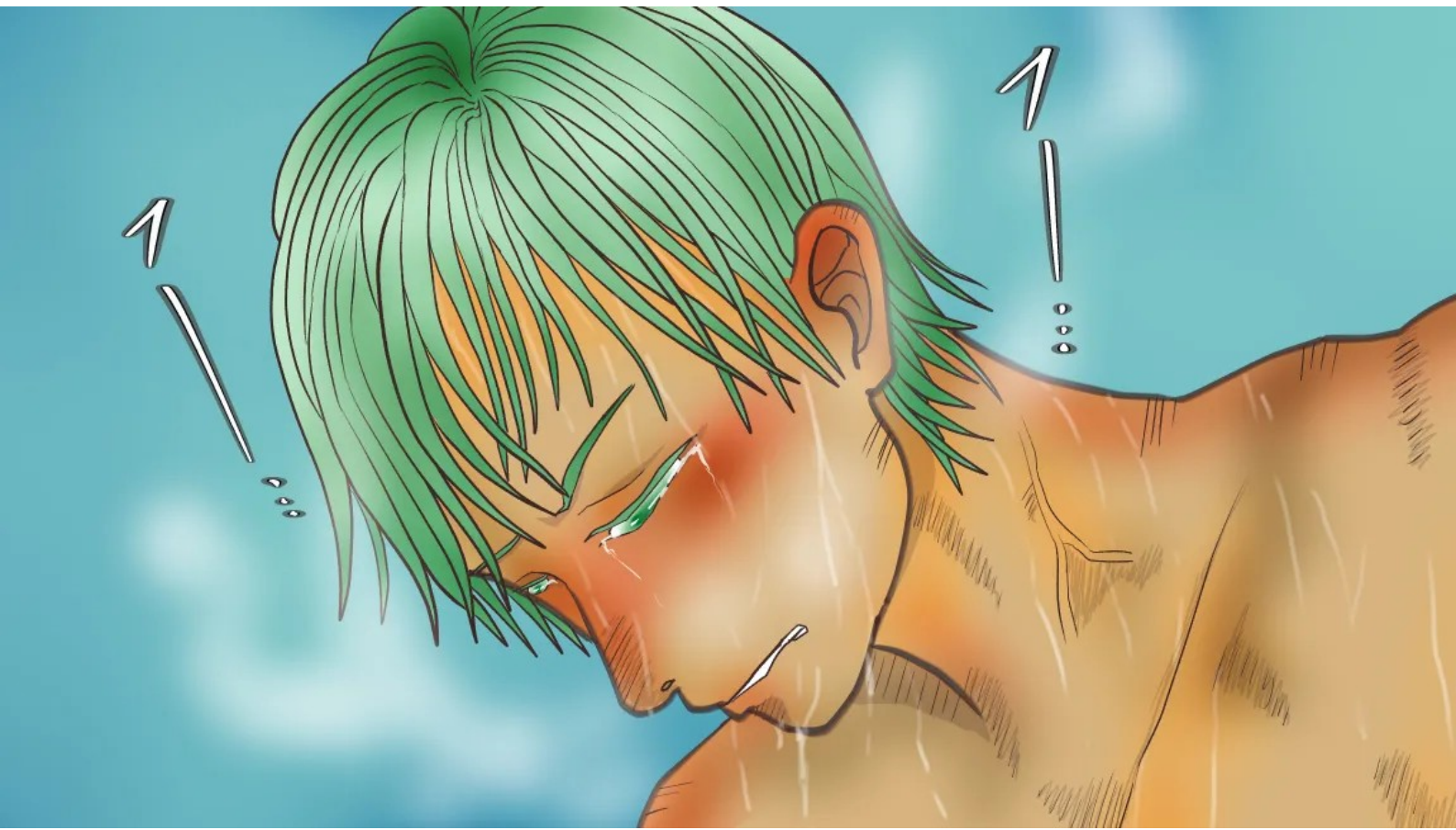




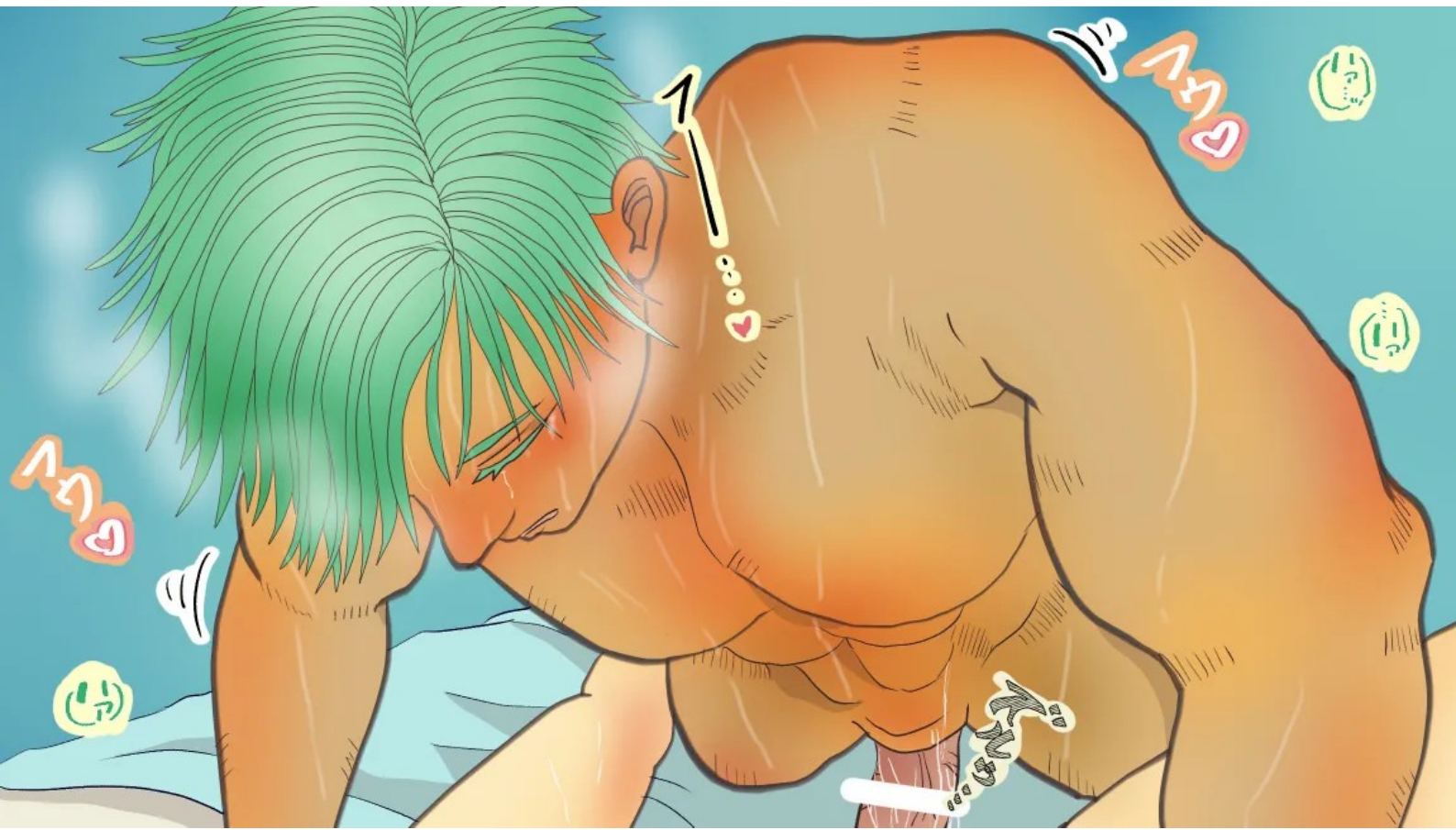


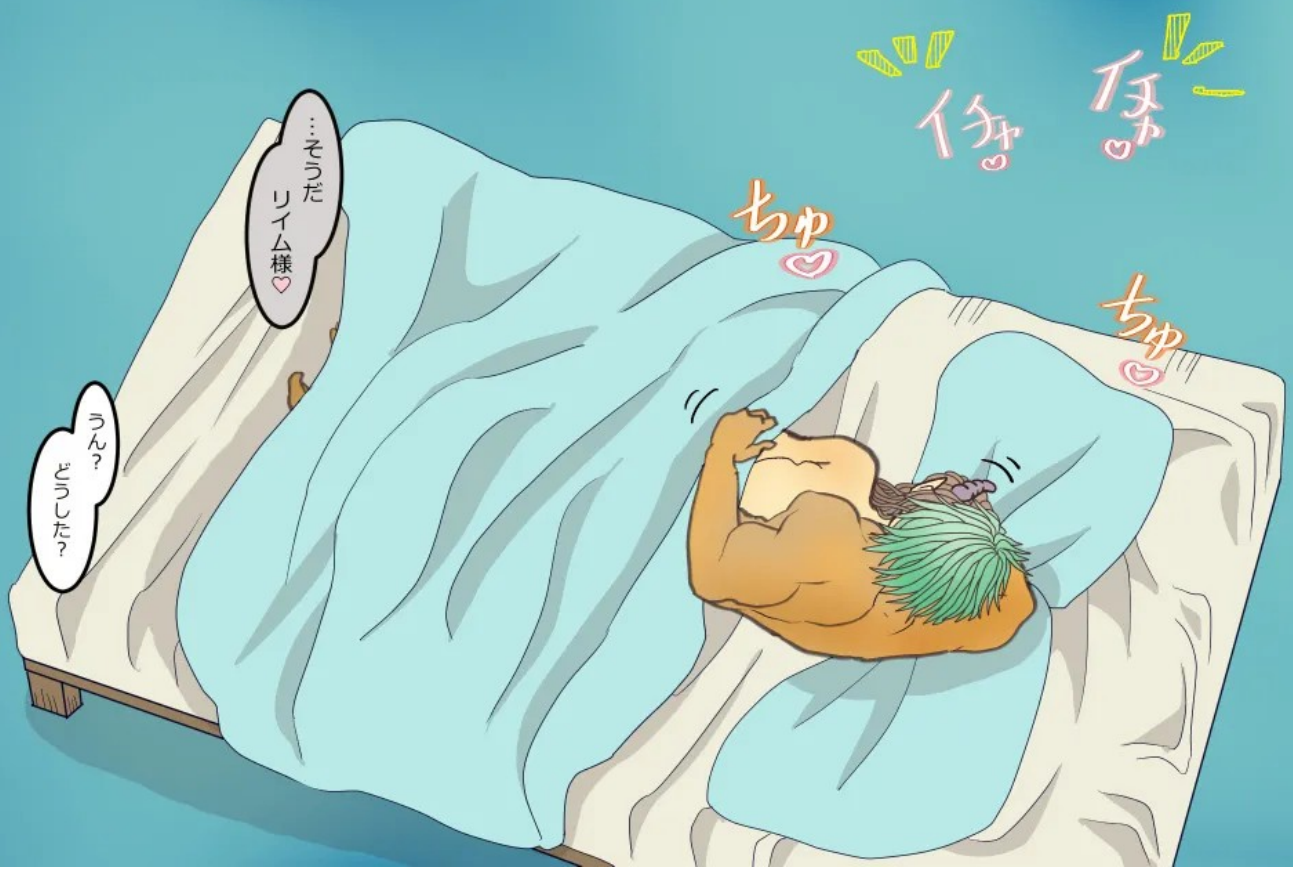












…そうだ  
レイム様♡

うん？  
どうした？

イェイ  
イェイ

ちゅ♡

ちゅ♡



リイム様のおかげで  
アイツらの肉付きが  
良くなりました♡

ほう？

子供が食えぬのは  
嫌なものだからな



ですね♡

俺の女神様は  
今日も優しく  
可愛くて…

X O ♡

X O ♡



俺は幸せ  
者だな〜♡

グレ♡

グレ♡

後日談 おわり  
《親密な夜》



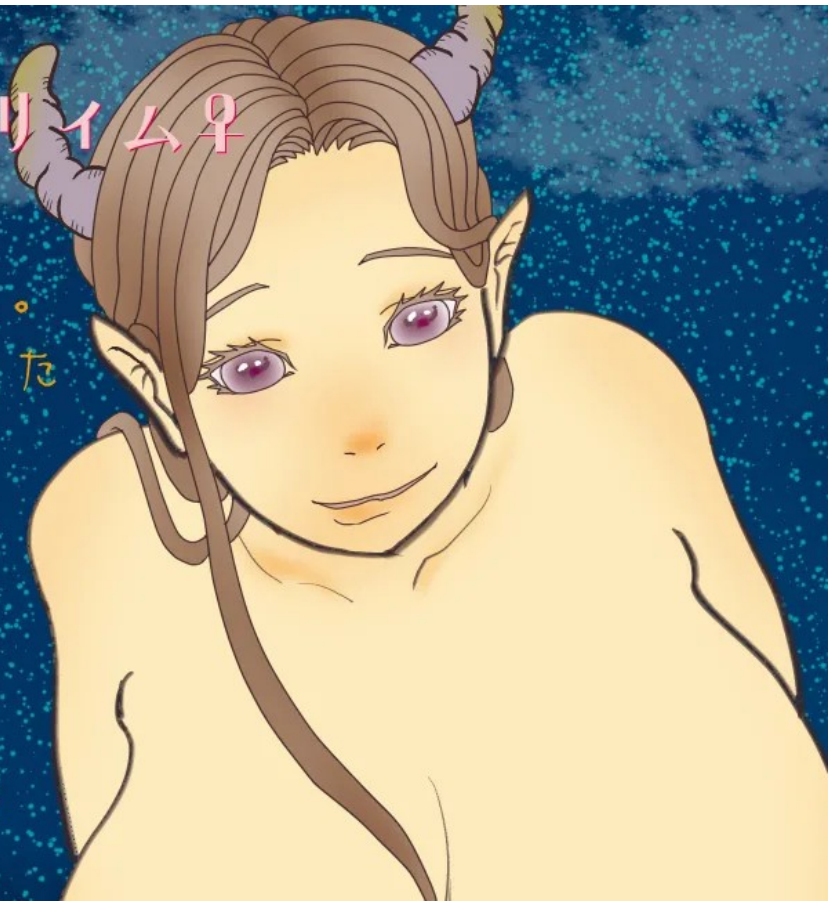


## ラノア♂

ふびんな人生だった為か  
優しくされて×ロ×ロ  
チヨロく惚れる。  
孤児出身の護兵。  
孤児院の子供達の為に  
日々頑張っていた。  
今は安定して食糧が  
贈れて、とても嬉しい。

## モウガルン・ワイーン・リウム♀

森の管理者。とても強い。  
代々、一族で管理していた  
森の最後の生き残り。  
性的な事が最初は  
分かっていなかったが  
今は理解して日々  
イチャイチャしている。



※本作品を無許可で、  
複製、複写する事は禁止しています。

筋肉ムキムキな青年を優しく手ほどきして  
あえいでくれたら可愛いなってなるので  
本編は出来る範囲で可愛くしました。  
ありがとうございました！

pixiv : 8224911

いば神田

